

全銀協手順通信プログラム

TCP/IP対応版(一次局)

操作説明書

日立ソリューションズ



■ 対象製品

ZGN-TCP/IP 03-10-/A

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則などの外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社または弊社販売店の担当窓口へお問い合わせください。

■ 商標類

© Windows<sup>®</sup> は米国 Microsoft Corp.の登録商標です。

© Visual C++<sup>®</sup>は米国 Microsoft Corp.の商標です。

© Visual Basic<sup>®</sup>は米国 Microsoft Corp.の商標です。

その他の製品名などの固有名詞は、各社の登録商標または商標です。

■ 発行

2011年 10月

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 1997, 2011, Hitachi Solutions, Ltd.

## はじめに

この度は、日立ソリューションズ製全銀協手順通信プログラム TCP/IP対応版（一次局）をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、日立ソリューションズ製全銀協手順通信プログラム TCP/IP対応版（一次局）の取り扱い方法およびプログラミング方法について述べたものです。

本書は、全銀協手順通信プログラム TCP/IP対応版（一次局）の操作説明書です。

### ■ 対象読者

本書は、ホストコンピュータとのデータ通信や、全銀協手順について熟知しているユーザーを対象に書かれています。

また、ホストコンピュータとのデータ通信や全銀協手順については、次のマニュアルが発行されておりますのでご購入をおすすめ致します。

全国銀行協会連合会 発行

■ 全銀協標準通信プロトコル -TCP/IP手順-

■ 全銀協標準通信プロトコル -ベーシック手順-

■ 全銀協パーソナル・コンピュータ用標準通信プロトコル -ベーシック手順-

全銀協手順通信プログラム TCP/IP対応版（一次局）は、全国銀行協会連合会（全銀協）が制定した「全銀協標準通信プロトコル -TCP/IP手順-」に基づき、パーソナル・コンピュータにエレクトロニック・バンキングサービスを提供するための通信制御プログラムです。

### ご注意

1. 本書及び本ソフトウェアは、製品改良のため適宜変更されることがあります。
2. 本ソフトウェアパッケージは1台のパーソナル・コンピュータにおいてのみ使用するものとし、複数台でのご使用は堅くお断り致します。
3. 本書は内容について万全を期しておりますが、万一不可解な点や誤り、お気づきのことがありましたら、ご一報くださいますようお願い致します。
4. 運用した結果の影響については、3項にかかわらず責任を負いかねますので、ご注意ください。
5. 本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。
6. 本書の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。

## ■ マニュアルの構成と概要

本書の構成と概要は、次のとおりです。

### 第1章 概要

全銀協手順通信プログラムについて説明しています。

### 第2章 製品構成

本製品の構成について説明しています。

### 第3章 ユーティリティプログラムの操作方法

ユーティリティプログラムの操作方法について説明しています。

### 第4章 登録名称の設定について

通信を実行する為に必要な登録名称の設定する項目について説明しています。

### 第5章 スケジュール監視とWindowsサービス

スケジュール監視とWindowsサービスについて説明しています。

### 第6章 通信実行時の動作と終了情報

通信を実行している状態と終了情報について説明しています。

### 第7章 エラー処理について

通信中に発生したエラーについて説明しています。

### 第8章 トレース

トレースについて説明しています。

### 第9章 ライブラリの使用方法

提供ライブラリの使用方法について説明しています。

### 第10章 登録名称のバックアップ

登録名称のバックアップ方法について説明しています。

### 第11章 状態遷移表

本製品の状態遷移表を記載します。

### 付録A 全銀協標準通信プロトコル –TCP/IP手順の概要–

「全銀協標準通信プロトコル –TCP/IP手順–」(全国銀行協会連合会 発行)より、本製品に関係が深い部分を抜粋し掲載しています。

### 付録B コード表

EBCDICコードおよびJIS8コードのコード表を掲載しています。

### 付録C 制限値

本製品を使用するにあたっての制限内容を説明しています。

### 付録D 補足

### 付録E 外部設定ファイル

外部設定ファイルについて説明しています。

# << 目 次 >>

## 第1章 概要

- 1.1 全銀協手順通信プログラムの概要..... W1-1
- 1.2 適用モデム・ターミナルアダプタ(TA) ..... W1-2

## 第2章 製品構成

- 2.1 製品構成..... W2-1

## 第3章 ユーティリティプログラムの操作方法

- 3.1 操作方法..... W3-1
- 3.2 二次局からの操作について..... W3-2

## 第4章 登録名称の設定について

- 4.1 登録名称の設定..... W4-1
- 4.2 通信を実行するための条件設定 ..... W4-2
- 4.3 通信条件の設定..... W4-3
- 4.4 パスワードの設定 ..... W4-7
- 4.5 接続条件の設定..... W4-11
- 4.6 ダイヤルアップ認証の設定 ..... W4-17
- 4.7 ガイダンスの設定 ..... W4-18
- 4.8 その他の設定 ..... W4-19
- 4.9 トレースの設定..... W4-21

## 第5章 スケジュール監視とWindowsサービス

- 5.1 Windowsサービスとして動作させる..... W5-1
- 5.2 スケジュール監視の設定 ..... W5-5
- 5.3 スケジュール編集 ..... W5-6
- 5.4 スケジュール監視の開始／停止 ..... W5-8

## 第6章 通信実行時の動作と終了情報

- 6.1 実行時の登録名称選択..... W6-1
- 6.2 直接、登録名称を指定する方法 ..... W6-2
- 6.3 旧フォーマットの終了情報出力..... W6-3
- 6.4 実行時の状態..... W6-4
- 6.5 終了情報ファイルの構成..... W6-9
- 6.6 終了情報の選択..... W6-11
- 6.7 終了情報の表示..... W6-12

## 第7章 エラー処理について

- 7.1 エラーが発生した理由と対策方法..... W7-1

## 第8章 トレース

- 8.1 トレースの内容について ..... W8-1

## 第9章 ライブラリの使用方法

|  |      |
|--|------|
| 9.1 <i>ZgnTransGroup</i> (通信実行関数) .....              | W9-1 |
| 9.2 <i>ZgnConfig</i> (通信条件設定関数) .....                | W9-2 |
| 9.3 <i>ZgnEndInfoGroup</i> (通信結果表示関数) .....          | W9-3 |
| 9.4 <i>ZgnDirectTransGroup</i> (パラメータ渡し通信実行関数) ..... | W9-4 |
| 9.5 <i>ZgnTrans</i> (通信実行関数) .....                   | W9-5 |
| 9.6 <i>ZgnEndInfo</i> (通信結果表示関数) .....               | W9-6 |
| 9.7 <i>ZgnDirectTrans</i> (パラメータ渡し通信実行関数) .....      | W9-7 |
| 9.8 構造体フォーマット .....                                  | W9-8 |

## 第10章 登録名称のバックアップ／リカバリ

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 10.1 登録名称設定のバックアップ／リカバリ ..... | W10-1 |
| 10.2 登録名称のCSVファイルフォーマット ..... | W10-2 |

## 第11章 状態遷移表

|                  |       |
|------------------|-------|
| 11.1 状態遷移表 ..... | W11-1 |
|------------------|-------|

## 付録A 全銀協標準通信プロトコル *—TCP/IP手順の概要—*

### 付録B コード表

### 付録C 制限値

### 付録D 補足

### 付録E 外部設定ファイル

# 第1章 概要

---

この章では、本製品の概要について説明します。

## 1.1 全銀協手順通信プログラムの概要

全銀協手順通信プログラムは、ホストコンピュータ(センター側)と通信回線やLANを介してパソコン・ファームバンキング・オンラインデータ交換を行う、パーソナル・コンピュータ側(一次局)の通信プロトコルをサポートするソフトウェアパッケージです。(以下、全銀協手順通信プログラムを“全銀プログラム”と略記します)

### (1) 運用方法

運用方法には、次の2つの方法があります。

- 製品パッケージに含まれているユーティリティを使用する方法
- 業務プログラムから呼び出し実行する方法(DLLコール)

### (2) 適用業務

全銀プログラムを利用することにより、銀行とその取引先企業間での預金残高照会や口座振込、あるいは預金口座の入出金明細データ等の連絡または照会業務等のオンライン交換業務を実現します。

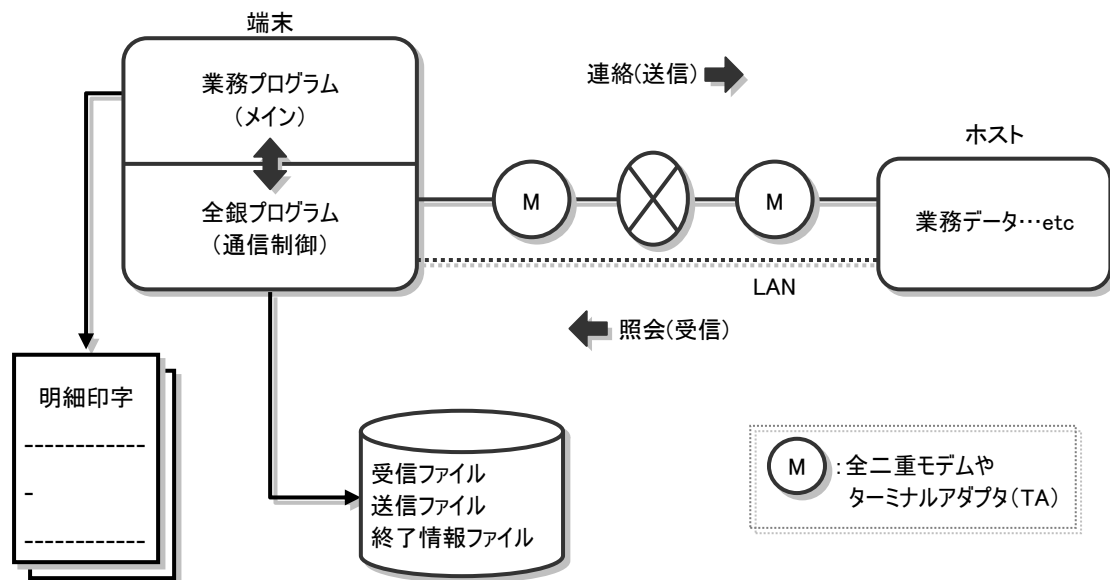


図1.1 業務概要図



## 1.2 適用モデム・ターミナルアダプタ(TA)

本製品で使用可能なモデムおよびターミナルアダプタ(TA)の標準的な通信インターフェース仕様を参考として以下に示します。

### ■全二重モデム

[基本仕様]

|            |  |
|------------|--|
| 回線インターフェース | アナログインターフェース(一般公衆電話網)                        |
| 通信方式       | 全二重  |
| 同期方式       | 調歩同期式(非同期)                                   |
| 通信速度       | 300~33,600bps                                |
| 通信規格       | ITU-T V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21 準拠 |

[拡張仕様]

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| エラー訂正 | MNP Class4,Class10/ITU-T V.42 準拠 |
| データ圧縮 | MNP Class5/ITU-T V.42bis 準拠      |

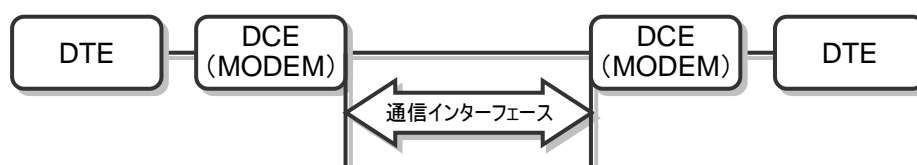
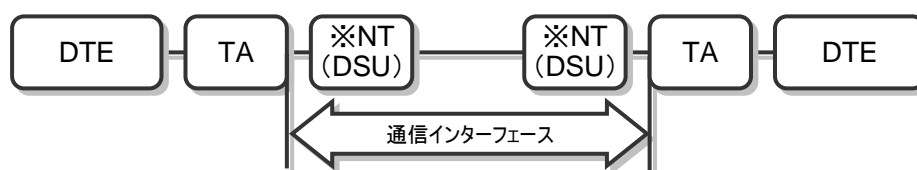


図1.2 全二重モデムの接続形態

### ■ターミナルアダプタ(TA)

|            |                                   |                          |
|------------|-----------------------------------|--------------------------|
| 回線インターフェース | INS インターフェース                      |                          |
| 通信速度       | 非同期                               | ~19.2kbps (~57.6kbps *1) |
|            | 同期                                | 64kbps(128kbps *2)       |
| 速度整合方式     | ITU-T V.110 準拠*3, 同期-非同期 PPP 変換機能 |                          |



※NT … Network Terminal の略、網終端装置。

図1.3 TAの接続形態

- \*1 一部に 57.6kbps に対応した機種がある。
- \*2 DTE-TA 間が非同期接続の形態でバルク転送(128kbps)を行うには、TA が同期-非同期 PPP 変換機能を実装している必要がある。
- \*3 非同期通信での速度整合方式 ITU-T V.120 に準拠する機種もある。

## 第2章 製品構成

---

この章では、本製品の構成について説明します。

## 2.1 製品構成

購入された本製品が、以下の内容であることを確認してください。

| No. | 確認項目                                    | 数量  |
|-----|---|-----|
| 1   | ソフトウェア添付資料                              | 3 枚 |
| 2   | 全銀協手順通信プログラムTCP/IP対応版(一次局)インストール CD-ROM | 1 枚 |
| 3   | 操作説明書(本書) CD-ROM                        | 1 枚 |
| 4   | 使用権許諾書                                  | 1 部 |

### ■インストールされるファイルの内容

| No. | プログラム名           | 説明                        |
|-----|------------------|---------------------------|
| 1   | ZTCPUTIL.EXE     | ユーティリティプログラム              |
| 2   | ZTCPTRAN.EXE     | 通信実行プログラム                 |
| 3   | ZTCPTRAN_OLD.EXE | 通信実行プログラム(旧フォーマット)        |
| 4   | ZTCPICON.EXE     | スケジュール監視プログラム             |
| 5   | ZCNV32.EXE       | コード変換プログラム(EBCDIC⇔JIS8変換) |
| 6   | ZTCPCNF.DLL *1   | 通信条件設定DLL                 |
| 7   | ZGNTCP.DLL *1    | 通信実行用DLL                  |
| 8   | HATCP3.DLL *1    | 通信制御用DLL                  |
| 9   | HACNV32.DLL *1   | コード変換用DLL                 |
| 10  | ZTSRVMGR.EXE     | Windowsサービス管理用プログラム       |
| 11  | ZTSRV.EXE        | Windowsサービス用実行プログラム       |
| 12  | ZTCP.CHM *1      | オンラインヘルプファイル              |

\*1 Windows/System下にインストールされます。

### ■セットアップについて

- ・ インストール用CD-ROM内の Setup.exe を実行してインストールを行ってください。
- ・ OSによっては、インストールに管理者権限を必要としますので、その場合は管理者権限でログインしてインストールを行ってください。

## ※ Windows のデータ実行防止 (DEP) 機能について

ご使用の PC によっては、Windows のデータ実行防止 (DEP) 機能によってプログラムが強制終了する可能性があります。その際、OS のイベントログのアプリケーション領域には以下のようなエラーログが出力されます。

エラー発生アプリケーション ztsrv.exe、バージョン 3.0.0.0、エラー発生モジュール unknown、バージョン 0.0.0.0、エラー発生アドレス 0x00000000

このような場合には、以下の手順で該当プログラムをデータ実行防止機能の例外に設定してください。(Windows<sup>®</sup>XPの場合)

- (1) コントロールパネルから「システム」を開きます。
- (2) 「システムのプロパティ」ダイアログから[詳細設定]タブを開き、**設定(S)** ボタンをクリックします。
- (3) 「パフォーマンス オプション」ダイアログから[データ実行防止]タブを開きます。
- (4) **追加(D)** ボタンをクリックし、該当のプログラムを選択する。
- (5) 一覧に追加したプログラムがあり、チェックがついていること確認し、**OK** ボタンをクリックします。

## 第3章 ユーティリティプログラムの操作方法

---

この章では、ユーティリティプログラムの操作方法について説明しています。

### 3.1 操作方法

ユーティリティプログラムを起動すると、下図のような画面が表示されます。この画面から全銀一次局のほとんどの機能を操作することが出来ます。各機能の詳細については、以降の章をご参照ください。

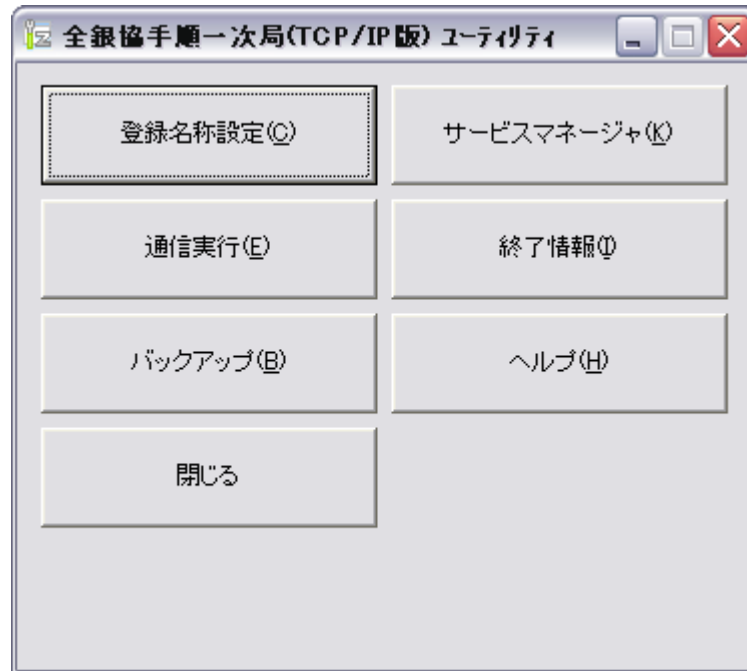


図3.1 ユーティリティプログラムの起動画面

- **登録名称設定(C)** ..... 通信を実行するために必要な登録名称を設定します。 ⇒ 【第4章】
- **サービスマネージャ(K)** . サービスマネージャ(スケジュール監視用)プログラムを起動します。 ⇒ 【第5章】
- **通信実行(E)** ..... 通信を実行します。 ⇒ 【第6章】
- **終了情報(I)** ..... 通信の終了情報を表示します。 ⇒ 【第6章】
- **バックアップ(B)** ..... 登録名称のバックアップを行います。 ⇒ 【第10章】
- **ヘルプ(H)** ..... オンラインヘルプを表示します。
- **閉じる** ..... ユーティリティプログラムを終了します。

### **3.2 二次局からの操作について**

---

本製品を当社製全銀協手順通信プログラムTCP/IP版(二次局)と同じディレクトリへインストールした場合、全銀二次局より、全銀一次局のユーティリティと同等の操作ができるようになります。

## 第4章 登録名称の設定について

---

この章では、通信を実行するために必要な登録名称の設定する項目について説明します。



## 4.1 登録名称の設定

全銀一次局より通信を実行するための登録名称を設定します。

登録名称はグループとしてまとめて管理することができます。一つのグループに最大50件まで登録でき、グループは最大100種類まで登録することができます。

設定した内容はシステムディレクトリ(例:Windows/System)に以下のファイル名で保存されます。

- ・ ZTCPGRP.INI : グループ設定
- ・ ZGNTCP.INI : 登録名称設定(グループ001)
- ・ ZGNTCP001.INI~ZGNTCP099.INI : 登録名称設定(グループ002~100)



図4.1 登録名称の設定画面

### (1) 登録名称設定

- **条件設定(C)...** ..... 既に登録された項目を修正します。
- **追加(A)...** ..... 登録名称を追加します。
- **▲ ▼** ..... 登録順を変更します。
- **削除(D)** ..... 登録された項目を削除します。

### (2) グループ名称設定

- **設定(G)...** ..... 未定義のグループに対し新規にグループを定義します。
  - **名称変更(N)...** ..... 登録されたグループ名を変更します。
  - **削除(U)** ..... 登録されたグループを削除します。
  - **コピー(W)...** ..... グループをコピーします。
- 
- **ヘルプ(F1)** ..... 登録名称の設定に関するオンラインヘルプを表示します。
  - **閉じる** ..... 登録名称の設定を終了します。

## 4.2 通信を実行するための条件設定

ここでは、通信条件を設定します。通信を実行するための条件は表4.1に示す通り7種類に分類されます。

表4.1 設定項目一覧

| 項番 | 項目        | 設定項目                      |
|----|-----------|---------------------------|
| 1  | 通信条件      | 通信に関する条件を設定します。           |
| 2  | パスワード     | 制御電文に編集するパスワード等の条件を設定します。 |
| 3  | 接続条件      | 接続に関する条件を設定します。           |
| 4  | ダイヤルアップ認証 | ダイヤルアップ接続する際の認証情報を設定します。  |
| 5  | ガイダンス     | 通信中に表示するガイダンスメッセージを設定します。 |
| 6  | その他       | 実行時の状態や終了情報の保存方法等を設定します。  |
| 7  | トレース      | トレース情報取得の有無を設定します。        |

この画面では下図のように、設定項目を選択し画面を切り替えて条件を設定します。

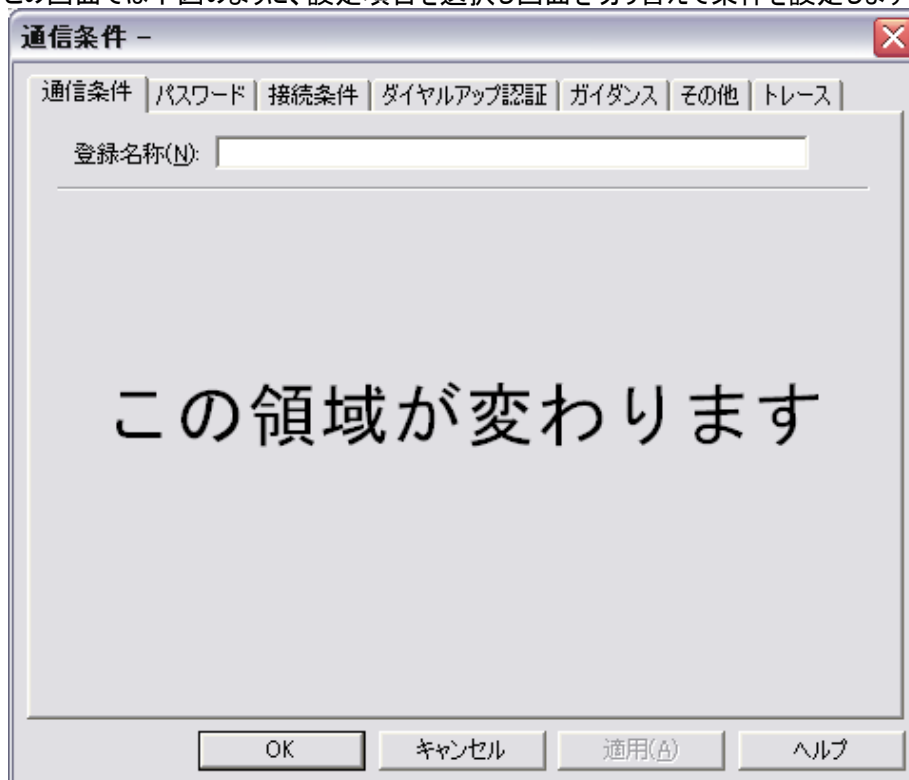


図4.2 設定項目共通画面

- **登録名称** ..... 登録名称の名前を設定します。
- **OK** ..... 設定した条件を保存して、一覧画面に戻ります。
- **キャンセル** ..... 条件を保存せず、一覧画面に戻ります。
- **適用(A)** ..... 設定した条件を保存します。一覧画面には戻りません。
- **ヘルプ** ..... 各設定項目に関するオンラインヘルプを表示します。

## 4.3 通信条件の設定

ここでは、通信モードや電文長、伝送ファイル等、通信に関する条件を設定します。

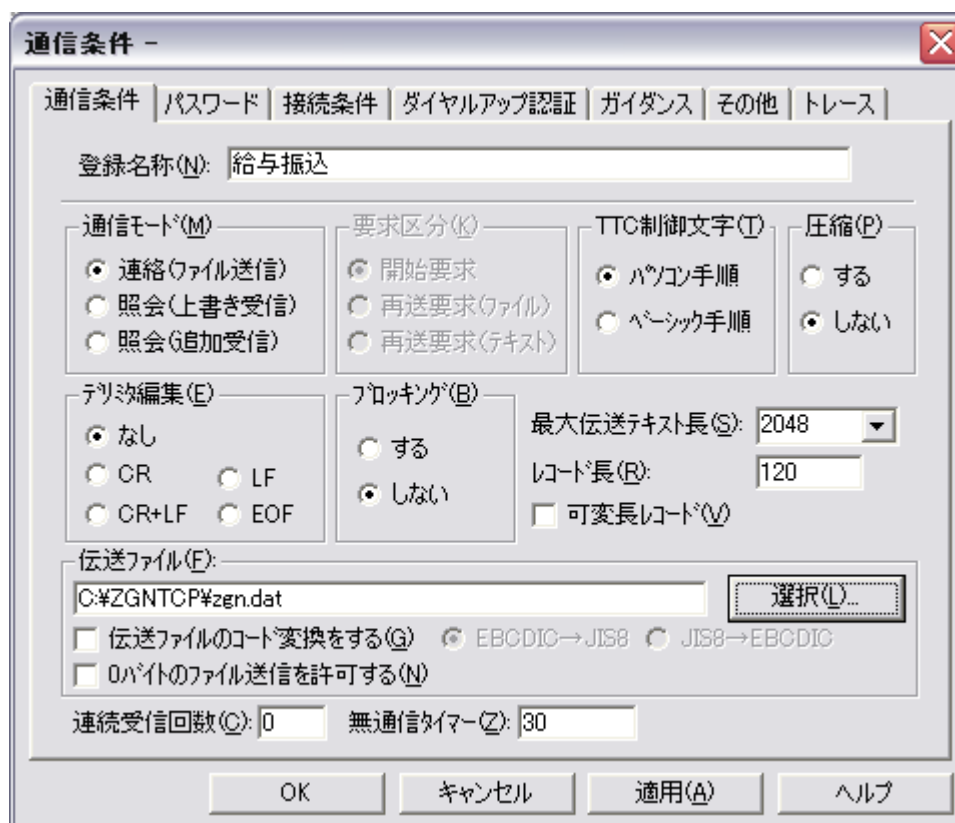


図4.3 通信条件の設定画面

### (1) 通信モード

通信の伝送方向を設定します。

- **連絡(ファイル送信)** ..... パソコン側のファイルをホストコンピュータへ送信します。
- **照会(上書き受信)** ..... ホストコンピュータからデータを受信し、パソコン側の指定ファイルへ上書きします。
- **照会(追加受信)** ..... 照会(上書き受信)と同様に受信しますが、指定ファイルが存在する場合は、ファイルの最後に追加して保存します。

### (2) 要求区分

照会時に制御電文に編集する要求区分を設定します(連絡の場合は二次局の設定に従います)。開始要求／再送要求(ファイル単位)／再送要求(テキスト単位)のいずれかを設定します。

#### テキスト単位の再送

照会時に通信エラーになった場合、その時点の受信状態を保存しておき、次の通信で前回伝送失敗したテキスト位置から再送を行います。登録名称の設定を変更した場合は、その登録名称の前回受信状態情報はクリアされ、テキスト単位の再送を行ってもテキストの先頭より再送が行われます。

大容量のファイルを扱う場合は、TTC テキスト件数がラウンドアップしないように「最大伝送テキスト長」の設定値を大きくし、「ブロッキング」をするようにして伝送を行うようにしてください。(TTC テキスト件数がラウンドアップすると再送が正しく行えません。)

### (3) TTC制御文字

TTCに編集する制御文字体系を指定します。

- **パソコン手順**.....パソコン手順用のTTC制御文字を使用して伝送します。
- **ベーシック手順**.....ベーシック手順用のTTC制御文字を使用して伝送します。

### (4) 圧縮

送受信テキストの圧縮有無を指定します。

- **する**..... 伝送ファイルを圧縮してファイルを送受信します。連絡時、送信ファイルが圧縮指定の場合、予め圧縮のチェックを行い、伝送可能かを判別します。この時、伝送データがテキスト長内に収まり切れなかった場合や、レコード長が30バイト未満の場合は、「**圧縮エラー**」にして伝送を行いません。  
また、照会の場合は、受信した圧縮データが正しく復元できない時、その時点で伝送を中止します。
- **しない**..... 伝送ファイルを圧縮せずそのまま送受信します。

### (5) デリミタ編集

伝送ファイルのデリミタ編集方法を設定します。

#### ■ 連絡の場合

- ・ **なし**..... 伝送ファイルをそのまま送信します。
- ・ **CR**..... 伝送ファイルからCR文字(0x0D)を抜き取り送信します。
- ・ **CR+LF**..... 伝送ファイルからCR文字(0x0D)とLF文字(0x0A)を抜き取り送信します。
- ・ **LF**..... 伝送ファイルからLF文字(0x0A)を抜き取り送信します。
- ・ **EOF**..... ファイルの最後がEOFコード(0x1A)の場合、このコードを抜き取り送信します。

#### ■ 照会の場合

- ・ **なし**..... 受信テキストをそのまま保存します。
- ・ **CR**..... 受信テキストをレコード長単位にCR文字(0x0D)を付加して保存します。
- ・ **CR+LF**..... 受信テキストをレコード長単位にCR+LF文字(0x0D0A)を付加して保存します。
- ・ **LF**..... 受信テキストをレコード長単位にLF文字(0x0A)を付加して保存します。
- ・ **EOF**..... ファイルの最後にEOFコード(0x1A)を付加して保存します。

## (6)ブロッキング

この設定は連絡(ファイル送信)のとき有効になり、送信データレコードのブロッキングをする／しないを設定します。

### ■する

ブロッキングが指定されると1伝送ブロックの中に複数個のレコードを編集して連絡(ファイル送信)を行います。最大伝送テキストを256バイトにした場合、1伝送ブロック中のデータ電文は、全銀協規定のTTC(伝送テキストコントロール)部の5バイトを含め最大256バイトになります。よって、ブロッキングされるレコード数は $251 \text{バイト} \div \text{レコード長の商の値} n \text{件}$ となります。この時のデータ電文長は、 $(\text{レコード長} \times n + 5 (\text{TTC部})) \text{バイト}$ となります。送信データの総バイト数がレコード長で割り切れない場合、最後のレコードにはFILLER(スペース、0x20)が自動的に付加されます。ブロッキングの例を[例1]に示します。

[例1] レコード長 = 80バイト

|            |      |                  |                  |                  |
|------------|------|------------------|------------------|------------------|
| SH         | TTC部 | レコード1<br>(80バイト) | レコード2<br>(80バイト) | レコード3<br>(80バイト) |
| ← 245バイト → |      |                  |                  |                  |

送信データの総バイト数がレコード長で割り切れない場合、最後のレコードにはFILLERとしてスペース(0x20)が自動的に付加されます。その例を[例2]に示します。

[例2] レコード長 = 120バイト 送信ファイルの総バイト数 = 300バイトの最終伝送ブロック形式

|    |      |                |                   |
|----|------|----------------|-------------------|
|    |      | 125バイト         |                   |
| SH | TTC部 | データ<br>(60バイト) | FILLER<br>(60バイト) |
|    |      | 最後の送信データ       | 自動的に付加            |

### ■しない

ブロッキングを行わない場合は、指定されたレコード長に応じて、1レコードを1テキストとする伝送ブロックを生成し連絡(ファイル送信)を行います。ブロッキングを行うときと同様、送信データの総バイト数がレコード長で割り切れない場合は、最後のレコードにFILLERが付加されます。

## (7)最大伝送テキスト長

伝送するテキストの最大の長さを設定します。8～32768の範囲で設定できます。全銀協手順(TCP/IP版)の規定値は2048バイトです。よって2048バイトを超える値に設定する場合は、相手局に確認の上、使用してください。

## (8)レコード長

送受信ファイルのレコード長を指定します。レコード長は、1～最大伝送テキスト長－TTCサイズ(5バイト)までの値を設定してください。

## (9)可変長レコード

レコード長を可変長レコードとして指定します。可変長指定に設定すると通常レコード長は、最大伝送テキスト長－TTCサイズ(5バイト)－レコード長格納エリア(2バイト)で設定されます。デリミタ編集を行う場合は、文字列を抜き取った所で1レコードとします。なお可変長レコードに関する詳細説明は、付録Cの補足に記載されていますのでご参照ください。

## (10) 伝送ファイル

連絡または照会を行う伝送ファイルを設定します。必ず絶対パス名称で設定してください。

### ■ 伝送ファイルのコード変換をする

伝送時に伝送ファイルの文字コードを JIS8 ⇔ EBCDIC にて相互に変換します。  
各コード変換がどのように変換されるかについては、付録 B を参照してください。

### ■ 0バイトのファイル送信を許可する

連絡(ファイル送信)時、伝送ファイルの内容が 0 バイトの物も伝送を許可するか設定します。  
許可しない場合は、0 バイト伝送ファイルの送信開始時に、「**伝送ファイルに有効データがありません。**」のエラーを返します。

### コード変換の制限事項

コード変換は、JIS8-EBCDIC コードのみの対応となります。漢字コードを含むファイルは正しく変換できません。  
また数値のパック形式、ゾーン形式等につきましても未対応です。

### ファイル単位での照会処理について

ファイル単位での照会処理時、受信ファイルは、終了回答電文の受信チェックで正常であった場合、削除しない仕様としております。(閉局処理でエラーが発生しても受信したファイルを削除致しません。)

## (11) 連続受信回数

全銀協手順(TCP/IP版)で新しく採用された項目で、伝送中の論理ACKを省略して伝送上のスピードアップを図るために使用します。0~15回までの値を設定できます。  
またこの機能は全銀協手順(TCP/IP版)のオプション仕様となっており、相手局がこの機能に対応していない場合、連続受信回数を設定しても、スピードアップは期待できません。  
相手局が受信の場合、相手局から受信した連続受信回数と設定された値の小さい値を使用して連続送信を行います。

## (12) 無通信タイマー

全銀協手順(TCP/IP版)での唯一のタイマー値(秒)です。  
全銀協手順(TCP/IP版)は通信中の無通信状態のタイマーが30秒と定義されています。無通信状態がこの時間経過するとセッションを切断します。0~999まで指定できますが、0秒を指定した場合は、30秒として動作します。

## 4.4 パスワードの設定

ここでは、制御電文に編集する項目を設定します。相手局によってコード体型がEBCDICコードもしくはJIS8コードと違うため、ここでは16進数(0 ~ 9、A ~ F)で設定してください。1バイトを2文字で表すため、実桁数の2倍入力領域があります。

図4.4 制御電文の設定画面

### (1) 相手センターコード

通信の秘密保護の一環として、通信制御上の相手(企業および銀行のセンター、接続相手コンピュータ等)の正当性確認を行うためのコードで、通信要求を受信する側のアドレスが編集されます。このコードは、全銀協手順における「通信制御電文」内の相手センター確認コードを生成します。

| 「通信制御電文」 - 相手センター確認コード |           |
|------------------------|-----------|
| センターコード                | CPU/端末コード |
| 10桁(5バイト)              | 4桁(2バイト)  |

#### ■ センターコード

センターコードは企業または銀行単位に1個付番し、データ通信の分野でユニークかつ一般的なコードである「電話番号」が使用されます。センターコードは10桁の数値文字(0~9)をヘキサデシマル5バイトで指定します。加入者番号の桁数は最大10桁であるため、コード体系は5バイトのエリアを用意し、右詰にセットし、残りは(0x0)とします。

[例] 03 - XXXX - XXXX のセンターコードでは(03XXXXXXXX)x となります。

## ■CPU／端末コード

このコードは同一企業内で複数のパソコンを利用してオンライン・データ交換を行う場合、回線に接続され実際にデータをやりとりするCPU／端末毎に付加されるシーケンス番号です。このコードは4桁の数値文字(0～9)をヘキサデシマル2バイトで指定します。

### (2) 当方センターコード

相手センターコードと同様の目的で使用され、通信要求を送信する側のアドレスが編集されます。このコードは、全銀協手順における「通信制御電文」内の当方センター確認コードを生成します。データ形式は前述の相手センターコードと同様です。

### (3) パスワード

パスワードは開局時のセキュリティチェックに用いられるコードであり、アクセスコントロール機能の一環として企業－銀行相互間レベルでのデータ送受の正当性確認のために使用されます。パスワードの具体的内容はデータを送受する二者間で任意に決定します。従って全銀プログラムは、パスワードの内容には一切関知しません(暗号化が可能)。

このコードは、全銀協手順における「通信制御電文」内のパスワードを生成します。

|                 |
|-----------------|
| 「通信制御電文」－ パスワード |
| 12桁(6バイト)       |

(注)パスワード情報は企業－銀行間で決定されますが、このとき使用するコードをセンター側と必ず一致させてください。

[例]パスワードが 123456 の時

- ・EBCDICコード..... (F1F2F3F4F5F6)x
- ・JIS8コード..... (313233343536)x

### (4) ファイルアクセスキー

ファイルアクセスキーはデータ保護機能の一環として「アクセスコントロール機能」のために使用されるコードです。具体的内容は当該ファイル・アクセス部署にて任意に決定され、キーの管理は秘密保護の対象になります。従って、全銀プログラムはファイルアクセスキーの内容には一切関知しません(暗号化が可能)。なお、ファイルアクセスキーは電文区分別に異なるキーコードを使用することができます。

このコードは、全銀協手順における「ファイル制御電文」内のファイルアクセスキーを生成します。

|                        |
|------------------------|
| 「ファイル制御電文」－ ファイルアクセスキー |
| 12桁(6バイト)              |

(注)ファイルアクセスキー情報もパスワードと同様、使用するコードをセンター側と必ず一致させてください。

### (5) 産業別コード

ここでは、「ファイル制御電文」内のファイル名(12バイト)の上位4バイトに生成される産業別コードを指定します。産業別コードは、ファイル名のコード化にあたって、当該ファイル名を定めた業界・業種を識別するためのコードであり、全銀協手順では、固定値の5020が使用されています。

|                      |            |
|----------------------|------------|
| 「ファイル制御電文」－ ファイル名    |            |
| F5F0F2F0 (EBCDICコード) | 全銀協規定ファイル名 |
| 4バイト                 | 8バイト       |



## (6) 全銀協規定ファイル名

ここでは、「ファイル制御電文」内のファイル名（12バイト）の上位4バイトを除く残りの8バイトを生成します。上位4バイトは産業別コードとして指定されています。8バイトの全銀協規定ファイル名の内容は基本的に自由となりますが、「全銀協制定磁気テープ・フォーマット」によるファイル名を採用している場合は、以下のように規定されています。

「全銀協制定磁気テープ・フォーマット」によるファイル名の規定

| 全銀協規定ファイル名 |      |                 |      |
|------------|------|-----------------|------|
| データコード     | サイクル | ファイル名<br>補助情報ID | ダミー  |
| 4バイト       | 2バイト | 1バイト            | 1バイト |

### ■ データコード

× × × ×



### ■ サイクル

同一属性ファイルの同一日内での伝送の順番を示します。（“01”～“99”のシーケンス番号）

（注）連絡の際、ホストコンピュータ（二次局）側で自動カウントアップしている事がありますので注意してください。

### ■ ファイル名補助情報ID

“0” .....ファイル名補助情報なし

“1” .....ファイル名補助情報あり

### ■ ダミー

数字 “0” を指定します。

## (7) 磁気テープフォーマット

通信が正常終了した場合、全銀協規定ファイル名のサイクルを自動的にカウントアップします。

## (8) 現在のサイクル

全銀協規定ファイル名のサイクルを指定します。次回の通信は、この値で実行されます。

## ※ 全銀ファイル名のサイクル処理について

全銀協規定ファイル名の設定において、「磁気テープフォーマット」がチェックされた場合、以下のタイミングでサイクルのカウントアップ及びリセットを行います。

| モード | サイクルカウントアップ条件   | サイクルリセット条件(サイクルを1にする条件)              |
|-----|---|--------------------------------------|
| 照会  | 終了要求電文を受信し、電文チェックが正常であり、終了回答電文送信に対する論理 ACK を受信時にサイクルカウントアップ実施 | ・日付変更時<br>・サイクルが 99 での伝送で正常終了した次の伝送時 |
| 連絡  | 終了回答電文を受信後、電文チェックが正常であった場合、サイクルカウントアップ実施                      | ・同上                                  |

※本製品では、ファイル制御電文(ファイル名)中のサイクル番号を簡易的にチェックする機能のみを有します。伝送ファイルを含めたサイクル管理を行う場合は、上位アプリケーション側にサイクル管理機能を実装してください。

## (9)ファイル名補助情報

この情報は、「ファイル制御電文」内のファイル名の補助目的で使用されます。使用するか否かは企業・銀行間で任意ですが、全銀プログラムはここで指定される情報を「ファイル制御電文」内のファイル名補助情報に編集します。

| 「ファイル制御電文」－ ファイル名補助情報 |       |
|-----------------------|-------|
| アクセスID                | 補助情報  |
| 2バイト                  | 15バイト |

## (10)ファイル制御拡張エリア

この情報は、「ファイル制御電文」内の拡張用エリアを生成するためのもので、この拡張用エリアは、全銀協が将来的に使用することを予約した拡張用データです。従って特定の企業・銀行間で任意に使用することはできません。

| 「ファイル制御電文」－ 拡張用エリア |
|--------------------|
| 14バイト              |

現段階では、拡張用エリアは未使用の情報ですが、全銀プログラムは、相手コンピュータから送信する拡張用エリアと登録名称で設定する拡張用エリアの比較を行いますので、相手コンピュータと一致するデータを設定してください。

## (11)通信制御拡張エリア

この情報は、「通信制御電文」内の拡張用エリアを生成するためのもので、この拡張用エリアは、全銀協が将来的に使用することを予約した拡張用データです。従って特定の企業・銀行間で任意に使用することはできません。

| 「通信制御電文」－ 拡張用エリア |
|------------------|
| 34バイト            |

現段階では、拡張用エリアは未使用の情報ですが、全銀プログラムは、相手コンピュータから送信する拡張用エリアと登録名称で設定する拡張用エリアの比較を行いますので、相手コンピュータと一致するデータを設定してください。

## 4.5 接続条件の設定

ここでは、相手に接続する接続条件等の設定を行います。

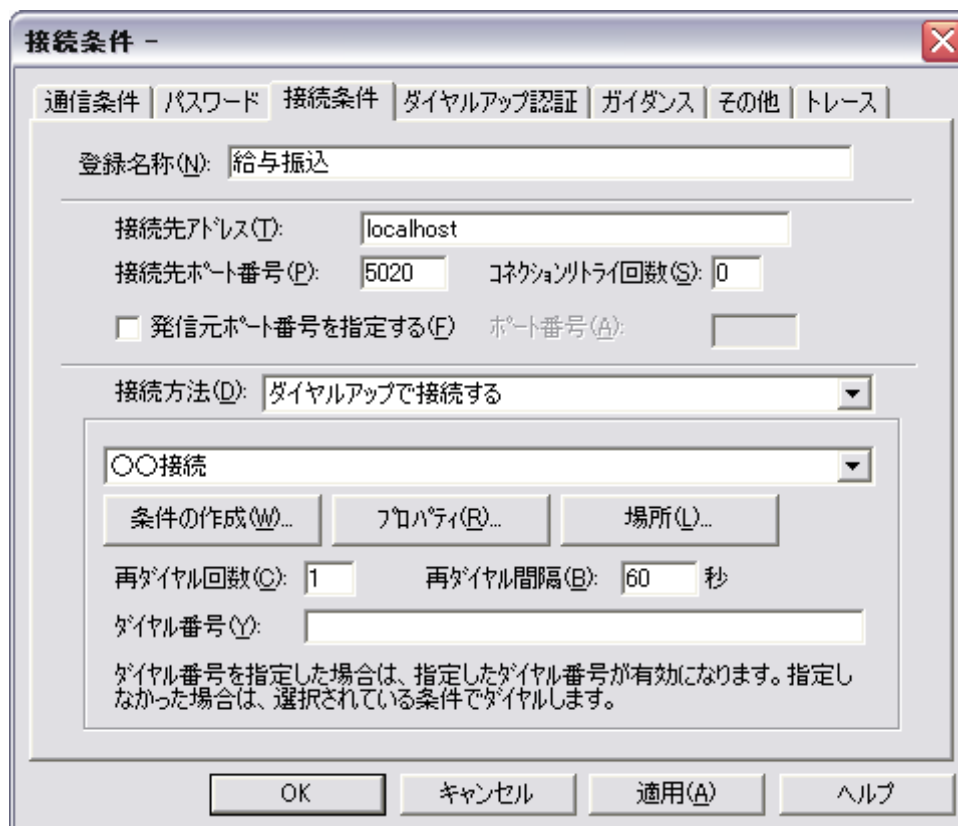


図4.5 接続条件の設定画面

### (1) 接続先アドレス

接続先のアドレスを指定します。ここには xxx.xxx.xxx.xxx のドットデシマル形式か、ホスト名形式にて、センター側の指示に従って指定してください(80文字まで入力できます)。

(例) ドットデシマル形式 : 192.168.100.100  
ホスト名形式 : ZgnTcpHost (センターが同じドメイン内にある場合)  
: ZgnTcpHost.hitachi-system.co.jp (センターが違うドメイン内にある場合)

### (2) 接続先ポート番号

接続先のポート番号を指定します。このポート番号はセンター側が特に指定しない限り5020になります。

### (3) コネクションリトライ回数

コネクション確立時(接続時)のリトライ回数を設定します。

### (4) 発信元ポート番号を指定する

発信元ポート番号を指定する必要がある場合、設定します。通常は指定する必要はありません。

### (5) ポート番号

発信元ポート番号を指定する必要がある場合、設定します。1～65535の範囲で設定できます。

## (6) 接続方法

### ■ダイヤルアップで接続する

PC に接続されているモデムや TA を用いてダイヤルアップで接続する場合に設定します。この条件に設定した際、有効になるドロップダウンリストボックスは接続する条件を定義した名称になります。

ここで作成されるダイヤルアップ接続条件は OS で登録されているダイヤルアップ接続条件となります。

- ・ **条件の作成 (W) ...** .....ダイヤルアップ接続条件を新しく作成します。
- ・ **プロパティ (R) ...** .....選択されているダイヤルアップ接続条件を編集します。
- ・ **場所 (L) ...** .....ダイヤルアップ接続する際の所在地情報を設定します。
- ・ **再ダイヤル回数** .....接続先が話し中や電話に出ない場合の再ダイヤル回数を指定します。
- ・ **再ダイヤル間隔** .....ダイヤルを失敗して次に再ダイヤルするまでの間隔を指定します。
- ・ **ダイヤル番号** .....ダイヤルアップ条件が共通でダイヤル番号だけを変更したい場合、指定します。ここにダイヤル番号を指定した場合、ダイヤルアップ条件に指定してあるダイヤル番号を無視してこの設定が優先されます。

### ■ネットワークで接続する

LAN インターフェースなどを用いてネットワークで接続する場合、指定します。

### ■ネットワークで接続する(全銀コンバータ連携)

接続先が弊社製品の全銀コンバータである場合、指定します。

本項目が選択された場合、ダイヤル番号が有効になり全銀コンバータへダイヤル情報を通知出来るようになります。

### ■ネットワークで接続する(JCAコンバータ連携)

接続先が弊社製品の JCA コンバータである場合、指定します。

本項目が選択された場合、ダイヤル番号が有効になり JCA コンバータへダイヤル情報を通知出来るようになります。

#### 4.5.1 ダイヤルアップ接続 — 条件の作成

「条件の作成」ボタンをクリックすると図4.6のような画面が表示され、ダイヤルアップ接続する通信条件を新しく作成することができます。(Windows<sup>®</sup>XPの場合)

- (1) 接続の種類を選択します。通常は、「プライベートネットワークにダイヤルアップする」を選択し、**次へ(N)** ボタンをクリックします。

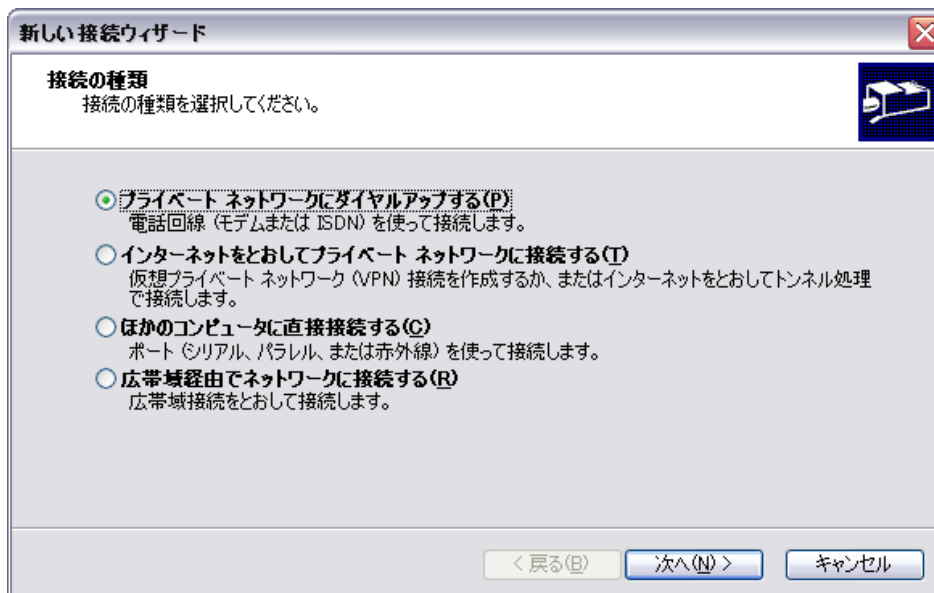


図4.6 「接続の種類」設定画面

- (2) 次に接続先の電話番号を入力し、**次へ(N)** ボタンをクリックします。

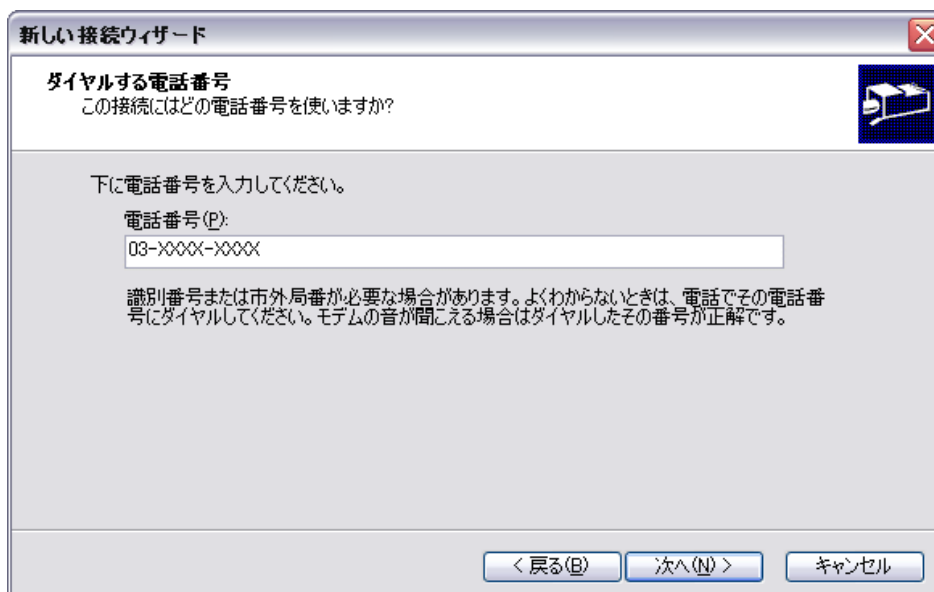


図4.7 「ダイヤルする電話番号」設定画面

- (3)最後に図4.8の画面が表示され、接続条件の名前を入力し、作成が完了します。ただし、このままの設定では正しくセンターに接続できない場合もありますので必要に応じて接続条件の「プロパティ」ボタンをクリックして詳細な条件を変更してください。

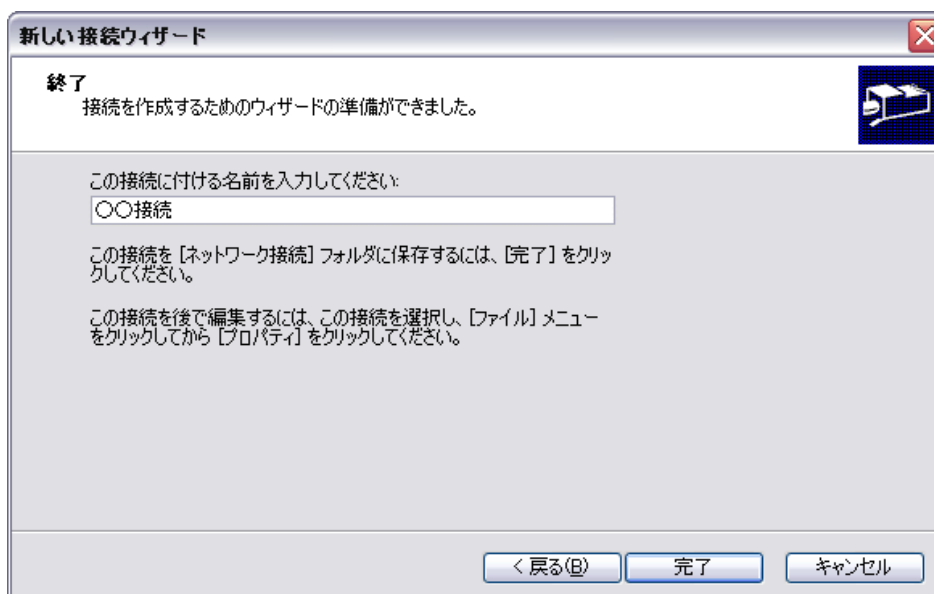


図4.8 「終了」設定画面

#### 4.5.2 ダイアルアップ接続 — プロパティ

「プロパティ」ボタンをクリックすると図4.9のような画面が表示され、ダイアルアップ接続する通信条件を変更することができます。(Windows<sup>®</sup>XPの場合)

全銀協手順(TCP/IP版)ではTCP/IPプロトコルでのPPP接続と規定されていますので、ネットワークの設定項目で必ず「サーバーの種類」を「PPP」にし、「使用できるネットワークプロトコル」を「TCP/IP」に設定してください。

使用するプロトコルを除く、その他の設定については、接続先に依存しますので、接続先より設定情報を入手の上、それに基づき設定を行ってください。

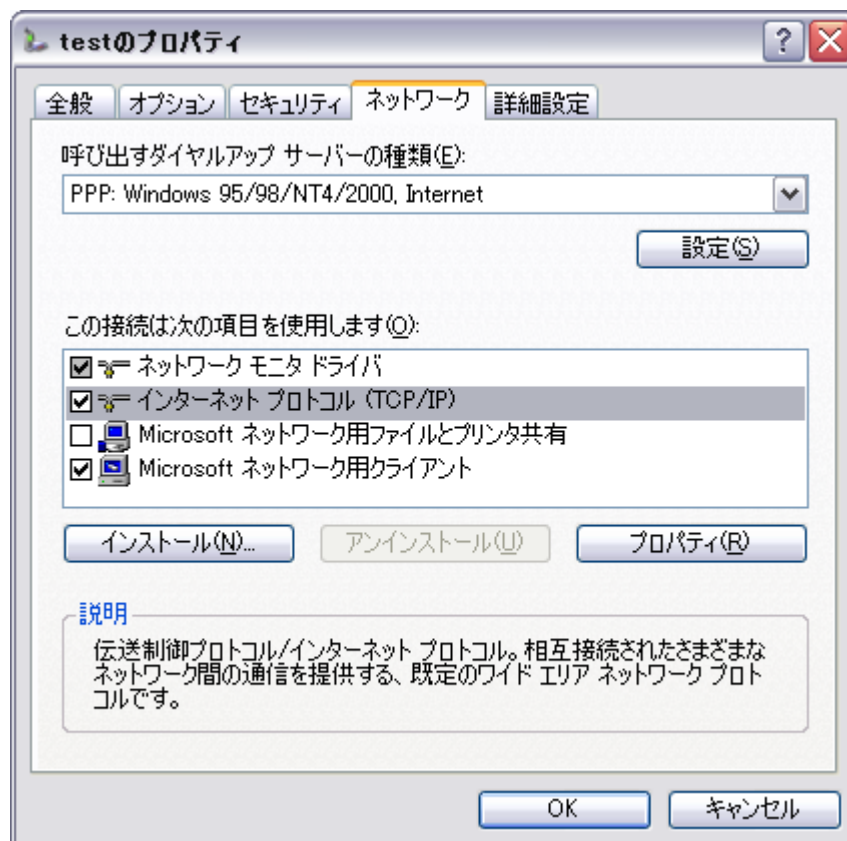


図4.9 ダイアルアップ接続のプロパティ設定画面

### 4.5.3 ダイヤルアップ接続 — 場所

「場所」ボタンをクリックすると図4.10のような画面が表示され、ダイヤルアップ接続する場合の所在地を設定します。ここでは、外線に発信する場合に0発信するかどうか、また回線がトーン(プッシュ)であるかパルス(ダイヤル)であるかなどの設定を行います。(Windows®XPの場合)

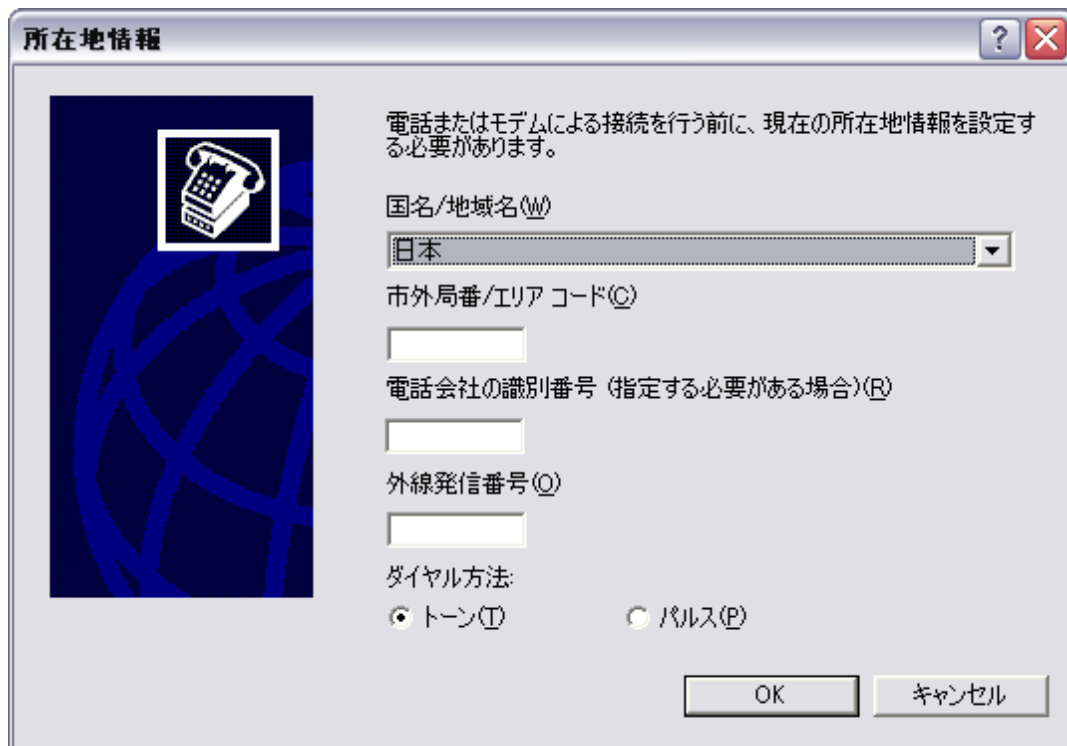


図4.10 所在地情報設定画面



## 4.6 ダイヤルアップ認証の設定

ここでは、相手に接続する認証等の設定を行います。

認証の設定は、ダイヤルアップ接続する場合に使用する項目ですが、この内容はセンター側との取り決めで必要とするかが決定しますので、センター側の指示に従って設定してください。特に指示がない限り何も入力しなくても構いません。



図4.11 認証の設定画面

### (1) 認証

- ユーザー名 ..... センターの指示に従って設定してください。
- パスワード ..... センター側の指示に従って設定してください。（表示上は\*で表示されます）。
- ドメイン ..... センター側の指示に従って設定してください。（15文字まで入力できます）。

## 4.7 ガイダンスの設定

ここでは、通信中に表示するメッセージを設定します。  
それぞれのガイダンスは最大50バイトまで設定できます。

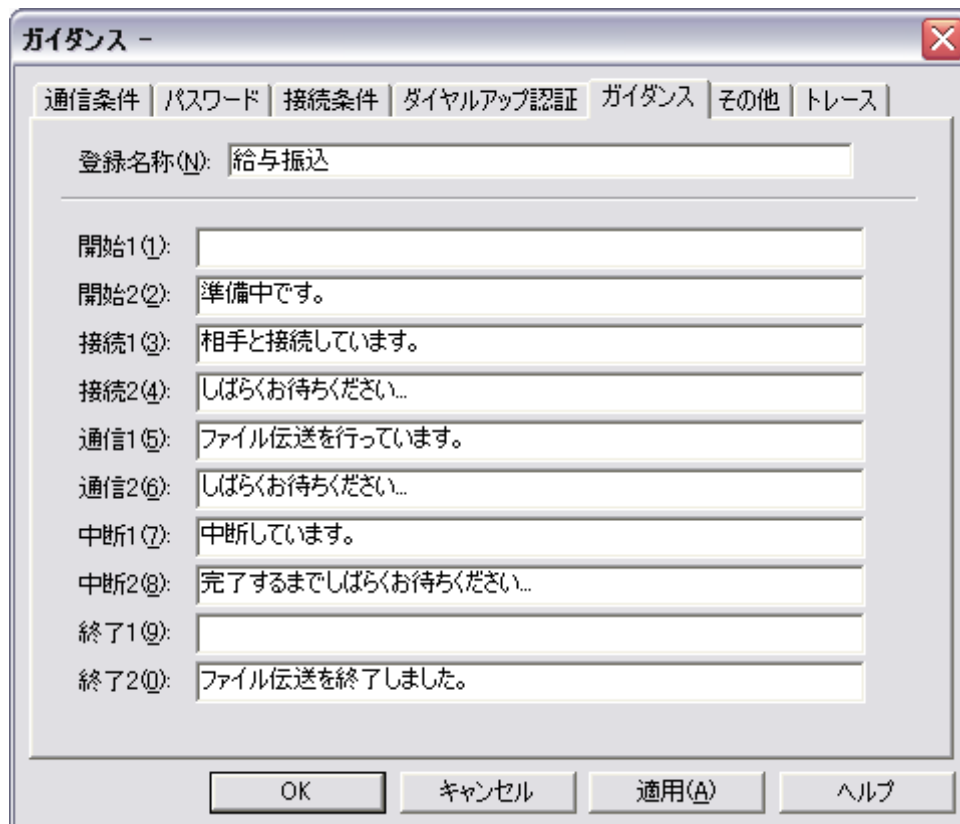


図4.12 ガイダンスの設定画面

- (1) 開始1,2.....実行開始時から接続するまでのガイダンスです。
- (2) 接続1,2.....接続中のガイダンスです。
- (3) 通信1,2.....通信中のガイダンスです。
- (4) 中断1,2.....中断処理中のガイダンスです。
- (5) 終了1,2.....通信終了後のガイダンスです。

## 4.8 その他の設定

ここでは、実行時の状態や終了情報の保存方法等を設定します。

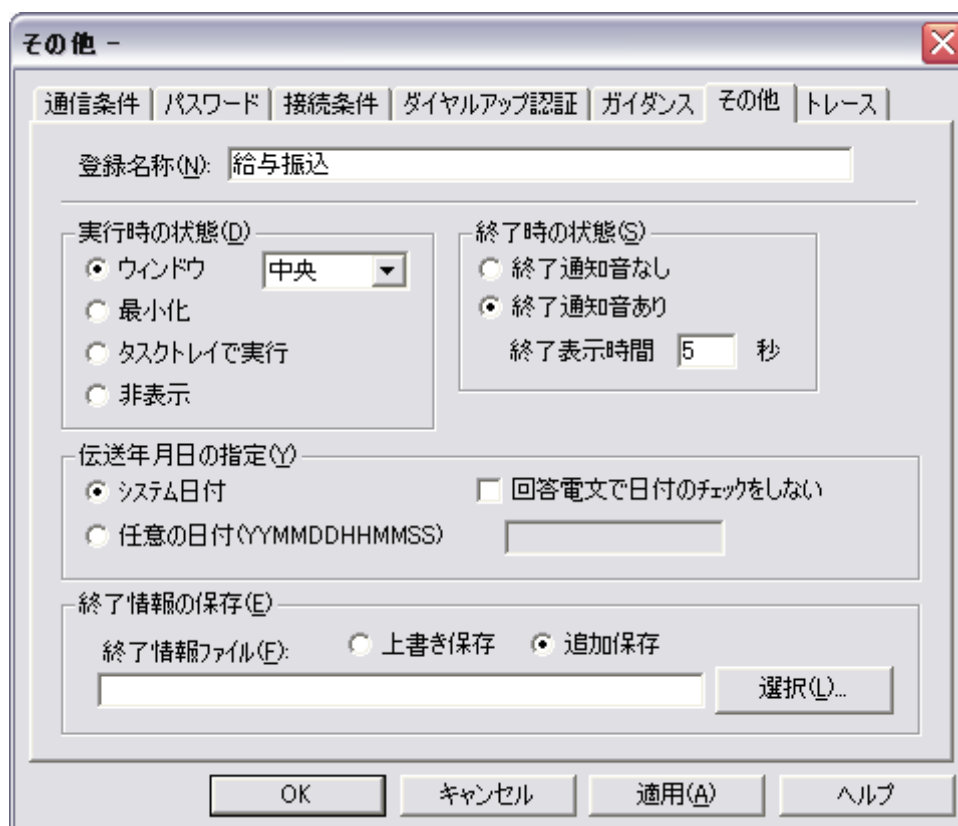


図4.13 その他の設定画面

### (1) 実行時の状態

#### ■ 表示方法

通信中ウィンドウの表示方式を指定します。

- ・ウィンドウ ..... 通信開始時、通信状況ウィンドウを表示します。
- ・最小化 ..... 通信開始時、通信状況ウィンドウが最小化された状態となります。
- ・タスクトレイで実行 ..... 通信開始時、通信状況ウィンドウがタスクトレイに収納され、収納されたアイコンをダブルクリックするとウィンドウ表示に切り替わります。
- ・非表示 ..... 通信状況ウィンドウを表示しません。

#### ■ 表示位置

通信状況ウィンドウの表示位置を指定します。

## (2) 終了時の状態

伝送終了後の状態を設定します。

- 終了通知音なし.....通信が終了したことを知らせるビープ音は出力されません。
- 終了通知音あり.....通信が終了したことを知らせるビープ音を出力します。
- 終了表示時間.....通信を終了後、実行ウィンドウが自動的に閉じるまでの時間を指定します。この値に"0秒"を指定した場合は、ユーザーが"閉じる"ボタンをクリックするまでウィンドウは閉じません。

## (3) 伝送年月日の指定

制御電文に編集する伝送年月日を指定します。

- システム日付 ..... パソコンのシステム日付を取得して制御電文に編集します。
- 任意の日付..... 指定した年月日を制御電文に編集します。
- 回答電文で日付のチェックをしない..... チェックすると回答電文のチェックで、日付のチェックをしなくなります。

## (4) 終了情報の保存

通信の実行結果を保存する方法を設定します。

終了情報ファイルフォーマットについては、**6.5 終了情報ファイルの構成**を参照してください。

- 上書き保存..... 終了情報ファイルへ上書きモードで保存します。この場合は、1件分のデータしか管理しないので、複数の登録名称で共通の終了情報ファイルを使用する場合は注意してください。
- 追加保存 ..... 終了情報ファイルへ追加モードで保存します。
- 終了情報ファイル ..... 通信の実行結果を保存するファイル名を指定します。このファイル名を指定しないと、終了情報ファイルを保存しません。必ず絶対パス名称で設定してください。また、複数の登録名称で共通の終了情報ファイルを設定することもできます。

## 4.9 トレースの設定

ここでは、トレース情報取得の有無を設定します。

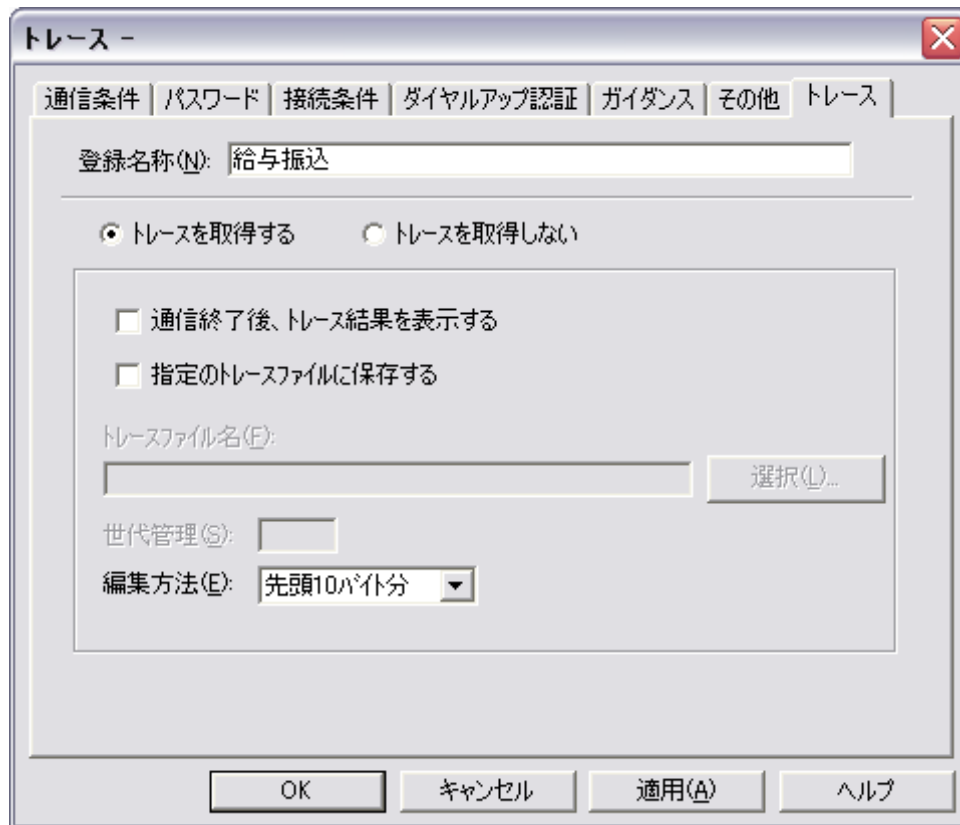


図4.14 トレースの設定画面

### (1) トレースを取得する

トレースを取得します。

#### ■ 通信終了後、トレース結果を表示する

通信終了後、トレース結果を編集したウィンドウを表示します。

#### ■ 指定のトレースファイルに保存する

通信終了後、トレース結果を指定のファイルへ保存します。

#### ■ トレースファイル名

指定したファイルにトレース結果を保存します。

また、トレースファイル名は、ここで指定したファイル名に通信結果情報を付加してリネームします。

#### ※トレースファイル名の形式

[ファイル名]\_1\_[開始時刻 (yyyymmdd)]-[終了時刻 (yyyymmdd)]\_[終了ステータス].[拡張子]

#### ■ 世代管理

トレースファイルに保存する場合に、トレースファイルのバックアップを行います。指定した世代数でファイル名と同一フォルダ内でバックアップを管理します。9999世代まで管理できます。0が指定されている場合、世代管理を行いません。

■ **編集方法**

- ・ **先頭10バイト分** .....制御電文の全てとデータ電文の先頭10バイト分のトレースを取得します。
- ・ **全て** .....制御電文、及びデータ電文の全てのトレースを取得します。

(2) **トレースを取得しない**

トレースを取得しません。

## 第5章 スケジュール監視と Windows サービス

---

この章では、通信を自動実行するためのスケジュール監視とスケジュール監視機能をWindowsサービスとして動作させる方法について説明します。

## 5.1 Windows サービスとして動作させる

---

本機能をサービスマネージャより制御することにより、全銀一次局のスケジュール監視をWindowsサービスとしてサービス環境下で全銀一次局の通信を行うことができます。

### サービス運用時の注意事項

- サービスの設定を変更するためには通常、管理者権限が必要となります。
- サービスにて全銀一次局が稼働中の時は、スケジュール監視を起動することは出来ません。また逆にスケジュール監視が起動中の場合、サービスを稼働させることは出来ません。
- 全銀一次局の「登録名称設定」-「トレース」-「通信終了後、トレース結果を表示する」の設定にチェックが入っていると、サービスで通信後に、トレースをバックグラウンド(画面には表示されません)で表示してしまいます。サービス運用時は必ず、チェックを外して運用してください。



### 5.1.1 サービスの設定

ユーティリティメニューより「サービスマネージャ」を起動すると、図 5.1 のサービスマネージャ画面が表示されます。

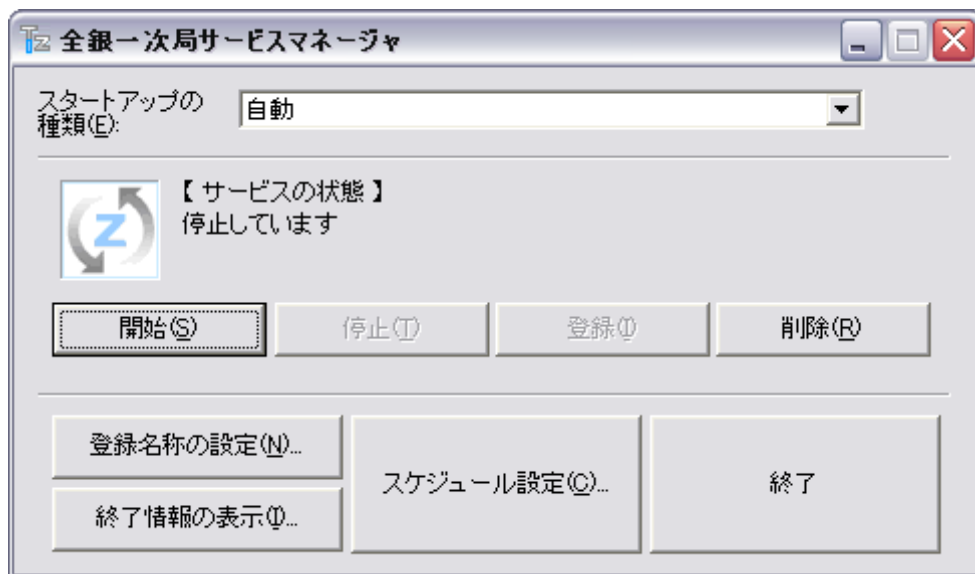


図 5.1 サービスマネージャ起動画面

#### (1) スタートアップの種類

全銀一次局サービスのスタートアップ方法を選択します。

サービス機能を使用する場合は、通常、「自動」に設定し運用してください。「自動」に設定するとシステム起動時に自動的に全銀一次局サービスが開始されます。

#### (2) サービスの状態

- **開始(S)** ..... サービスの開始を手動で行います。
- **停止(T)** ..... 実行中のサービスを停止します。
- **登録(I)** ..... サービスプログラムをOSへ登録します。
- **削除(R)** ..... OSから登録したサービスプログラムを削除します。

#### (3) ボタン説明

- **登録名称の設定(N)...** .....4.1 登録名称の設定 [W4-1] を参照ください。
- **終了情報の表示(I)...** .....6.6 終了情報の選択 [W6-11] を参照ください。
- **スケジュール設定(C)...** .....5.2 スケジュール監視の設定 [W5-5]を参照ください。
- **終了** .....全銀一次局サービスマネージャを終了します。

### 5.1.2 サービスのイベントログ

全銀一次局サービスは、OS のイベントログのシステム領域に通常の起動／停止動作ログ、エラーが発生した場合、イベントログのアプリケーション領域にイベントログを出力します。

(1) 通常時は、以下の表示例のように、システム領域に、起動／停止情報が出力されます。

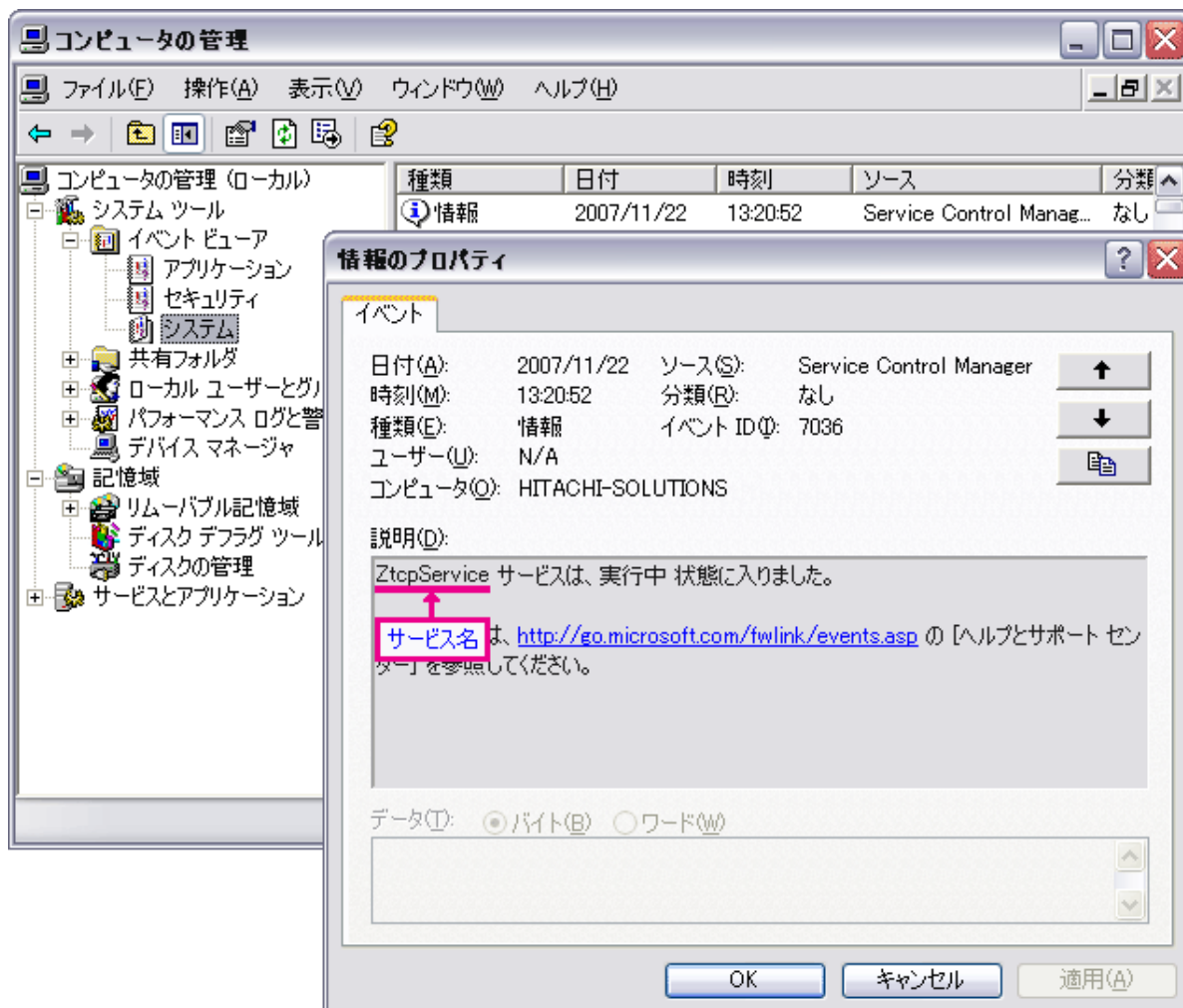


図 5.2 通常時イベントログ出力例(システム領域)

(2)エラー発生時は、以下の表示例のように、アプリケーション領域に、障害内容が表示されます。

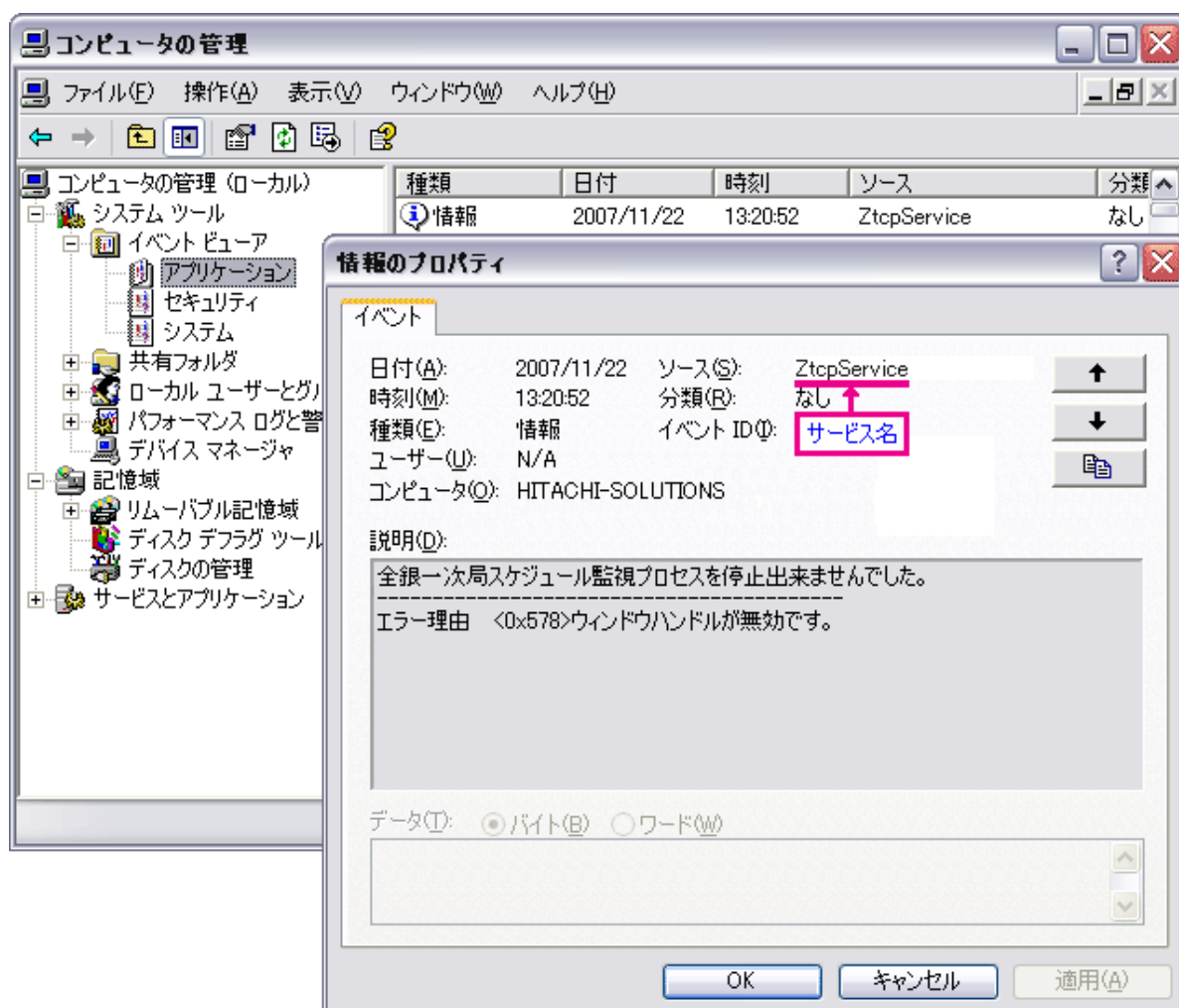


図 5.3 エラー発生時イベントログ出力例(アプリケーション領域)

## 5.2 スケジュール監視の設定

スケジュール監視プログラムは、ユーティリティで設定している登録名称を自動実行する場合に使用します。自動実行するタイミングは毎日の時間指定、曜日指定、日時指定の何れかより選択できます。

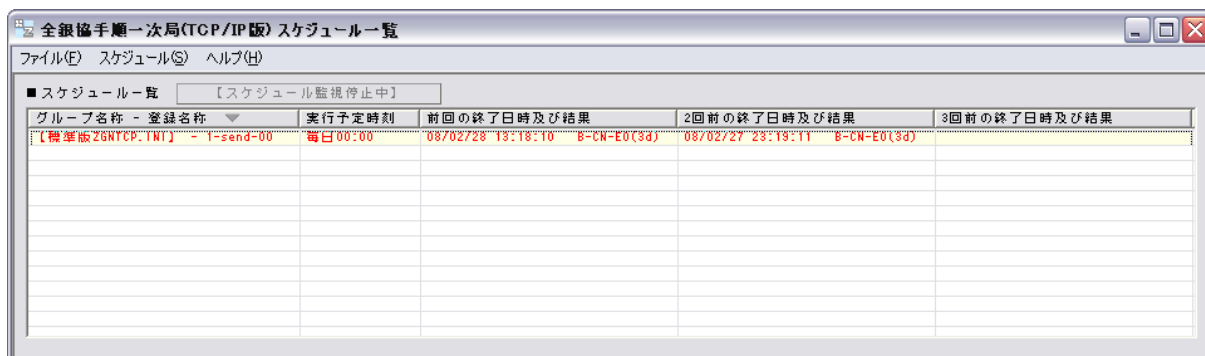


図5.4 スケジュール監視メイン画面

- **グループ名称 - 登録名称** ..... 現在登録されている登録名称のグループを表示します。
- **実行予定時刻** ..... 自動実行する日時を表示します。  
自動実行しない場合は、「使用しない」と表示されます。  
また、自動実行中の場合は「実行中...」と表示されます。
- **前回の終了日時及び結果** ..... 前回通信を終了した時間とその結果が表示されます。空白の場合は、通信を行っていない状態です。
- **2回前の終了日時及び結果** ..... 2回前に通信を終了した時間とその結果が表示されます。
- **3回前の終了日時及び結果** ..... 3回前に通信を終了した時間とその結果が表示されます。

### 5.3 スケジュール編集

スケジュールを編集するには、スケジュールメニューより「スケジュールの編集」を選択します。(図5.5／図5.6参照)

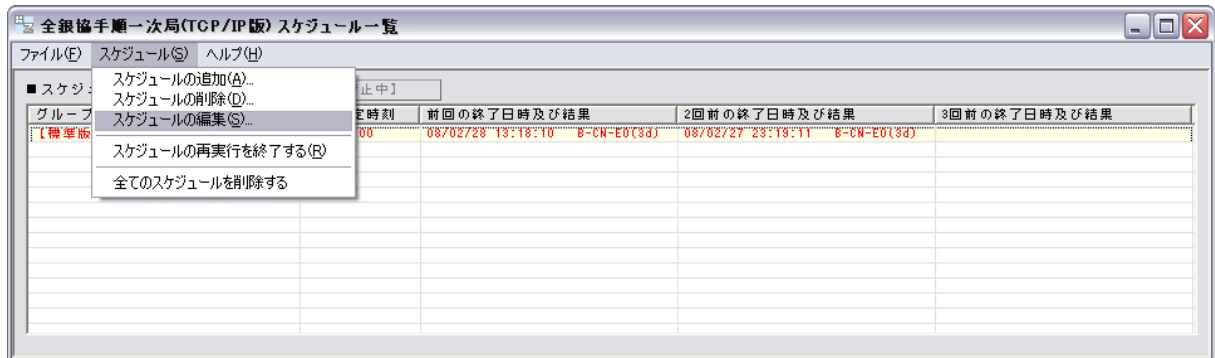


図5.5 メニュー選択画面

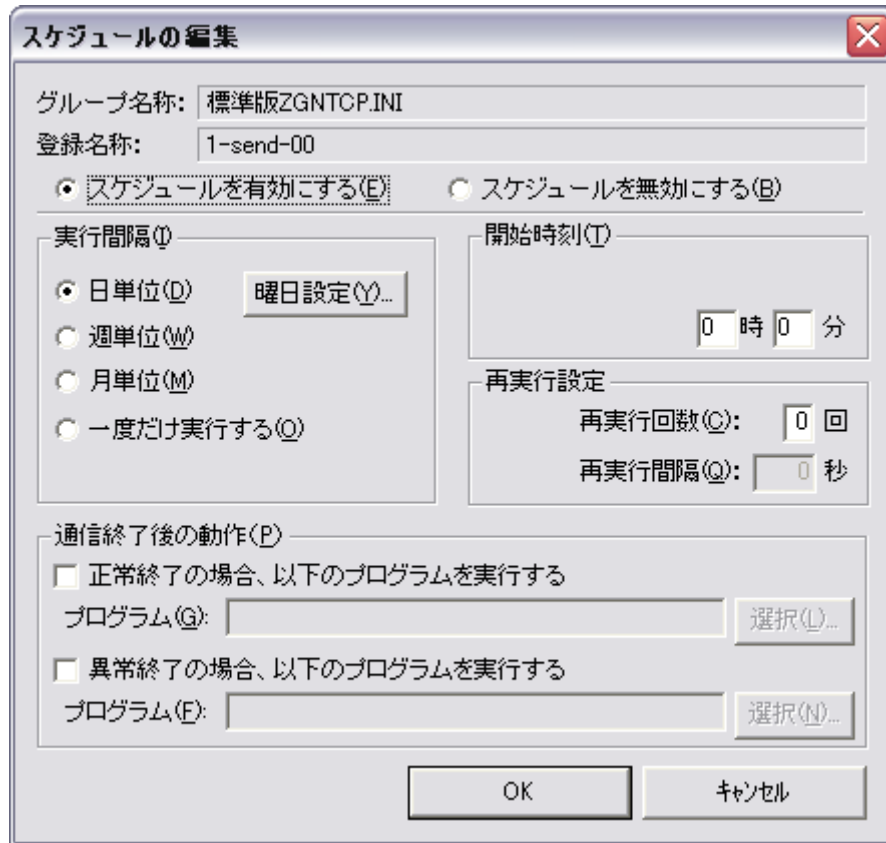


図5.6 スケジュール編集画面

- (1)グループ名称..... スケジュールを編集する登録名称のグループです。
- (2)登録名称 ..... スケジュールを編集する登録名称です。
- (3)スケジュールを有効にする ... 自動実行を行うようにスケジュールします。
- (4)スケジュールを無効にする ... 自動実行を行う為のスケジュールを無効にします。
- (5)実行間隔 ..... 自動実行するタイミングを日単位、週単位、月単位もしくは一度だけ実行するかの何れかから選択します。
- (6)開始時刻 ..... 通信を行う時間を24時間形式で指定します。
- (7)再実行回数 ..... 異常終了時、再実行を行う回数を指定します。  
0回が設定されていた場合、再実行は行われません。
- (8)再実行間隔 ..... 異常終了時、再実行を行う間隔を秒で指定します。  
0秒が設定されていた場合、即座に再実行を行います。
- (9)通信終了後の動作
- 正常終了の場合、以下のプログラムを実行する  
通信が正常終了した場合、後処理として実行したいプログラムを指定します。
  - 異常終了の場合、以下のプログラムを実行する  
通信が異常終了した場合、後処理として実行したいプログラムを指定します。

## 5.4 スケジュール監視の開始／停止

設定されたスケジュールの監視を有効にするには、ファイルメニューより「スケジュール監視を開始する」を選択します。また、スケジュール監視を停止させる場合も、ファイルメニューより「スケジュール監視を停止する」を選択します。

また、起動時に以下のパラメータを指定することができます。(同時指定可)

- 【 /s or /S 】..... 起動時、スケジュール監視を開始します。
- 【 /t or /T 】..... 起動時、タスクバーにアイコンを登録し、ウィンドウを表示しません。

※ 本操作は、アプリケーションとして起動する場合の説明となります。  
Windowsサービス環境下で実行される場合は、サービスマネージャより非表示状態で起動されます。

指定例は以下のようになります。

- ZTCPICON.EXE /s
- ZTCPICON.EXE /t
- ZTCPICON.EXE /s /t

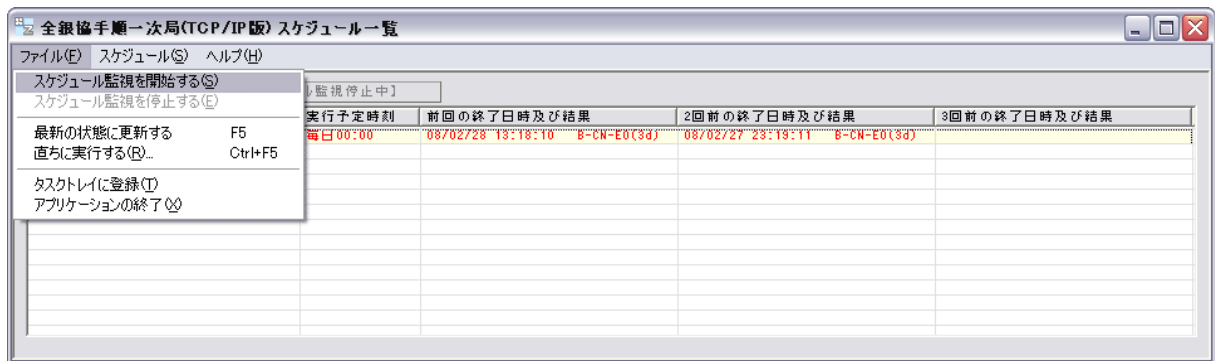


図5.7 メニュー選択画面



図5.8 タスクトレイ画面

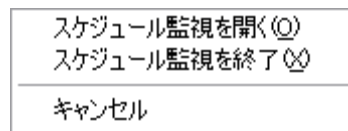


図5.9 ポップアップメニュー画面

## 第6章 通信実行時の動作と終了情報

---

全銀一次局は、ユーティリティプログラムで設定した登録名称をもとに通信を実行します。起動時のパラメータに登録名称を指定すると直接その登録名称を実行することができます。パラメータを指定しない場合は、通信を実行する登録名称選択画面が表示されます。



## 6.1 実行時の登録名称選択

通信を行う登録名称を選択します。

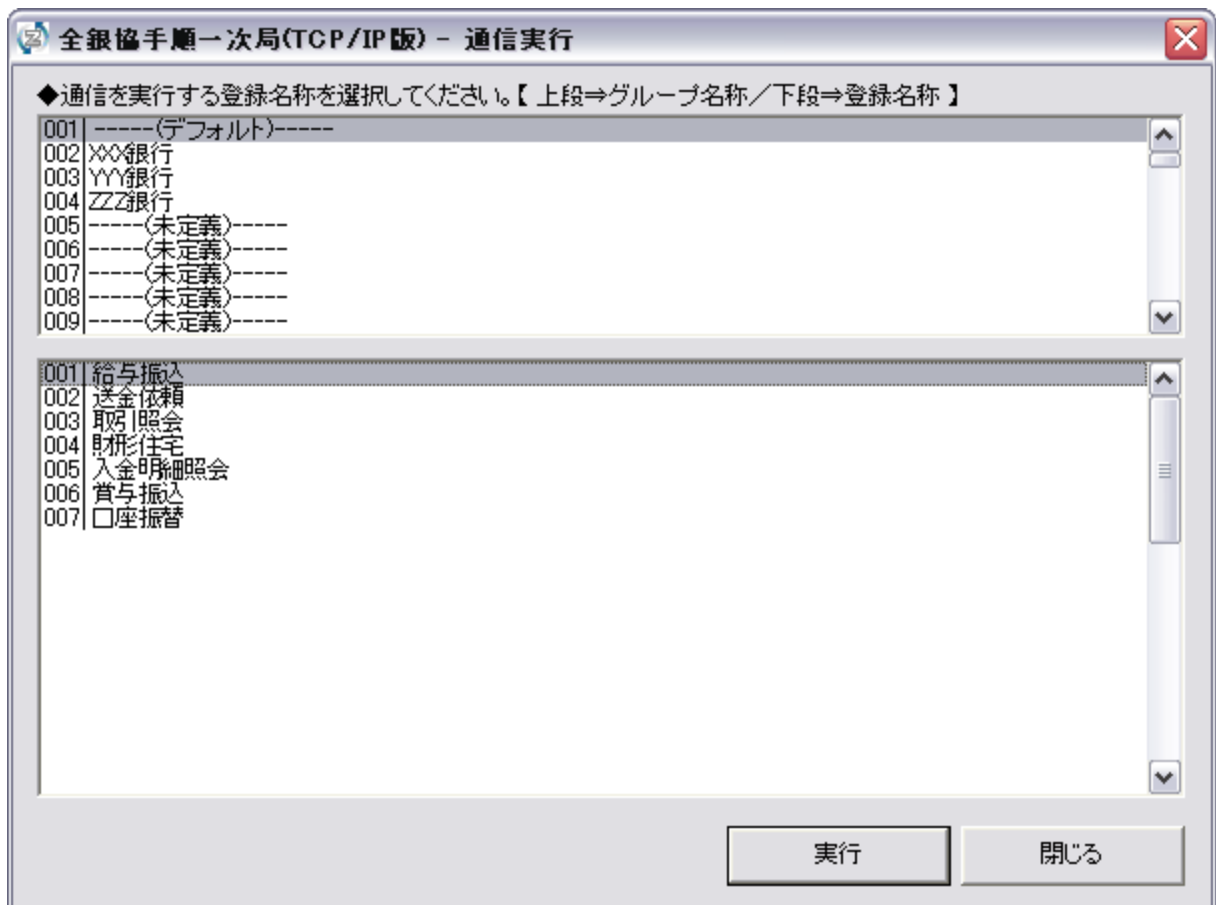


図6.1 登録名称の選択画面

- **実行** ..... 選択した登録名称を実行します。
- **閉じる** ..... 通信実行を取り消します。

## 6.2 直接、登録名称を指定する方法

通信実行プログラム(Ztcptran.exe)のパラメータに登録名称とグループ名称を指定すると、登録名称選択画面を表示せず、直ちに通信を開始します。ここでは、直接実行する場合の情報を定義するショートカットファイルへの設定内容を説明します。

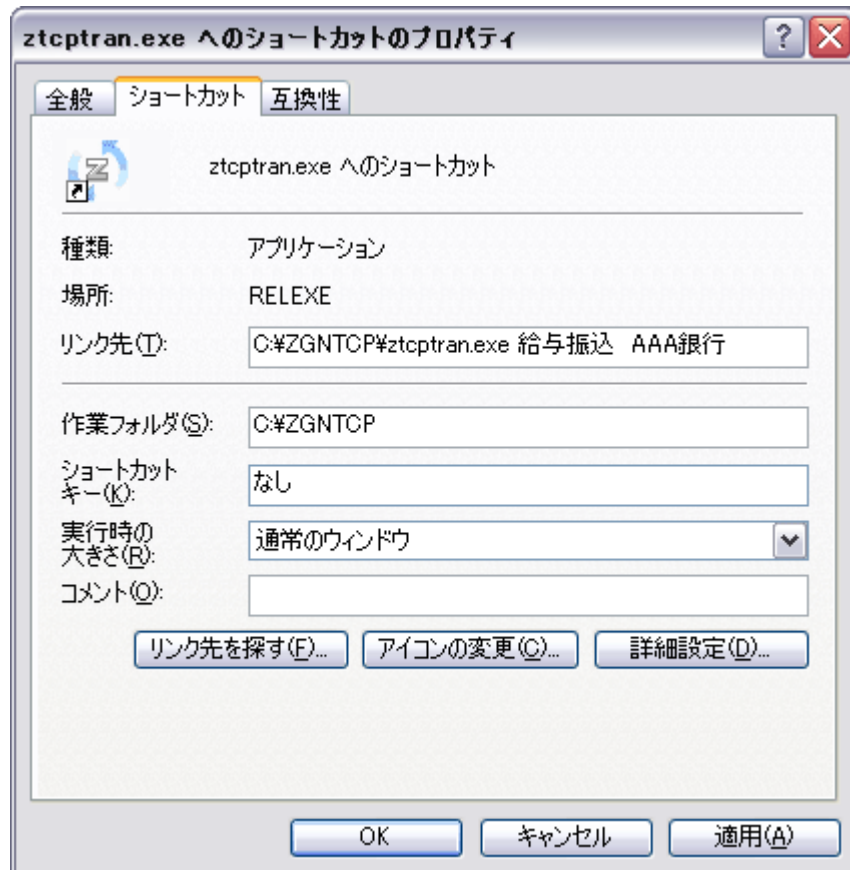


図 6.2 登録名称を直接、指定して実行する例

- **リンク先** ..... 通信実行プログラムと通信を行う登録名称とグループ名称を指定します。登録名称、グループ名称の順で指定してください。

**実行例:** ztcptran.exe<sup>\*1</sup> 給与振込<sup>\*2</sup> AAA銀行<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup> 通信実行プログラムを指定

<sup>\*2</sup> 登録名称を指定

<sup>\*3</sup> グループ名称を指定(省略した場合:デフォルトグループが有効)

- **作業フォルダ** ..... 通信実行プログラムがインストールされているディレクトリを指定します。
- **ショートカットキー** ..... “なし”にしてください。
- **実行時の大きさ** ..... “通常サイズのウィンドウ”にしてください。

通信実行プログラムは、通信終了後、正常終了した場合は 0 を返し、異常終了の場合は 0 以外の値を返します。この戻り値を利用し、バッチ等にて運用することも可能です。

### 6.3 旧フォーマットの終了情報出力

---

旧フォーマットの終了情報を出力するには、通信実行プログラム[旧フォーマット] (Ztcptran\_old.exe)で通信実行を行います。その際、実行パラメータとしてグループ名称は指定しないでください。

なお、通信実行プログラム[旧フォーマット]を実行した場合、グループは常に1つのグループ(デフォルトグループ)が使用されます。この場合、登録名称は最大50件まで登録が可能です。

## 6.4 実行時の状態

通信を実行すると、図 6.3 のようにウィンドウを作成して通信状況が表示されます。それぞれの表示内容は表 6.1 に示す通りです。

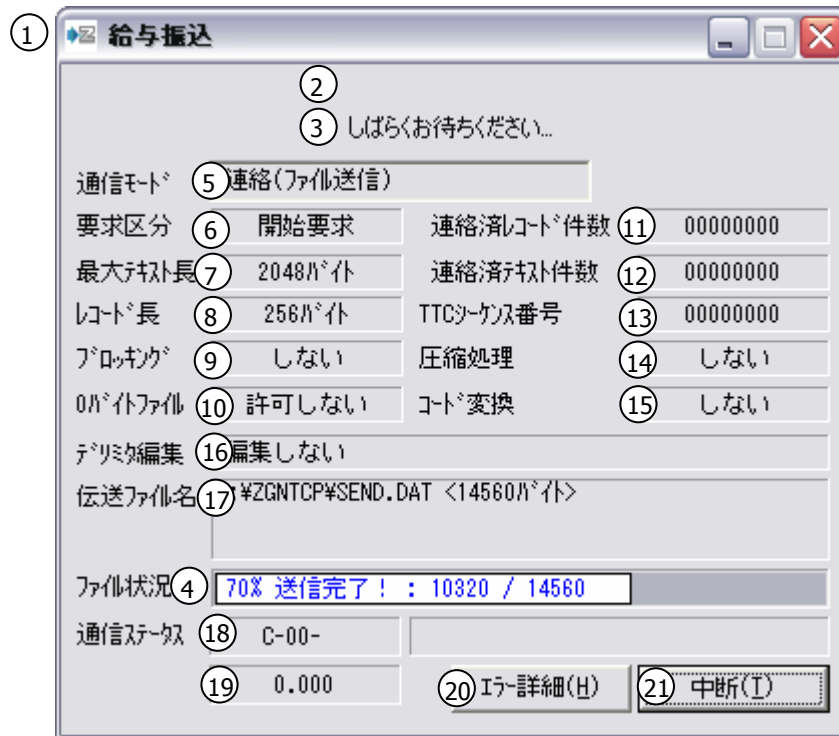


図 6.3 実行時のウィンドウ画面

表 6.1 表示項目の説明

| 番号 | 名称          | 説明   |
|----|-------------|--|
| 1  | ウィンドウタイトル   | ユーティリティで設定した通信条件の登録名称が表示されます。  |
| 2  | ガイドンス 1     | ユーティリティで設定したガイドンス(1)が表示されます。   |
| 3  | ガイドンス 2     | ユーティリティで設定したガイドンス(2)が表示されます。   |
| 4  | ファイル状況      | 実行時の状態を表示します。  |
| 5  | 通信モード       | 伝送方向を表示します。  |
| 6  | 要求区分        | 要求区分を表示します。  |
| 7  | 最大テキスト長     | 最大伝送テキスト長を表示します。   |
| 8  | レコード長       | レコード長を表示します。   |
| 9  | ブロッキング      | ブロッキング方法を表示します。  |
| 10 | 0 バイトファイル   | 0 バイトファイルを送信するか表示します。  |
| 11 | 連絡済レコード件数   | 伝送済レコード件数を表示します。   |
| 12 | 連絡済テキスト件数   | 伝送済テキスト件数を表示します。   |
| 13 | TTC シーケンス番号 | 伝送テキスト内の TTC シーケンス番号を表示します。  |
| 14 | 圧縮処理        | データを圧縮して送受信するか表示します。   |
| 15 | コード変換       | コード変換を行うか表示します。  |
| 16 | デリミタ編集      | 伝送ファイルの編集方法を表示します。   |
| 17 | 伝送ファイル名     | 伝送ファイル名称を表示します。  |
| 18 | 通信ステータス(1)  | ステータスを記号で表示します。このステータスは、「動作モード 状況 - エラー 詳細」の形式で表します。それぞれの内容は表 6.2 を参照してください。 |
| 19 | 通信ステータス(2)  | この項目は、伝送時の状態やエラーが発生した場合の内容を表示します。  |
| 20 | 中断 / 閉じる    | このボタンは伝送を中断する場合、クリックします。また、伝送が終了した場合には「閉じる」に名称が変わります。                        |
| 21 | エラー詳細       | 通常は使用できませんが、エラーが発生した場合有効になり、ボタンをクリックしてエラーに関する詳しいオンラインヘルプを参照します。              |

表 6.2 ステータスの説明

| ステータス | コード   | 内容                         |
|-------|-------|----------------------------|
| 動作モード | 0     | 正常終了                       |
|       | A     | 照会(ファイル受信)                 |
|       | B     | 連絡(ファイル送信)                 |
|       | C     | 準備中                        |
| 終了状況  | 00    | アイドル状態(準備中/終了)             |
|       | DL    | ダイヤルアップ接続中                 |
|       | DR    | ダイヤルアップ(再ダイヤル)接続中          |
|       | CN    | ネットワーク接続中                  |
|       | T0    | 開局要求電文 - 送信中               |
|       | T1    | 開局回答電文 - 受信                |
|       | T2    | 閉局要求電文 - 送信中               |
|       | T3    | 閉局回答電文 - 受信                |
|       | F0    | 開始要求電文 - 送信中               |
|       | F1    | 開始回答電文 - 受信                |
|       | F2    | 終了要求電文 - 送信中 / 終了要求電文 - 受信 |
|       | F3    | 終了回答電文 - 送信中 / 終了回答電文 - 受信 |
|       | F4    | 再送要求電文 - 送信中               |
|       | D0    | データ送信中                     |
|       | D1    | データ受信                      |
|       | エラー詳細 | 00                         |
| E0    |       | オペレータキャンセル                 |
| B0    |       | システムエラー                    |
| B1    |       | 回線が切断されました。                |
| B2    |       | タイムアウトになりました。              |
| B3    |       | 実行に必要なメモリを確保できません。         |
| B4    |       | 不正なサブレイヤヘッダを受信しました。        |
| B5    |       | 受信長エラー                     |
| B6    |       | 受信レコードと指定レコード長が不一致         |
| B7    |       | 受信データの圧縮サイズが不正です。          |
| A1    |       | 制御電文 - 電文区分エラー             |
| A2    |       | 接続先 IP アドレスが正しくありません。      |
| R1    |       | ダイヤルアップ接続で異常を検知しました。       |
| R2    |       | 回線が使用中です。                  |
| R3    |       | 応答がありません。                  |
| RE    |       | ダイヤルアップ接続用のモジュールが見つかりません。  |
| RN    |       | この環境でのダイヤルアップ接続は未サポートです。   |
| N1    |       | ネットワークに接続できませんでした。         |
| N2    |       | ネットワーク接続先に到達できませんでした。      |
| NE    |       | ネットワークエラーが発生しました。          |
| Sa    |       | 伝送ファイルがオープンできません。          |

| ステータス | コード | 内容  |
|-------|-----|---|
| エラー詳細 | Sb  | 伝送ファイルに有効データがありません。   |
|       | Sc  | 伝送ファイルが他のアプリケーションで使用中です。  |
|       | Sd  | 伝送ファイルが圧縮できません。   |
|       | D1  | ディスク I/O エラー  |
|       | T0  | 通信制御 - サービス時間帯エラー   |
|       | T1  | 通信制御 - その他エラー   |
|       | T2  | 通信制御 - 電文区分エラー<br>通信制御 - 相手センター確認コードエラー<br>通信制御 - 当方センター確認コードエラー<br>通信制御 - パスワードエラー<br>通信制御 - アプリケーション ID エラー<br>通信制御 - モードエラー<br>通信制御 - その他エラー   |
|       | T3  | 通信制御 - 相手センター確認コードエラー   |
|       | T4  | 通信制御 - 当方センター確認コードエラー   |
|       | T5  | 通信制御 - 通信年月日時分秒エラー  |
|       | T6  | 通信制御 - パスワードエラー   |
|       | T7  | 通信制御 - アプリケーション ID エラー  |
|       | T8  | 通信制御 - モードエラー   |
|       | T9  | 通信制御 - 拡張エリアエラー   |
|       | F0  | ファイル制御 - ファイルなし   |
|       | F1  | ファイル制御 - その他エラー   |
|       | F2  | ファイル制御 - 電文区分エラー<br>ファイル制御 - ファイル名エラー<br>ファイル制御 - ファイルアクセスキーエラー<br>ファイル制御 - テキスト数エラー<br>ファイル制御 - レコード数エラー<br>ファイル制御 - レコード長エラー<br>ファイル制御 - 二重ファイル伝送<br>ファイル制御 - レコード ID エラー<br>ファイル制御 - データ圧縮エラー<br>ファイル制御 - その他エラー |
|       | F3  | ファイル制御 - ファイル名エラー   |
|       | F4  | ファイル制御 - ファイルアクセスキーエラー  |
|       | F5  | ファイル制御 - テキスト数エラー   |
|       | F6  | ファイル制御 - レコード数エラー   |
|       | F7  | ファイル制御 - レコード ID エラー  |
|       | F8  | ファイル制御 - レコード長エラー   |
|       | F9  | ファイル制御 - 再送指定区分エラー  |
|       | Fa  | ファイル制御 - データ圧縮 ID エラー   |
|       | Fb  | ファイル制御 - ファイル名補助情報エラー   |
|       | Fc  | ファイル制御 - 拡張エリアエラー   |
|       | Fd  | TTC 部 - 情報区分誤り  |

| ステータス | コード | 内容                    |
|-------|-----|-----------------------|
|       | Fe  | TTC 部 - テキストシーケンス番号誤り |
|       | Ff  | TTC 部 - テキスト長誤り       |

- ※1 T2 および F2 は受信した制御電文の処理結果コードによって内容が違います。
- ※2 エラー詳細に関する詳しい説明は「**第 7 章 エラー処理について**」を参照してください。



## 6.5 終了情報ファイルの構成

以下に終了情報ファイルのフォーマットを示します。

■通常フォーマットは、1レコード 140 バイトで構成されます。

| 1          | 2        | 3        | 4        | 5     |    |           | 6            | 7           | 8           | 9      | 10     |
|------------|----------|----------|----------|-------|----|-----------|--------------|-------------|-------------|--------|--------|
| グループ<br>名称 | 登録<br>名称 | 開始<br>日時 | 終了<br>日時 | ステータス |    |           | 制御電文<br>処理結果 | 伝送<br>レコード数 | 伝送<br>テキスト数 | C<br>R | L<br>F |
|            |          |          |          | モード   | 状況 | エラー<br>詳細 |              |             |             |        |        |
| 40         | 30       | 24       | 24       | 1     | 2  | 2         | 2            | 8           | 5           | 1      | 1      |

### (1)グループ名称

この通信を実行したグループ名称が編集されます。  
登録名称の後ろにはスペースが埋められます。

### (2)登録名称

この通信を実行した登録名称が編集されます。  
登録名称の後ろにはスペースが埋められます。

### (3)開始日時

通信の実行を開始した年月日時分秒が編集されます。

### (4)終了日時

通信の実行が終了した年月日時分秒が編集されます。

### (5)ステータス

通信中に受信した制御電文の処理結果コードを編集します。  
エラーが発生した場合、そのときに受信した処理結果コードを編集します。

### (6)制御電文処理結果

通信制御電文もしくはファイル制御電文でセンターがエラーを返してきた場合、その処理結果コードが編集されます。また、ダイヤルアップ接続でのエラーやネットワークでのエラーが発生した場合には、その詳細コードが編集されます。

### (7)伝送レコード数

全銀一次局が終了した時点の伝送レコード件数を編集します。

### (8)伝送テキスト数

全銀プログラムが終了した時点の伝送テキスト件数を編集します。

■旧フォーマットは、1レコード80バイトで構成されます。

| 1     |    |           | 2            | 3           | 4           | 5  | 6    | 7      | 8      |
|-------|----|-----------|--------------|-------------|-------------|----|------|--------|--------|
| ステータス |    |           | 制御電文<br>処理結果 | 伝送<br>レコード数 | 伝送<br>テキスト数 | 日付 | 登録名称 | C<br>R | L<br>F |
| モード   | 状況 | エラー<br>詳細 |              |             |             |    |      |        |        |
| 1     | 2  | 2         | 2            | 8           | 5           | 24 | 34   | 1      | 1      |

#### (1)ステータス

通信中に受信した制御電文の処理結果コードを編集します。  
エラーが発生した場合、そのときに受信した処理結果コードを編集します。

#### (2)制御電文処理結果

通信制御電文もしくはファイル制御電文でセンターがエラーを返してきた場合、その処理結果コードが編集されます。また、ダイヤルアップ接続でのエラーやネットワークでのエラーが発生した場合には、その詳細コードが編集されま  
す。

#### (3)伝送レコード数

全銀プログラムが終了した時点の伝送レコード件数を編集します。  
この値は、通信処理が正常終了した場合のみ有効になります。

#### (4)伝送テキスト数

全銀プログラムが終了した時点の伝送テキスト件数を編集します。

#### (5)日付

通信の実行が終了した年月日時分秒が編集されます。

#### (6)登録名称

この通信を実行した登録名称が編集されます。  
登録名称の後ろにはスペースが埋められます。

## 6.6 終了情報の選択

通信結果を表示したい登録名称を選択します。

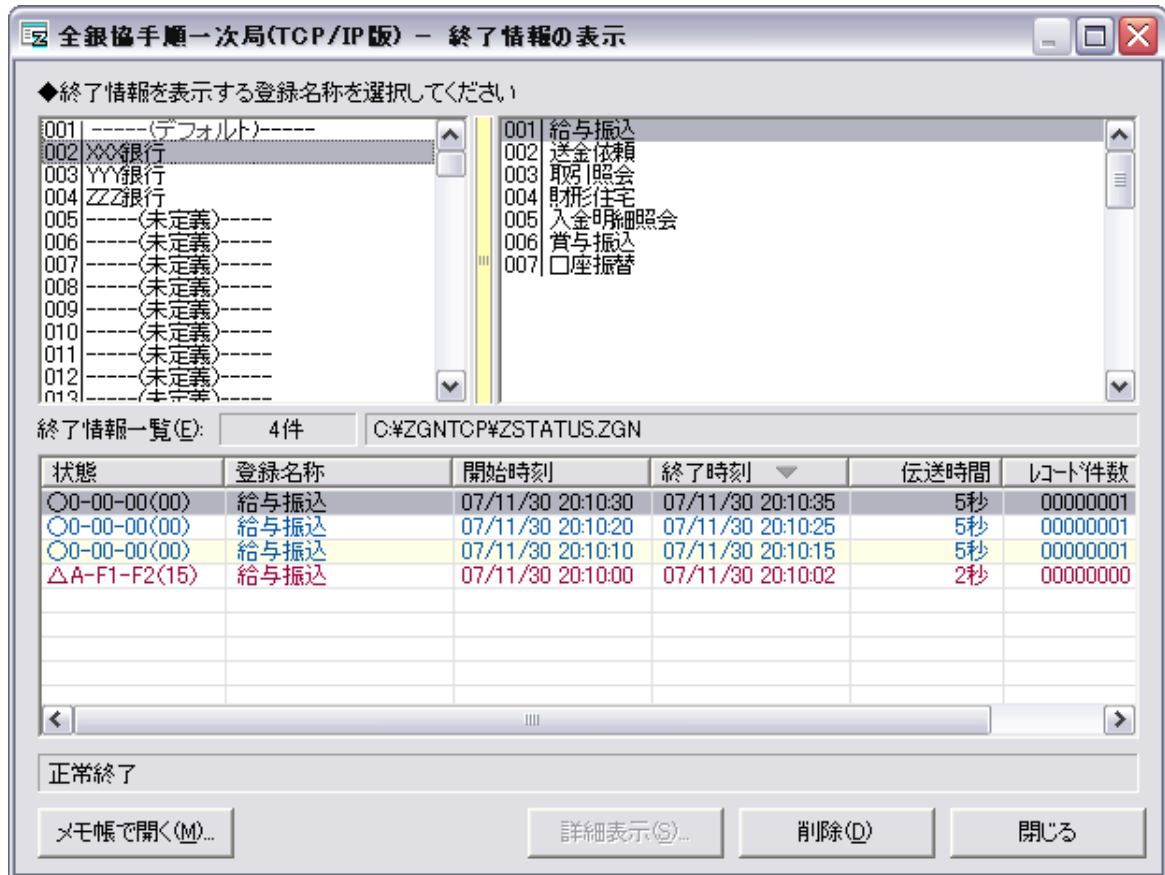


図 6.4 終了情報の選択画面

- **メモ帳で開く(M)...** .....終了情報ファイルをメモ帳で開きます。
- **詳細表示(S)...** .....終了情報一覧より選択した終了情報を表示します。
- **削除(D)** .....選択した登録名称の終了情報を削除します。
- **閉じる** .....終了情報の一覧表示を終了します。

## 6.7 終了情報の表示

全銀協手順一次局」(TCP/IP版) - 終了情報の表示

|          |                   |
|----------|-------------------|
| グループ名称   | XXX銀行             |
| 登録名称     | 給与振込              |
| 通信開始時間   | 07/11/30 22:20:28 |
| 通信終了時間   | 07/11/30 22:20:32 |
| 動作モード    |                   |
| 終了状況     | 00:正常終了           |
| エラー詳細    |                   |
| 制御電文処理結果 | 00                |
| ログ件数     | 00000030          |
| テスト件数    | 00030             |

前(P) 閉じる

次(N) エラー詳細(H)

図 6.5 終了情報の表示画面

- **前(P)** ..... 日付が新しい終了情報を表示します。
- **次(N)** ..... 日付が古い終了情報を表示します。
- **閉じる** ..... 終了情報の表示を終了します。
- **エラー詳細(H)** ..... エラー詳細の項目に内容が編集されている場合、このボタンが有効になります。クリックすると、このエラーに関するオンラインヘルプが表示されます。

## 第7章 エラー処理について

---

この章では、エラーが発生した原因と対策方法について説明します。

## 7.1 エラーが発生した理由と対策方法

表 7.1 エラーが発生した理由と対策方法

|    | エラー詳細                           | 理由と対策方法   |
|----|---------------------------------|---|
| 1  | <b>E0</b> オペレータキャンセル            | オペレータ指示により、通信を中断した場合に発生します。   |
| 2  | <b>B0</b> システムエラー               | 通信の続行が不可能になった場合、設定されます。このエラーになる場合は基本的にはありませんが、システムの動作が不安定になったりした場合やプログラムが暴走したりした場合が考えられますので、システムを再起動して、通信を行ってください。  |
| 3  | <b>B1</b> 回線が切断されました。           | ホストコンピュータが回線を切断してきた場合、設定されます。これは、制御電文に設定する内容が誤っていることが考えられます。トレースを取得し、正しい内容を送信しているか確認して、ホストコンピュータの担当者に問い合わせてください。  |
| 4  | <b>B2</b> タイムアウトになりました。         | 全銀協手順(TCP/IP 版)は通信中の無通信状態が標準で 30 秒と定義されています。その間に、データ電文や論理 ACK を受信できなかった場合に設定されます。   |
| 5  | <b>B3</b> 実行に必要なメモリを確保できません。    | 全銀協手順(TCP/IP 版)は通信中のステータスを管理する為、グローバルにメモリを割り当てます。このメモリを確保出来ない場合、設定されます。他のアプリケーションを終了させるなどして、空きメモリを確保するようにしてください。  |
| 6  | <b>B4</b> 不正なサブレイヤヘッダを受信しました。   | 全銀協手順(TCP/IP 版)は電文の最初に必ず、サブレイヤ(SH)という 8 バイトのヘッダが付加されます。この内容が正しくない場合、設定されます。どのような内容のサブレイヤを受信したかは System ディレクトリ(例:Windows/System)に Hatcp.dat ファイル(テキスト形式)を作成してその内容を書き込みますので、そちらを参照してください。 |
| 7  | <b>B5</b> 受信長エラー                | 指定した電文長と違う長さのデータを受信した場合、設定されます。トレースを取得して確認してください。   |
| 8  | <b>B6</b> 受信レコードと指定レコード長が不一致    | 受信テキストが指定レコード長の倍数でない場合、設定されます。トレースを取得して確認してください。  |
| 9  | <b>B7</b> 受信データの圧縮サイズが不正です。     | 圧縮された受信テキストを正しく解凍できない場合、設定されます。トレースを取得して確認してください。   |
| 10 | <b>A1</b> 制御電文 — 電文区分エラー        | 受信した制御電文の電文区分が一致しない場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 11 | <b>A2</b> 接続先 IP アドレスが正しくありません。 | 指定の接続先 IP アドレスの指定が正しくない場合、設定されます。IP アドレスを正しく設定しているか確認してください。(例:192.168.100.100 のようなドットデシマルか、ZgnTcpHost のようなドメイン名で表記します。)  |
| 12 | <b>R1</b> ダイヤルアップ接続で異常を検知しました。  | ダイヤルアップ接続で異常を検知した場合、設定されます。詳細結果は、終了情報ファイルの制御電文処理結果の領域に編集されます。以下のような詳細コードが編集されます。また、このエラーが発生した場合は、システムディレクトリ(例:Windows/System)に Hatcp.dat ファイル(テキスト形式)を作成してその内容を書き込みます。                  |
|    | 詳細                              | 説明  |
|    |                                 | <b>00</b> 操作保留中です。  |
|    |                                 | <b>01</b> 無効なポート ハンドルが検出されました。  |
|    |                                 | <b>02</b> 指定したポートは既に開かれています。  |
|    |                                 | <b>03</b> 呼び出し側のバッファが小さすぎます。  |
|    |                                 | <b>04</b> 正しくない情報が指定されました。  |
|    |                                 | <b>05</b> ポート情報を設定できません。  |
|    |                                 | <b>06</b> 指定したポートは接続されていません。  |
|    |                                 | <b>07</b> 無効なイベントが検出されました。  |

|  | エラー詳細     | 理由と対策方法   |
|--|-----------|---|
|  | <b>08</b> | 指定したデバイスはありません。                                 |
|  | <b>09</b> | 指定したデバイスの種類はありません。                              |
|  | <b>0a</b> | 無効なバッファが指定されました。                                |
|  | <b>0b</b> | 指定したルートは利用できません。                                |
|  | <b>0c</b> | 指定したルートは割り当てられていません。                            |
|  | <b>0d</b> | 無効な圧縮が指定されました。                                  |
|  | <b>0e</b> | バッファが不足しています。                                   |
|  | <b>0f</b> | 指定したポートが見つかりませんでした。                             |
|  | <b>10</b> | 非同期要求が保留中です。                                    |
|  | <b>11</b> | モデム（またはほかの接続デバイス）は既に切断されています。                   |
|  | <b>12</b> | 指定したポートは開かれていません。                               |
|  | <b>13</b> | リモート コンピュータへの接続を確立できなかったため、この接続に使われたポートは閉じています。 |
|  | <b>14</b> | エンドポイントを指定できませんでした。                             |
|  | <b>15</b> | 電話帳ファイルを開くことができませんでした。                          |
|  | <b>16</b> | 電話帳ファイルを読み込むことができませんでした。                        |
|  | <b>17</b> | この接続のための電話帳エントリが見つかりませんでした。                     |
|  | <b>18</b> | 電話帳ファイルを更新できませんでした。                             |
|  | <b>19</b> | 電話帳ファイルの中に無効な情報が見つかりました。                        |
|  | <b>1a</b> | 文字列を読み込むことができませんでした。                            |
|  | <b>1b</b> | キーが見つかりませんでした。                                  |
|  | <b>1c</b> | リモート コンピュータにより接続が途中で切断されました。                    |
|  | <b>1d</b> | この接続はリモート コンピュータによって切断されました。                    |
|  | <b>1e</b> | ハードウェア障害のために、モデム（またはほかの接続デバイス）は切断されました。         |
|  | <b>1f</b> | モデム（またはほかの接続デバイス）はユーザーによって切断されました。              |
|  | <b>20</b> | 構造体のサイズが間違っています。                                |
|  | <b>21</b> | モデム（またはほかの接続デバイス）は既に使用中か、正しく構成されていません。          |
|  | <b>22</b> | このコンピュータをリモート ネットワークに登録できませんでした。                |
|  | <b>23</b> | 不明なエラーが発生しました。                                  |
|  | <b>24</b> | ポートに違うデバイスが装着されています。                            |
|  | <b>25</b> | 文字列が検出されましたが、変換できませんでした。                        |
|  | <b>26</b> | 要求はタイムアウトしました。                                  |
|  | <b>27</b> | 非同期ネットワークがありません。                                |
|  | <b>2b</b> | サーバーのネットワーク アダプタに障害があります。                       |
|  | <b>2c</b> | ネットワーク メッセージを受信しません。                            |
|  | <b>2d</b> | 内部認証エラーが発生しました。                                 |
|  | <b>2e</b> | このアカウントは、この時間帯にログオンすることを許可されていません。              |
|  | <b>2f</b> | このアカウントは使用できません。                                |
|  | <b>30</b> | このアカウントのパスワードの有効期限が切れています。                      |
|  | <b>31</b> | このアカウントにはダイヤルインのためのアクセス許可がありません。                |
|  | <b>32</b> | リモート アクセス サーバーからの応答がありません。                      |

| エラー詳細 |                                     | 理由と対策方法   |
|-------|-------------------------------------|---|
|       |                                     | <b>33</b> モデム（またはほかの接続デバイス）からエラーが返されました。<br><b>34</b> モデム（またはほかの接続デバイス）からの応答を認識できませんでした。<br><b>40</b> このシステムでメモリが不足しています。<br><b>41</b> モデム（またはほかの接続デバイス）が正しく構成されていません。<br><b>42</b> モデム（またはほかの接続デバイス）が機能していません。<br><b>43</b> メディア .INI ファイルを読み取ることができません。<br><b>44</b> 接続を終了しました。<br><b>4c</b> 電話回線はビジーです。<br><b>4d</b> モデム（またはほかの接続デバイス）でなく人が応答しました。<br><b>4e</b> リモート コンピュータが応答しませんでした。<br><b>4f</b> キャリアを検出できませんでした。<br><b>50</b> 発信音がありませんでした。<br><b>51</b> モデム（またはほかの接続デバイス）から一般エラーが返されました。<br><b>52</b> セクション名に書き込むときにエラーが発生しました。<br><b>5b</b> ユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が無効なため、このドメインにアクセスできませんでした。<br><b>5c</b> モデム（またはほかの接続デバイス）でハードウェア障害が発生しました。<br><b>78</b> リモート コンピュータへの接続を確立できませんでした。 |
| 13    | <b>R2</b> 回線が使用中です。                 | ダイヤルアップ接続を試みましたが、接続先が話し中の場合、設定されます。しばらく時間を置いてから、再接続してください。  |
| 14    | <b>R3</b> 応答がありません。                 | ダイヤルアップ接続を試みましたが、接続先からの応答がない場合、設定されます。接続先の電話番号が正しいか、ホストコンピュータが立ち上がっているか確認してください。  |
| 15    | <b>RE</b> ダイヤルアップ接続用のモジュールが見つかりません。 | ダイヤルアップ用のライブラリ(RASAP132.DLL や TAP132.DLL)がシステムに存在しない場合、設定されます。ダイヤルアップ接続を使用するには、システムにダイヤルアップサービスを予め組み込む必要があります。コントロールパネルのネットワークにリモートアクセスサービス(ダイヤルアップサービスと同等)というサービスが組み込まれているか確認してください。   |
| 16    | <b>N1</b> ネットワークに接続できませんでした。        | ネットワーク接続を失敗した場合、設定されます。この場合は、接続先の IP アドレスが正しいかもしくはホストコンピュータが立ち上がっているか確認してください。また、終了情報ファイルの制御電文処理には(3d)が編集されます。  |
| 17    | <b>N2</b> ネットワーク接続先に到達できませんでした。     | ネットワーク接続を失敗した場合、設定されます。この場合は、デフォルトゲートウェイの設定等 TCP/IP プロトコルの設定が正しいか確認してください。また、終了情報ファイルの制御電文処理には(33)が編集されます。  |
| 18    | <b>NE</b> ネットワークエラーが発生しました。         | ネットワーク上にエラーが発生した場合、設定されます。また、終了情報ファイルの制御電文処理結果に以下のような詳細コードが編集されます。<br>このエラーが発生した場合 System ディレクトリ(例:Win95/System)に Hatcp.dat ファイル(テキスト形式)を作成してその内容を書き込みます。   |
|       | 詳細                                  | 説明  |
|       | <b>0d</b>                           | 要求したアドレスはブロードキャストのアドレスですが、適切なフラグが設定されていませんでした。  |
|       | <b>0e</b>                           | SOCKADDR 構造体のサイズよりも小さくなっています。   |
|       | <b>16</b>                           | 受け入れる前に Listen が呼び出されていません。   |



| エラー詳細 |                                     | 理由と対策方法   |
|-------|-------------------------------------|---|
|       |                                     | <p><b>18</b> 受け入れるエントリ上のキューが空で利用できるディスクリプタがありません。</p> <p><b>23</b> ソケットは非ブロッキングになっていて、受け入れる接続がありません。</p> <p><b>24</b> 実行中の Windows ソケットの呼び出しがブロッキングされています。</p> <p><b>26</b> ディスクリプタがソケットではありません。</p> <p><b>27</b> 宛先アドレスが必要です。</p> <p><b>28</b> データグラムが長すぎて、指定したバッファに入りきらないため、切り詰められました。</p> <p><b>2d</b> 参照しているソケットは、接続指向のサービスをサポートするタイプではありません。</p> <p><b>2f</b> 指定したアドレスファミリーは、このソケットではサポートしていません。</p> <p><b>30</b> 指定したアドレスは使用中です。</p> <p><b>31</b> 指定したアドレスはローカルマシンからは利用できません。</p> <p><b>32</b> Windows ソケットのインプリメントが、ネットワークサブシステムの異常を検出しました。</p> <p><b>35</b> タイムアウトまたはその他の障害により、仮想回路はアボートされました。</p> <p><b>36</b> リモート側から仮想回路がリセットされました。</p> <p><b>37</b> 利用できるバッファ領域がありません。</p> <p><b>38</b> ソケットは既に接続されています。</p> <p><b>39</b> ソケットが接続されていません。</p> <p><b>3a</b> ソケットはシャットダウンされました。</p> <p><b>3c</b> 接続を試みましたが、タイムアウトで接続を確立できませんでした。</p> <p><b>3d</b> 接続を試みましたが、リジェクトされました。</p> <p><b>50</b> ソケットが初期化されていません。</p> |
| 19    | <b>Sa</b> 伝送ファイルがオープンできません。         | 伝送ファイル名が誤っている場合、連絡時に送信するファイルが存在しない場合に設定されます。伝送ファイル名とそのファイルパスを確認してください。  |
| 20    | <b>Sb</b> 伝送ファイルに有効データがありません。       | 連絡時、送信するファイルにデータが存在しない場合、設定されます。伝送ファイルを確認してください。  |
| 21    | <b>Sc</b> 伝送ファイルが他のアプリケーションで使用済みです。 | 伝送するファイルが、他のアプリケーションで使用済みの場合、設定されます。使用中のアプリケーションをクローズして再度、実行してください。   |
| 22    | <b>Sd</b> 伝送ファイルが圧縮できません。           | 連絡時、送信ファイルが圧縮指定の場合、予め圧縮のチェックを行い、伝送可能かを判別します。この時、伝送データがテキスト長内に収まり切れなかった場合や、圧縮後のファイルサイズが元のファイルサイズより大きくなった場合、レコード長が 30 バイト未満の場合に設定されます。  |
| 23    | <b>D1</b> ディスク I/O エラー              | ディスクの読み込み、書き込みに失敗した場合、設定されます。ディスクが壊れていないか、伝送ファイルがフロッピーディスクであれば、書き込み禁止になっていないかなどを確認してください。   |
| 24    | <b>T0</b> 通信制御 — サービス時間帯エラー         | 開局要求に設定する通信年月日時分秒がホストコンピュータと一致しない場合、設定されます。通信年月日時分秒の設定内容を確認してください。受信した通信制御電文の開局回答の処理結果には <b>(0x13)</b> が設定されます。   |
| 25    | <b>T1</b> 通信制御 — その他エラー             | 受信した通信制御電文の処理結果にその他エラー <b>(0x99)</b> が編集されている場合、設定されます。ホストコンピュータの担当者にどの項目が誤っているか確認してください。   |
| 26    | <b>T2</b> 通信制御電文の処理結果エラー            | 受信した通信制御電文の処理結果によって以下のエラーになります。この処理結果は、終了情報ファイルの制御電文処理結果に編集されます。  |

|    | エラー詳細                                  | 理由と対策方法  |
|----|--|--|
|    | 通信制御 —<br>電文区分エラー                      | 受信した通信制御電文の処理結果に電文区分エラー ( <b>0x10</b> ) が編集されている場合、設定されます。要求区分が開始要求であるか再送要求であるか確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                         |
|    | 通信制御 —<br>相手センター<br>確認コードエラー           | 受信した通信制御電文の処理結果に相手センター確認コードエラー ( <b>0x11</b> ) が編集されている場合、設定されます。相手センター確認コードを確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                           |
|    | 通信制御 —<br>当方センター<br>確認コードエラー           | 受信した通信制御電文の処理結果に当方センター確認コードエラー ( <b>0x12</b> ) が編集されている場合、設定されます。当方センター確認コードを確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                           |
|    | 通信制御 —<br>パスワードエラー                     | 受信した通信制御電文の処理結果にパスワードエラー ( <b>0x14</b> ) が編集されている場合、設定されます。パスワードを確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                                       |
|    | 通信制御 —<br>アプリケーション<br>ID エラー           | 受信した通信制御電文の処理結果にアプリケーション ID エラー ( <b>0x15</b> ) が編集されている場合、設定されます。この値は全銀協手順では、EBCDIC コードで'0' (0xF0) 固定ですので、ホストコンピュータの担当者に相談してください。 |
|    | 通信制御 —<br>モードエラー                       | 受信した通信制御電文の処理結果にモードエラー ( <b>0x16</b> ) が編集されている場合、設定されます。連絡か照会なのかを確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                                      |
|    | 通信制御 —<br>その他エラー                       | 受信した通信制御電文の処理結果に定義されていない処理結果が編集されている場合、設定されます。終了情報の処理結果コードをホストコンピュータの担当者に相談してください。   |
| 27 | <b>T3</b> 通信制御 —<br>相手センター<br>確認コードエラー | 通信制御電文のチェックにおいて、相手センター確認コードが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 28 | <b>T4</b> 通信制御 —<br>当方センター<br>確認コードエラー | 通信制御電文のチェックにおいて、当方センター確認コードが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 29 | <b>T5</b> 通信制御 —<br>通信年月日<br>時分秒エラー    | 通信制御電文チェックにおいて、通信年月日時分秒が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 30 | <b>T6</b> 通信制御 —<br>パスワードエラー           | 通信制御電文のチェックにおいて、パスワードが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 31 | <b>T7</b> 通信制御 —<br>アプリケーション<br>ID エラー | 通信制御電文のチェックにおいて、アプリケーション ID が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。  |
| 32 | <b>T8</b> 通信制御 —<br>モードエラー             | 通信制御電文のチェックにおいて、モードが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 33 | <b>T9</b> 通信制御 —<br>拡張エリアエラー           | 通信制御電文のチェックにおいて、拡張エリアが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 34 | <b>F0</b> ファイル制御 —<br>ファイルなし           | 受信したファイル制御電文の処理結果にファイルなし ( <b>0x17</b> ) が編集されている場合、設定されます。既にそのファイルを受信している時などに設定されますので、もう一度受信したい場合は、ホストコンピュータの担当者に相談してください。        |
| 35 | <b>F1</b> ファイル制御 —<br>その他エラー           | 受信したファイル制御電文の処理結果にその他エラー ( <b>0x99</b> ) が編集されている場合、設定されます。ホストコンピュータの担当者にどの項目が誤っているか確認してください。                                      |

|                    | エラー詳細  | 理由と対策方法  |
|--------------------|--|--|
| 36                 | <b>F2</b> ファイル制御 電文の<br>処理結果エラー  | 受信したファイル制御電文の処理結果によって以下のエラーになります。  |
|                    | ファイル制御 —<br>電文区分エラー  | 受信したファイル制御電文の処理結果に電文区分エラー ( <b>0x10</b> ) が編集されている場合、設定されます。要求区分が開始要求であるか再送要求であるか確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                     |
|                    | ファイル制御 —<br>ファイル名エラー   | 受信したファイル制御電文の処理結果にファイル名エラー ( <b>0x11</b> ) が編集されている場合、設定されます。産業別コードと全銀協規定ファイル名を確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                       |
|                    | ファイル制御 —<br>ファイルアクセスキー<br>エラー  | 受信したファイル制御電文の処理結果にファイルアクセスキーエラー ( <b>0x12</b> ) が編集されている場合、設定されます。ファイルアクセスキーを確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                         |
|                    | ファイル制御 —<br>テキスト数エラー   | 受信したファイル制御電文の処理結果にテキスト数エラー ( <b>0x13</b> ) が編集されている場合、設定されます。終了情報ファイルのテキスト数を確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                          |
|                    | ファイル制御 —<br>レコード数エラー   | 受信したファイル制御電文の処理結果にレコード数エラー ( <b>0x14</b> ) が編集されている場合、設定されます。終了情報ファイルのレコード数を確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                          |
|                    | ファイル制御 —<br>レコード長エラー   | 受信したファイル制御電文の処理結果にレコード長エラー ( <b>0x15</b> ) が編集されている場合、設定されます。レコード長を確認し、ホストコンピュータの担当者に相談してください。                                   |
|                    | ファイル制御 —<br>二重ファイル伝送   | 受信したファイル制御電文の処理結果に二重ファイル伝送 ( <b>0x16</b> ) が編集されている場合、設定されます。ファイル伝送を行う両者間の取り決めで 2 回以上伝送しようとした場合に設定されますので、ホストコンピュータの担当者に相談してください。 |
|                    | ファイル制御 —<br>レコード ID エラー  | 受信したファイル制御電文の処理結果にレコード ID エラー ( <b>0x18</b> ) が編集されている場合設定されます。ホストコンピュータの担当者に相談してください。   |
|                    | ファイル制御 —<br>データ圧縮エラー   | 受信したファイル制御電文の処理結果にデータ圧縮 ID エラー ( <b>0x19</b> ) が編集されている場合、設定されます。ホストコンピュータの担当者に相談してください。   |
| ファイル制御 —<br>その他エラー | 受信したファイル制御電文の処理結果に定義されていない処理結果が編集されている場合、設定されます。終了情報の処理結果コードをホストコンピュータの担当者に相談してください。 |  |
| 37                 | <b>F3</b> ファイル制御 —<br>ファイル名エラー   | ファイル制御電文のチェックにおいて、全銀協規定ファイル名が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。  |
| 38                 | <b>F4</b> ファイル制御 —<br>ファイルアクセスキー<br>エラー  | ファイル制御電文のチェックにおいて、ファイルアクセスキーが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。  |
| 39                 | <b>F5</b> ファイル制御 —<br>テキスト数エラー   | ファイル制御電文のチェックにおいて、テキスト数が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 40                 | <b>F6</b> ファイル制御 —<br>レコード数エラー   | ファイル制御電文のチェックにおいて、レコード数が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 41                 | <b>F7</b> ファイル制御 —<br>レコード ID エラー  | ファイル制御電文のチェックにおいて、レコード ID が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。  |
| 42                 | <b>F8</b> ファイル制御 —<br>レコード長エラー   | ファイル制御電文のチェックにおいて、レコード長が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。   |
| 43                 | <b>F9</b> ファイル制御 —<br>再送指定区分エラー  | ファイル制御電文のチェックにおいて、再送指定区分が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。  |

|    | エラー詳細                                  | 理由と対策方法  |
|----|--|--|
| 44 | <b>Fa</b> ファイル制御 —<br>データ圧縮<br>ID エラー  | ファイル制御電文のチェックにおいて、データ圧縮 ID が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。                               |
| 45 | <b>Fb</b> ファイル制御 —<br>ファイル名補助情報<br>エラー | ファイル制御電文のチェックにおいて、ファイル名補助情報が不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。                               |
| 46 | <b>Fc</b> ファイル制御 —<br>拡張エリアエラー         | ファイル制御電文のチェックにおいて、拡張エリアが不一致の場合、設定されます。トレースを取得して制御電文の内容を確認してください。                                   |
| 47 | <b>Fd</b> TTC 部 —<br>情報区分誤り            | 制御電文の TTC 部のチェックにおいて、情報区分が不一致でない場合、設定されます。設定してある TTC 制御文字を確認してください。また、トレースを取得して受信テキストの内容を確認してください。 |
| 48 | <b>Fe</b> TTC 部 —<br>テキストシーケンス<br>番号誤り | 制御電文の TTC 部のチェックにおいて、テキストシーケンス番号が連番でない場合、設定されます。トレースを取得して受信テキストの内容を確認してください。                       |
| 49 | <b>Ff</b> TTC 部 —<br>テキスト長誤り           | 制御電文の TTC 部のチェックにおいて、テキスト長が正しくない場合、設定されます。トレースを取得して受信テキストの内容を確認してください。                             |

## 第8章 トレース

---

登録名称設定のトレースで「トレースを取得する」を設定すると、通信内容をトレースすることができます。ここでは、そのトレースに編集される内容について説明します。

## 8.1 トレースの内容について

トレースの内容は図8.1のような構成で作成されます。

```
##### Trace Start #####
【 通信条件 】
■動作モード = 一次局モード【 ZGNTCP ver03-00 】
■登録名称 = ----
■通信モード = 照会
■電文区分 = 開始
■最大テキスト長 = 2048 バイト
■レコード長 = 120 バイト
■圧縮 = する
■自局連続受信回数 = 0 回
■相手連続受信回数 = 0 回
■無通信タイマ = 30 秒
■処理結果情報 = A-T1-T2(12):通信制御 - 当方センター確認コードエラー
■テキスト件数 = 0 件
■レコード件数 = 0 件
■ファイルサイズ = 0 バイト
■伝送開始時刻 = 2007/11/12 14:30:10.671
■伝送終了時刻 = 2007/11/12 14:30:10.859
■伝送時間 = 0.187 秒

-----
No. | 時刻 | 間隔 | 方向 | 内容
-----
1|14:30:10.671| 0.000| | | ●スタートアップ処理 - 完了
2|14:30:10.671| 0.000| | | ▼ファイル情報( file length = 0Byte )
3|14:30:10.671| 0.000| | | ▼connect request[127.0.0.1][5020]
4|14:30:10.750| 0.078| | | ▲connect complete
5|14:30:10.750| 0.000|←-(SD)| INFO| [TTC:(00.00 = 0)/(00.45 = 69)] 【開局要求】
| | | | 0000|00 4D 10 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 11 00 00 00 00 00 00 08 03 10 14
| | | | 0008|10 00 00 00 45 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
| | | | 0033|30 10 00 00 00 00 00 00 F0 F1 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
| | | | 0058|00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
6|14:30:10.828| 0.078|(RD)→| CNTL|00 08 11 00 00 00 00 00 【size( 00.08 = 8 )/VER:1/ID:1|制御/AF:0/MN:00】
7|14:30:10.828| 0.000|(RD)→| INFO| [TTC:(00.00 = 0)/(00.45 = 69)] 【開局回答】
| | | | 0000|00 4D 10 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 11 00 00 00 00 00 00 08 03 10 14
| | | | 0008|10 00 00 00 45 01 12 11 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
| | | | 0033|30 10 00 00 00 00 00 00 F0 F1 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
| | | | 0058|00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
8|14:30:10.828| 0.000|←-(SD)| CNTL|00 08 11 00 00 00 00 00 【size( 00.08 = 8 )/VER:1/ID:1|制御/AF:0/MN:00】
9|14:30:10.828| 0.000| | | ※ T2(12) : 通信制御 - 当方センター確認コードエラー
10|14:30:10.843| 0.016| | | ▼ファイル情報( file length = 0Byte )
11|14:30:10.843| 0.000| | | ※ネットワーク切断検知
12|14:30:10.859| 0.015| | | ▼クローズ要求 - 開始
13|14:30:10.859| 0.000| | | ▲クローズ要求 - 完了
##### Trace End #####
```

図 8.1 トレースの内容

(1)通信条件には以下の項目が編集されます。

- 動作モード..... 一次局／二次局モードが編集されます。
- 登録名称..... 通信が行われた登録名称が編集されます。
- 通信モード..... 通信モード(連絡／照会)が編集されます。
- 電文区分..... 電文区分(開始要求／再送要求)が編集されます。
- 最大テキスト長..... 最大伝送テキスト長が編集されます。
- レコード長..... レコード長が編集されます。
- ブロッキング..... 通信モードが連絡の場合にのみ表示され、その場合テキストのブロッキングを行うかが編集されます。
- 圧縮..... テキストを圧縮して送受信を行うかが編集されます。
- 自局連続受信回数..... 自局側の連続受信可能回数が編集されます。
- 相手局連続受信回数.... 相手局側の連続受信可能回数が編集されます。
- 無通信タイマー..... 無通信タイマー値が編集されます。
- 処理結果情報..... 通信が行われた処理結果情報を表示します。
- テキスト件数..... 伝送を行ったテキスト件数が編集されます。
- レコード件数..... 伝送を行ったレコード件数が編集されます。
- ファイルサイズ..... 伝送を行ったファイルサイズが編集されます。
- 伝送開始時刻..... 伝送の開始時刻が編集されます。
- 伝送終了時刻..... 伝送の終了時刻が編集されます。
- 伝送時間..... 伝送時間が編集されます。

(2)トレースに編集される送受信データ(メッセージ)の表示形式は以下のような構成になります。

```
① ② ③ ④
<←(SD)|INFO|【TTC:(00.00 = 0)/(00.45 = 69)】【開局要求】
⑤ 00 4D 10 00 00 00 00 00 【size( 00.4D = 77 )/VER:1/ID:0|情報/AF:0/MN:00】
⑥ 10 00 00 00 45 00 00 00 00 00 00 00 00 00 11 00 00 00 00 00 00
08 03 10 14
```

- ①送受信方向..... 受信データ((RD)→)か送信データ(←(SD))かを表示します。
- ②INFO/CNTL..... 情報メッセージか制御メッセージかを表示します。
- ③TTC..... TTC 情報を表示します。
- ④制御電文名..... 制御電文の場合表示します。
- ⑤サブレイヤヘッダ部..... 送受信データのサブレイヤヘッダ部の 16 進ダンプを表示します。
- ⑥テキスト部..... 送受信データのテキスト部(制御電文／データ電文)の 16 進ダンプを表示します。

(3)サブレイヤヘッダ部分は常に 8 バイト分ダンプされます。テキスト部分は、制御電文の場合は全データ分ダンプしますが、データ電文は共通条件の設定(トレース)により、先頭 10 バイト分か全てのデータをダンプするか選択できます。

## 第9章 ライブラリの使用方法

---

この章では、全銀プログラムが提供しているライブラリをアプリケーションから使用方法について説明します。提供している関数は、以下に示す通りです。

| 項番 | 関数名                 | モジュール名      | 説明                 |
|----|---------------------|-------------|--------------------|
| 1  | ZgnTransGroup       | ZGNTCP.DLL  | 通信を実行します。          |
| 2  | ZgnConfig           | ZTCPCNF.DLL | 通信を実行する条件を設定します。   |
| 3  | ZgnEndInfoGroup     | ZTCPCNF.DLL | 通信結果を表示します。        |
| 4  | ZgnDirectTransGroup | ZGNTCP.DLL  | パラメータ渡して通信を実行します。  |
| 5  | ZgnTrans            | ZGNTCP.DLL  | ※通信を実行します。         |
| 6  | ZgnEndInfo          | ZTCPCNF.DLL | ※通信結果を表示します。       |
| 7  | ZgnDirectTrans      | ZGNTCP.DLL  | ※パラメータ渡して通信を実行します。 |

※ 以前のバージョンとの互換性の為に存在します。新規にライブラリを使用する場合はなるべく使用しないようにしてください。



## 9.1 ZgnTransGroup (通信実行関数)

設定してある登録名称とグループ名称をパラメータで渡して通信を実行します。

### ■ C 言語での宣言方法

```
int APIENTRY ZgnTransGroup(  
    HWND hWndParent, // 親ウィンドウハンドル  
    LPSTR lpRegName, // 登録名称  
    LPSTR lpGroupName // グループ名称  
);
```

### ■ パラメータ

|                    |  |
|--------------------|--|
| <b>hWndParent</b>  | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは "0" を指定しても構いません。 |
| <b>lpRegName</b>   | 登録名称を指定します。このパラメータに NULL を指定した場合は、登録名称選択ウィンドウが表示されます。                                      |
| <b>lpGroupName</b> | グループ登録名称を指定します。このパラメータに NULL を指定した場合は、デフォルトグループが使用されます。                                    |

### ■ 戻り値

- 0 : 正常終了
- 0 以外 : 異常終了

### ■ 解説

戻り値が 0 以外となった場合(異常終了した場合)、そのエラー詳細を調べるには、終了情報ファイルを参照してください。

登録名称に NULL が指定されている場合は、登録名称選択画面が表示され、グループ名称に NULL が指定されている場合は、デフォルトグループが使用されます。登録名称の選択画面でキャンセルした場合は「-1」が、パラメータ不正の場合は 16 進の「0x42303030」が戻り値として返されます。16 進の戻り値は、SJIS のエラー詳細コードを表しており、「0x42303030」は「B0(00)」となります。エラー詳細については「**第 7 章 エラー処理について**」を参照してください。

ZgnTransGroup 関数から戻り値を戻すタイミングは、通信の終了ではなく、通信終了後、通信状況表示ウィンドウがクローズされたタイミングとなります。

従って「通信条件」-「その他」-「終了時の状態」-「終了表示時間」に「0」以外が設定されている場合は、手でウィンドウをクローズしない限り、戻り値を戻しません。

## 9.2 ZgnConfig (通信条件設定関数)

---

通信を実行するための条件の設定画面を呼び出します。

### ■ C 言語での宣言方法

```
VOID APIENTRY ZgnConfig(  
    HWND hWndParent    // 親ウィンドウハンドル  
);
```

### ■ パラメータ

|                   |  |
|-------------------|--|
| <b>hWndParent</b> | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは "0" を指定しても構いません。 |
|-------------------|--|

### ■ 戻り値

戻り値はありません。

### 9.3 ZgnEndInfoGroup (通信結果表示関数)

---

指定された登録名称の通信結果(終了情報)を表示します。

#### ■ C 言語での宣言方法

```
VOID APIENTRY ZgnEndInfoGroup(  
    HWND hWndParent, // 親ウィンドウハンドル  
    LPSTR lpRegName, // 登録名称  
    LPSTR lpGroupName // グループ名称  
);
```

#### ■ パラメータ

|                    |  |
|--------------------|--|
| <b>hWndParent</b>  | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは "0" を指定しても構いません。 |
| <b>lpRegName</b>   | 登録名称を指定します。<br>このパラメータに NULL を指定した場合は、終了情報一覧画面が表示されます。                                     |
| <b>lpGroupName</b> | グループ名称を指定します。<br>このパラメータに NULL を指定した場合は、終了情報一覧画面が表示されます。                                   |

#### ■ 戻り値

戻り値はありません。

#### ■ 解説

登録名称かグループ名称のどちらかに NULL が指定されている場合や、指定された登録名称もしくはグループ名称が登録されていない場合は、終了情報一覧画面が表示されます。

## 9.4 ZgnDirectTransGroup (パラメータ渡し通信実行関数)

通信情報をパラメータで渡して通信を実行します。

終了後、関数はパラメータで渡してあった終了情報格納エリアに終了情報を格納します。

### ■ C 言語での宣言方法

```
int APIENTRY ZgnDirectTransGroup(  
    HWND hWndParent,    // 親ウィンドウハンドル  
    LPSTR lpCaption,     // 登録名称  
    LPVOID lpZcnf,      // 通信条件構造体  
    LPVOID lpEndInfo    // 終了情報  
);
```

### ■ パラメータ

|                   |  |
|-------------------|--|
| <b>hWndParent</b> | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは<br>"0"を指定しても構いません。 |
| <b>lpCaption</b>  | 通信実行ウィンドウのタイトルを指定します。  |
| <b>lpZcnf</b>     | この関数に渡す通信条件格納領域を指定します。   |
| <b>lpEndInfo</b>  | 終了情報を受け取るバッファを指定します。<br>このパラメータに NULL を指定した場合は、終了情報は返されません。                                  |

### ■ 戻り値

- 0 : 正常終了
- 1 : 通信異常終了(または、パラメータ不正)
- 2 : オペレータキャンセル
- 3 : 通信条件の指定なし
- 4 : 通信時使用メモリの不足

通信条件構造体に誤った値を設定した場合の戻り値は以下のようになります。

- 10 : 構造体サイズエラー
- 11 : 伝送ファイル名指定なし
- 12 : ダイヤルアップ時の接続条件指定なし
- 13 : 接続先 IP アドレス指定なし
- 14 : 接続先ポート番号指定なし
- 15 : レコード長が規定の範囲を超えている
- 16 : 通信モードの誤り
- 17 : ユーザー指定年月日の誤り(指定しない場合システム日付指定となります)

### ■ 解説

ZgnDirectTransGroup 関数を使用した場合は、要求区分でテキスト単位の再送指定が出来ません。

また終了情報(通信結果)は、lpEndInfo 構造体に指定された領域だけでなく、終了情報ファイルにも、"ZgnDirectTransGroup"グループに属する登録名称として終了情報ファイルに記述されます。

ZgnDirectTransGroup 関数が戻り値を戻すタイミングは、通信の終了ではなく、通信終了後、通信状況表示ウインドウがクローズされたタイミングとなります。

## 9.5 ZgnTrans (通信実行関数)

---

設定してある登録名称をパラメータで渡して通信を実行します。

この関数は過去のバージョンとの互換性を保つために残されています。なるべく ZgnTransGroup 関数を御使用ください。

### ■ C 言語での宣言方法

```
int APIENTRY ZgnTrans(  
    HWND hWndParent, // 親ウィンドウハンドル  
    LPSTR lpRegName // 登録名称  
);
```

### ■ パラメータ

|                   |  |
|-------------------|--|
| <b>hWndParent</b> | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは "0" を指定しても構いません。 |
| <b>lpRegName</b>  | 登録名称を指定します。このパラメータに NULL を指定した場合は、登録名称選択ウィンドウが表示されます。                                      |

### ■ 戻り値

**0** : 正常終了  
**0 以外** : 異常終了

### ■ 解説

戻り値が 0 以外となった場合(異常終了した場合)、そのエラー詳細を調べるには、終了情報ファイルを参照してください。

ZgnTrans 関数が戻り値を戻すタイミングは、通信の終了ではなく、通信終了後、通信状況表示ウィンドウがクローズされたタイミングとなります。

## 9.6 ZgnEndInfo (通信結果表示関数)

---

指定された登録名称の通信結果(終了情報)を表示します。

この関数を使用した場合、無条件で ZGNTCP.INI に設定されている登録名称を実行することになります。

この関数は過去のバージョンとの互換性を保つために残されています。なるべく ZgnEndInfoGroup 関数を御使用ください。

### ■ C 言語での宣言方法

```
VOID APIENTRY ZgnEndInfo(  
    HWND hWndParent, // 親ウィンドウハンドル  
    LPSTR lpRegName // 登録名称  
);
```

### ■ パラメータ

|                   |  |
|-------------------|--|
| <b>hWndParent</b> | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは "0" を指定しても構いません。 |
| <b>lpRegName</b>  | 登録名称を指定します。<br>このパラメータに NULL を指定した場合は、終了情報一覧画面が表示されます。                                     |

### ■ 戻り値

戻り値はありません。

## 9.7 ZgnDirectTrans (パラメータ渡し通信実行関数)

通信情報をパラメータで渡して通信を実行する関数です。

終了後、関数はパラメータで渡してあった終了情報格納エリアに終了情報を格納します。

この関数は過去のバージョンとの互換性を保つために残されています。なるべく ZgnDirectTransGroup 関数を御使用ください。

### ■ C 言語での宣言方法

```
int APIENTRY ZgnDirectTrans(  
    HWND hWndParent,    // 親ウィンドウハンドル  
    LPSTR lpCaption,    // 登録名称  
    LPVOID lpZcnfOld,   // 通信条件  
    LPVOID lpEndInfo    // 終了情報  
);
```

### ■ パラメータ

|                   |  |
|-------------------|--|
| <b>hWndParent</b> | この関数を使用する親ウィンドウハンドルを指定します。<br>このウィンドウハンドルは、呼び出し元のウィンドウが存在しない場合は、NULL もしくは "0" を指定しても構いません。 |
| <b>lpCaption</b>  | 通信実行ウィンドウのタイトルを指定します。  |
| <b>lpZcnfOld</b>  | この関数に渡す通信条件格納領域を指定します。   |
| <b>lpEndInfo</b>  | 終了情報を受け取るバッファを指定します。<br>このパラメータに NULL を指定した場合は、終了情報は返されません。                                |

### ■ 戻り値

- 0 : 正常終了
- 1 : 通信異常終了 (または、パラメータ不正)
- 2 : オペレータキャンセル
- 3 : 通信条件の指定なし
- 4 : 通信時使用メモリの不足

通信条件構造体に誤った値を設定した場合の戻り値は以下のようになります。

- 10 : 構造体サイズエラー
- 11 : 伝送ファイル名指定なし
- 12 : ダイアルアップ時の接続条件指定なし
- 13 : 接続先 IP アドレス指定なし
- 14 : 接続先ポート番号指定なし
- 15 : レコード長が規定の範囲を超えている
- 16 : 通信モードの誤り
- 17 : ユーザー指定年月日の誤り (指定しない場合システム日付指定となります)

### ■ 解説

ZgnDirectTrans 関数を使用した場合は、要求区分でテキスト単位の再送指定が出来ません。

また終了情報は、lpEndInfo 構造体に指定された領域だけでなく、終了情報ファイルにも、"ZgnDirectTrans"グループに属する登録名称として終了情報ファイルに記述されます。

ZgnDirectTrans 関数から戻り値を戻すタイミングは、通信の終了ではなく、通信終了後、通信状況表示ウィンドウがクローズされたタイミングとなります。

## 9.8 構造体フォーマット

ライブラリで使用される構造体のフォーマットを以下に示します。

### ■通信条件構造体のフォーマット (C 言語での宣言方法)

```
typedef struct tagZGNCONFIG
{
    int        nSize;                // 構造体サイズ
    BYTE       szTransFile[256];    // 送受信ファイル名
    WORD       wMode;               // モード(連絡/照会)
    WORD       wBranch;             // 電文区分(開始/再送)
    BYTE       byTtcCntlBranch;     // TTC 電文区分(制御電文)
    BYTE       byTtcDataBranch;     // TTC 電文区分(データ電文)
    WORD       wPack;               // 伝送時の圧縮
    WORD       wDerimita;           // デリミタ編集
    WORD       wBlocking;           // ブロッキング
    int        nMaxTextMode;        // 最大伝送テキスト長モード
    WORD       wRecSize;            // レコード長
    WORD       wVLRec;              // 可変長レコード
    WORD       nDefineMN;           // 連続受信回数
    WORD       wTimer;              // 無通信タイマー
    WORD       wZeroByteFile;       // 0 バイトファイル送信許可フラグ
    WORD       wChangeCode;         // コード変換フラグ
    int        nChangeCodePtn;      // コード変換パターン
    WORD       wTapeFormat;         // 磁気テープフォーマット指定
    WORD       wCycle;              // サイクル番号
    int        nConnectMode;        // 接続方法
    BYTE       szPeerIPAddr[81];     // 接続先 IP アドレス
    int        nPeerPortNo;         // 接続先ポート番号
    WORD       wSourcePortFlag;     // 発信元ポート番号許可フラグ
    int        nSourcePortNo;       // 発信元ポート番号
    char       szEntryName[257];    // ダイヤルリスト登録名称
    char       szDialNo[51];        // ダイヤル番号
    WORD       wTcpConnectRetry;    // TCP 接続リトライ回数
    WORD       wDialRetry;          // 再ダイヤル回数
    DWORD      dwDialRetryElapse;    // 再ダイヤル間隔
    char       szUserName[257];     // ネットワークユーザー名称
    char       szNetPassword[257];  // ネットワークパスワード
    char       szDomain[16];        // ネットワークドメイン名称
    BYTE       szHost[7];           // 相手センタ確認コード
    BYTE       szTerm[7];           // 当方センタ確認コード
    BYTE       szPass[6];           // パスワード
    BYTE       szIndustry[4];       // 産業別コード
    BYTE       szZName[8];          // 全銀協規定ファイル名
    BYTE       szFAcc[6];           // ファイルアクセスキー
    BYTE       szFSub[17];          // ファイル名補助情報
    BYTE       szFExt[14];          // ファイル制御拡張エリア
    BYTE       szTExt[34];          // 通信制御拡張エリア
    BYTE       szSGuid1[51];        // 開始時のガイダンス 1
}
```



```

BYTE    szSGuid2[51];        // 開始時のガイダンス 2
BYTE    szDGuid1[51];        // 接続時のガイダンス 1
BYTE    szDGuid2[51];        // 接続時のガイダンス 2
BYTE    szTGuid1[51];        // 通信中のガイダンス 1
BYTE    szTGuid2[51];        // 通信中のガイダンス 2
BYTE    szAGuid1[51];        // 中断時のガイダンス 1
BYTE    szAGuid2[51];        // 中断時のガイダンス 2
BYTE    szEGuid1[51];        // 終了時のガイダンス 1
BYTE    szEGuid2[51];        // 終了時のガイダンス 2
WORD    wPlayStyle;          // 実行時の状態
WORD    wShowPos;            // 表示位置
int     nEndBeep;            // 終了時のビーブ音
WORD    wEndTimer;           // 終了後のダイアログ表示時間
BYTE    szTransDate[13];     // ユーザー指定の伝送年月日
WORD    wEndSaveMode;        // 終了情報の保存
BYTE    szEndInfoFile[256];  // 終了情報ファイル名
WORD    wTraceMode;          // トレース取得フラグ
BYTE    szTraceFile[256];    // トレースファイル名
WORD    wHistory;            // 世代管理
WORD    wTransDateCheck;     // 伝送日付チェック
} ZGNCONFIG;

```

※ 通信情報構造体の詳細説明は後のページに記載しています。

## ■ 終了情報構造体のフォーマット (C 言語での宣言方法)

```
typedef struct tagENDINFO
{
    int          nSize;           // この構造体のサイズ
    WORD         wMode;          // 通信モード
    BYTE         szStatus[6];    // 終了情報
    BYTE         szTransResult[3]; // 制御電文の処理結果コード
    BYTE         szHost[15];     // 相手センタ確認コード
    BYTE         szTerm[15];     // 当方センタ確認コード
    BYTE         szPass[13];     // パスワード
    BYTE         szFAcc[13];     // ファイルアクセスキー
    BYTE         szZgnName[25];  // 全銀協規定ファイル名
    DWORD        nRecCnt;        // 終了時の総送受信済レコード件数
    DWORD        nTextCnt;      // 終了時の総送受信済伝送テキスト件数
    WORD         wYear;          // 年
    WORD         wMonth;        // 月
    WORD         wDay;          // 日
    WORD         wHour;         // 時
    WORD         wMinute;       // 分
    WORD         wSecond;       // 秒
} ENDINFO;
```

※VC にて通信情報構造体と、終了情報構造体を宣言する際、コンパイラの構造体メンバのアライメント設定を 4 バイトにするか、構造体の宣言の前後に以下のようなコードを追加して、構造体のメンバのパッキングを 4 バイトに設定する必要があります。

```
#ifndef RC_INVOKED
#pragma pack(4)          /* Assume byte packing throughout */
#endif /* RC_INVOKED */
```

～通信条件構造体～

～終了情報構造体～

```
#ifndef RC_INVOKED
#pragma pack()          /* Revert to default packing */
#endif /* RC_INVOKED */
```

## ■通信条件構造体メンバの説明

| データ型 | 構造体メンバ名          | メンバの説明とその指定値  | 値が範囲外の場合   |
|------|------------------|---|--|
| int  | nSize            | この構造体のサイズを指定します。  | サイズが異なっている場合、戻り値 10(構造体サイズエラー)のエラーが返されます。          |
| BYTE | szTransFile[256] | 送受信するファイル名を指定します。 ※1  | 何も指定しない場合、戻り値 11(伝送ファイル名指定なし)のエラーが返されます。           |
| WORD | wMode            | 通信モードを指定します。<br>0: 連絡(ファイル送信)<br>1: 照会(上書き受信)<br>2: 照会(追加受信)  | 値が 0~2 以外の場合、戻り値 16(通信モード誤り)のエラーとなります。             |
| WORD | wBranch          | 要求区分を指定します。<br>0: 開始要求<br>1: 再送要求   | 値が 0, 1 以外の場合、0(開始要求)に設定されます。 ※4                   |
| BYTE | byTtcCntlBranch  | TTC 電文区分(制御電文)を指定します。<br>0x00: ベーシック手順<br>0x10: パソコン手順  | 指定外の場合、0x10(パソコン手順)に設定されます。                        |
| BYTE | byTtcDataBranch  | TTC 電文区分(データ電文)を指定します。<br>0x01: ベーシック手順<br>0x11: パソコン手順   | 指定外の場合、0x11(パソコン手順)に設定されます。                        |
| WORD | wPack            | 圧縮指定をします。<br>0: 圧縮する<br>2: 圧縮しない  | 値が 0~2 以外の場合、2(圧縮しない)に設定されます。                      |
| WORD | wDerimita        | デリミタ編集を指定します。<br>0: なし 3: EOF 抜き取り<br>1: CR 4: LF<br>2: CR+LF   | 値が 0~4 以外の場合、0(デリミタ編集なし)に設定されます。                   |
| WORD | wBlocking        | ブロッキングを指定します。<br>0: ブロッキングする<br>1: ブロッキングしない  | 値が 0, 1 以外の場合、0(ブロッキングする)に設定されます。                  |
| int  | nMaxTextMode     | 最大伝送テキストモードを指定します。(0~7 指定では、以下の様なテキスト長になります)<br>0: 256 4: 4096<br>1: 512 5: 8192<br>2: 1024 6: 16384<br>3: 2048 7: 32768<br>2048~32768 の値を指定すると、その値がテキスト長になります。 | 範囲外の場合は指定した値が有効になります。(32768 を超えた場合は、2048 に設定されます。) |
| WORD | wRecSize         | レコード長を指定します。<br>(1~最大テキスト長-5 以内)  | 範囲外の場合、戻り値 15(レコード長が規定の範囲を超えている)のエラーが返されます。        |
| WORD | wVLRec           | 可変長レコードを指定します。<br>0: 固定長<br>1: 可変長  | 値が 0, 1 以外の場合、0(固定長)に設定されます。                       |
| WORD | nDefineMN        | 連続受信回数を指定します。<br>(0~15 回)   | 範囲外の場合、0 回に設定されます。                                 |

|      |                  |  |   |
|------|------------------|--|---|
| WORD | wZeroByteFile    | 0 バイトファイルの送信を許可するかを指定します。<br>0: 許可しない<br>1: 許可する   | 値が 0、1 以外の場合、0(許可しない)に設定されます。   |
| WORD | wChangeCode      | 伝送ファイルのコード変換を行うか指定します。<br>0: コード変換しない<br>1: コード変換する  | 値が 0、1 以外の場合、0(コード変換しない)に設定されます。  |
| int  | nChangeCodePtn   | コード変換をどう実行するかを指定します。<br>0: EBCDIC→JIS8<br>1: JIS8→EBCDIC   | 値が 0、1 以外の場合、0(EBCDIC→JIS8)に設定されます。<br>wChangeCode が 1(コード変換する)の場合のみ有効です。         |
| WORD | wTapeFormat      | 全銀規定ファイル名として磁気テープフォーマットを使用するか指定します。<br>0: 使用しない<br>1: 使用する   | 値が 0、1 以外の場合、0(使用しない)に設定されます。   |
| WORD | wCycle           | サイクル番号を指定します。(1~99)  | 範囲外の場合、1 に設定されます。<br>wTapeFormat が 1(使用する)の場合のみ有効です。                              |
| WORD | wTimer           | 無通信タイマーを指定します。<br>(0~999 秒)  | 範囲外の場合、30 秒に設定されます。   |
| Int  | nConnectMode;    | 接続方法を指定します。<br>0: ダイヤルアップで接続<br>1: ネットワークで接続<br>2: ネットワークで接続<br>(全銀コンバータ連携)<br>3: ネットワークで接続<br>(JCA コンバータ連携) | 値が 0~3 以外の場合、1(ネットワークで接続)に設定されます。   |
| BYTE | szPeerIPAddr[81] | 接続先 IP アドレスを指定します。 ※1  | 何も指定しない場合、戻り値 13(接続先 IP アドレス指定なし)のエラーが返されます。                                      |
| int  | nPeerPortNo      | 接続先ポート番号を指定します。<br>(1~65535)   | 何も指定しない場合、戻り値 14(接続先ポート番号指定なし)のエラーが返されます。   |
| WORD | wSourcePortFlag  | 発信元ポートの指定を行うか指定します。<br>0: 指定しない(自動)<br>1: 指定する   | 値が 0、1 以外の場合、0(指定しない)に設定されます。   |
| int  | nSourcePortNo    | 発信元ポート番号を指定します。<br>(1~65535)   | 範囲外の場合、wSourcePortFlag を 0(指定しない)として動作します。<br>wSourcePortFlag が 1(指定する)の場合のみ有効です。 |
| BYTE | szEntryName[257] | ダイヤルアップネットワークにて登録した、ダイヤルリスト登録名称を指定します。<br>※1※2   | 何も指定されていない場合、戻り値 12(ダイヤルアップ時の接続条件指定なし)のエラーが返されます。                                 |
| BYTE | szDialNo[51]     | ダイヤル番号を指定します。(50 桁まで)<br>※2  | 指定なしの場合、実行時にエラーになります。   |
| WORD | wTcpConnectRetry | TCP コネクションの接続リトライ回数を指定します。(0~99 回)   | 範囲外の場合、0 に設定されます。   |
| WORD | wDialRetry       | 再ダイヤル回数を指定します。(0~9 回)<br>※2  | 範囲外の場合、3 回に設定されます。  |

|       |                        |  |                                 |
|-------|------------------------|--|---------------------------------|
| DWORD | dwDialRetryElapse      | 再ダイヤル間隔を指定します。(0 以上)<br>※2                                   | 0 未満の場合、60 秒に設定されます。            |
| BYTE  | szUserName[257]        | ネットワークユーザー名称を指定します。<br>※1※2                                  |                                 |
| BYTE  | szNetPassword<br>[257] | ネットワークパスワードを指定します。<br>※1※2                                   |                                 |
| BYTE  | szDomain[16]           | ネットワークドメイン名を指定します。<br>※1※2                                   |                                 |
| BYTE  | szHost[7]              | 相手センター確認コードを指定します。   |                                 |
| BYTE  | szTerm[7]              | 当方センター確認コードを指定します。   |                                 |
| BYTE  | szPass[6]              | パスワードを指定します。 ※2  |                                 |
| BYTE  | szIndustry[4]          | 産業別コードを指定します。  |                                 |
| BYTE  | szZName[8]             | 全銀協規定ファイル名を指定します。  |                                 |
| BYTE  | szFAcc[6]              | ファイルアクセスキーを指定します。  |                                 |
| BYTE  | szFSub[17]             | ファイル名補助情報を指定します。   |                                 |
| BYTE  | szFExt[14]             | ファイル制御拡張エリアを指定します。   |                                 |
| BYTE  | szTExt[34]             | 通信制御拡張エリアを指定します。   |                                 |
| BYTE  | szSGuid1[51]           | 開始時のガイダンス 1 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szSGuid2[51]           | 開始時のガイダンス 2 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szDGuid1[51]           | 接続時のガイダンス 1 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szDGuid2[51]           | 接続時のガイダンス 2 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szTGuid1[51]           | 通信時のガイダンス 1 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szTGuid2[51]           | 通信時のガイダンス 2 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szAGuid1[51]           | 中断時のガイダンス 1 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szAGuid2[51]           | 中断時のガイダンス 2 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szEGuid1[51]           | 終了時のガイダンス 1 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| BYTE  | szEGuid2[51]           | 終了時のガイダンス 2 を指定します。<br>※1                                    |                                 |
| WORD  | wPlayStyle             | 実行時の状態を指定します。<br>0: ウィンドウ表示<br>1: 最小化<br>2: タスクトレイ<br>3: 非表示 | 値が 0~3 以外の場合、0(ウィンドウ表示)に設定されます。 |

|      |                    |  |  |
|------|--------------------|--|--|
| WORD | wShowPos           | 表示位置を指定します。<br>0: 中央          3: 右上<br>1: 左上          4: 右下<br>2: 左下   | 値が 0 から 4 以外の場合、0(中央)に設定されます。                                    |
| int  | nEndBeep           | 終了時のビーブ音を指定します。<br>0: 終了通知音なし<br>1: 終了通知音あり  | 値が 0、1 以外の場合、0(終了通知音なし)に設定されます。                                  |
| WORD | wEndTimer          | 終了後のダイアログの表示時間を指定します。(0~999 秒)   | 範囲外の場合、0 秒に設定されます。   |
| BYTE | szTransDate[13]    | ユーザー指定の伝送年月日をYYMMDDHHMMSS形式にて指定します。(年月日時分秒) ※1   | 指定しない場合は、システム日付が設定され、値が誤っている場合は、戻り値 17 (ユーザー指定年月日の誤り)のエラーが返されます。 |
| WORD | wEndSaveMode       | 終了情報の保存方法を指定します。<br>0: 上書き保存<br>1: 追加保存  | 値が 0、1 以外の場合、1(追加保存)に設定されます。                                     |
| BYTE | szEndInfoFile[256] | 終了情報を格納するファイル名を指定します。 ※1   | 何も指定しない場合、終了情報ファイルを保存しません。                                       |
| WORD | wTraceMode         | トレース取得フラグを指定します。<br>0: 取得する、結果表示、先頭 10 バイト分保存<br>1: 取得しない<br>2: 取得する、結果非表示、先頭 10 バイト分保存<br>3: 取得する、結果表示、全て保存<br>4: 取得する、結果非表示、全て保存 | 値が 0~4 以外の場合、0 に設定されません。   |
| BYTE | szTraceFile[256]   | トレース情報を格納するファイル名を指定します。 ※1   | 何も指定しない場合、トレース情報ファイルを保存しません。                                     |
| WORD | wHistory           | 世代管理数を指定します。(0~99)<br>0の場合世代管理を行いません。  | 99 以上の場合 99 に設定されます。   |
| WORD | wtransDateCheck    | 回答ファイル制御電文の日付のチェック有無を指定します。<br>0: チェックする<br>1: チェックしない   | 値が 0,1 以外の場合、0 に設定されます。 ※3                                       |

※1. 文字列として定義されますので、最後に NULL を追加してください。

※2. nConnectMode で 0(ダイヤルアップ接続)を指定の場合有効。

※3. Ver1.32 以前のプログラムをご使用になる場合は伝送日付のチェックを指定出来ません。

※4. ZgnDirectTransGroup 関数を使用する場合はテキスト単位の再送指定は行えません。

## 第10章 登録名称のバックアップ／リカバリ

---

登録名称設定のバックアップや、バックアップした内容を現在の登録名称へ取り込むことができます。ここでは、そのバックアップ機能について説明します。

## 10.1 登録名称設定のバックアップ／リカバリ

設定してある登録名称のバックアップ／リカバリを行うことができます。

まずバックアップ及びリカバリを行いたいグループ名称を選択した後、ファイルフォーマットを選択し、各処理のボタンを押してください。

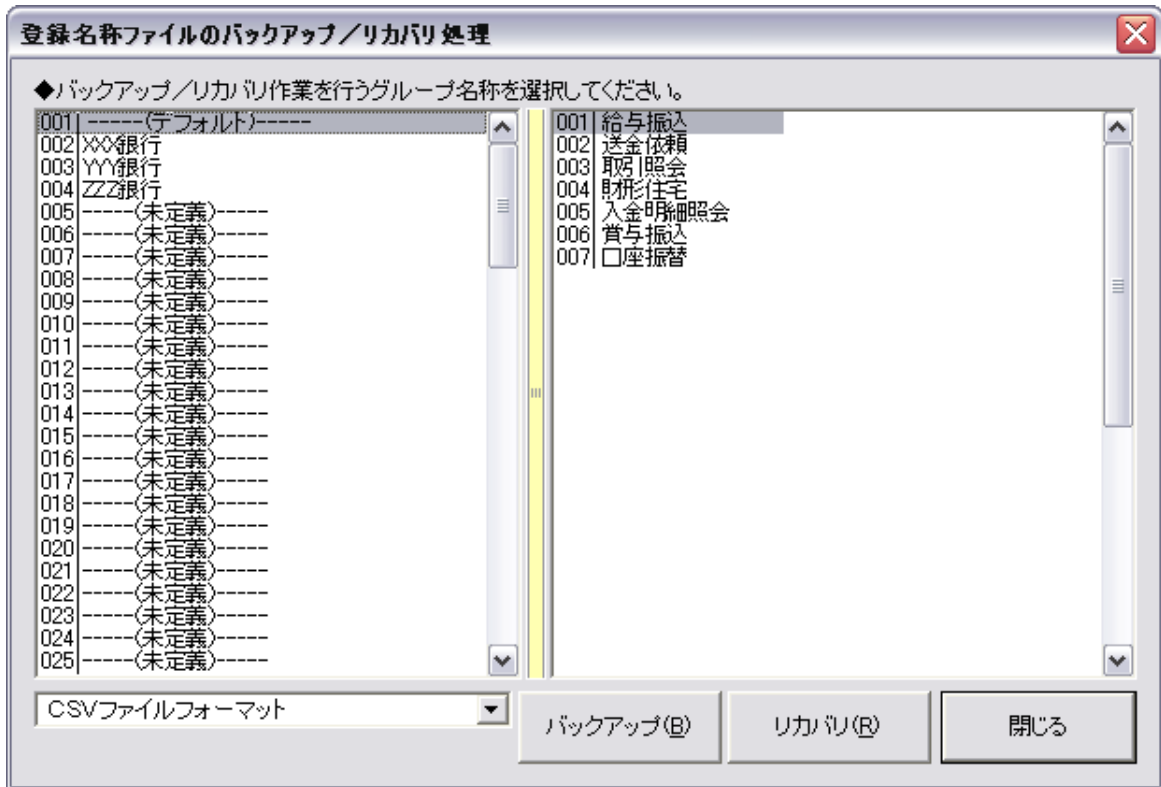


図 10.1 バックアップ画面

- CSV ファイルフォーマット.....CSV 形式にてバックアップ／リカバリを行います。
- 登録名称ファイルフォーマット ....全銀一次局独自形式にてバックアップ／リカバリを行います。
- ・ **バックアップ(B)** .....選択されたグループの登録名称のバックアップを行います。
- ・ **リカバリ(R)** .....選択されたグループに登録名称のリカバリを行います。  
既に登録されたグループが選択された場合、上書きされます。
- ・ **閉じる** .....ウインドウを閉じます。



## 10.2 登録名称の CSV ファイルフォーマット

登録名称設定が保存される CSV ファイルのファイルフォーマットを以下に示します。

※ 独自に編集・作成した CSV ファイルはリカバリの動作保証外です。

### ■ レコードフォーマット

登録名称, 伝送ファイル名, 通信モード, 要求区分, TTC 制御文字, 伝送時の圧縮, デリミタ, ブロッキング, 最大伝送テキスト長, レコード長, 可変長レコード指定, 連続受信回数, 無通信タイマー, 0 バイトファイル送信許可フラグ, コード変換フラグ, コード変換種別, 相手センター確認コード, 当方センター確認コード, パスワード, ファイルアクセスキー, 産業別コード, 全銀協規定ファイル名, ファイル名補助情報, ファイル制御拡張エリア, 通信制御拡張エリア, 磁気テープフォーマット指定, サイクル番号, 接続先 IP アドレス, 接続先ポート番号, 発信元ポート番号指定, 発信元ポート番号, 接続方法, ダイアルリスト登録名称, TCP 接続リトライ回数, 再ダイヤル回数, 再ダイヤル間隔, ダイアル番号, ネットワークユーザー名称, ネットワークパスワード, ネットワークドメイン名称, 開始ガイダンス 1, 開始ガイダンス 2, 通信ガイダンス 1, 通信ガイダンス 2, 接続ガイダンス 1, 接続ガイダンス 2, 中断ガイダンス 1, 中断ガイダンス 2, 終了ガイダンス 1, 終了ガイダンス 2, 実行時の状態, 表示位置, 終了時の音, 終了表示時間, 伝送年月日の指定, 伝送日付, 伝送日付チェック, 終了情報の保存, 終了情報ファイル名, トレース情報の取得, トレースファイル名, 世代管理, 予約領域[改行]

### ■ 項目の意味

| 項番 | 項目名              | 内容   |
|----|------------------|--|
| 1  | 登録名称             | 登録名称を編集します。  |
| 2  | 伝送ファイル名          | 送受信を行うファイル名を指定します。                                     |
| 3  | 通信モード            | 通信モード【0: 連絡, 1: 照会(上書き受信), 2: 照会(追加受信)】を指定します。         |
| 4  | 要求区分             | 要求区分【0: 開始要求, 1: 再送要求(ファイル単位), 3: 再送要求(テキスト単位)】を指定します。 |
| 5  | TTC 制御文字         | TTC 制御文字【0: パソコン手順, 1: ベーシック手順】を指定します。                 |
| 6  | 伝送時の圧縮           | 伝送時の圧縮【0: 許可, 2: 不許可】を指定します。                           |
| 7  | デリミタ             | デリミタ編集【0: なし, 1: CR, 2: CR+LF, 3: EOF, 4: LF】を指定します。   |
| 8  | ブロッキング           | ブロッキング【0: する, 1: しない】を指定します。                           |
| 9  | 最大伝送テキスト長        | 最大伝送テキスト長(256~32768)を指定します。                            |
| 10 | レコード長            | レコード長(1~テキスト長-5)を指定します。                                |
| 11 | 可変長レコード指定        | 可変長レコード【0: 固定長, 1: 可変長】を指定します。                         |
| 12 | 連続受信回数           | 連続受信回数(1~15)を編集します。                                    |
| 13 | 無通信タイマー          | 無通信タイマー(0 から 999)を編集します。                               |
| 14 | 0 バイトファイル送信許可フラグ | 0 バイトファイルの送信許可【0: しない, 1: する】を編集します。                   |
| 15 | コード変換フラグ         | コード変換の有無【0: しない, 1: する】を指定します。                         |
| 16 | コード変換種別          | コード変換の種類【0: EBCDIC->JIS8, 1: JIS8-> EBCDIC】を指定します。     |
| 17 | 相手センター確認コード      | 相手センター確認コードを編集します。 ※                                   |
| 18 | 当方センター確認コード      | 当方センター確認コードを編集します。 ※                                   |
| 19 | パスワード            | パスワードを編集します。 ※   |
| 20 | ファイルアクセスキー       | ファイルアクセスキーを編集します。 ※                                    |
| 21 | 産業別コード           | 産業別コードを編集します。 ※  |
| 22 | 全銀協規定ファイル名       | 全銀協規定ファイル名を編集します。 ※                                    |
| 23 | ファイル名補助情報        | ファイル名補助情報を編集します。 ※                                     |
| 24 | ファイル制御拡張エリア      | ファイル制御拡張エリアを編集します。 ※                                   |

| 項番 | 項目名           | 内容  |
|----|---------------|---|
| 25 | 通信制御拡張エリア     | 通信制御拡張エリアを編集します。 ※  |
| 26 | 磁気テープフォーマット指定 | 磁気テープフォーマット【0:しない、1:する】を指定します。  |
| 27 | サイクル番号        | サイクル番号を指定します。   |
| 28 | 接続先 IP アドレス   | 接続先 IP アドレスを編集します。  |
| 29 | 接続先ポート番号      | 接続先ポートを編集します。   |
| 30 | 発信元ポート番号指定    | 発信元ポートの指定【0:指定しない、1:指定する】を行うか指定します。                                       |
| 31 | 発信元ポート番号      | 発信元ポート番号を指定します。   |
| 32 | 接続方法          | 接続方法【0:ダイヤルアップ、1:ネットワーク、2:ネットワーク(全銀コンバータ連携)、3:ネットワーク(JCA コンバータ連携)】を指定します。 |
| 33 | ダイヤルリスト登録名称   | ダイヤルアップネットワークにて登録した、ダイヤルリスト登録名称を指定します。                                    |
| 34 | TCP 接続リトライ回数  | TCP コネクションの接続リトライ回数(0~99 回)を指定します。  |
| 35 | 再ダイヤル回数       | 再ダイヤル回数(0~9 回)を指定します。   |
| 36 | 再ダイヤル間隔       | 再ダイヤル間隔(0 以上)を指定します。  |
| 37 | ダイヤル番号        | ダイヤル番号を指定します。   |
| 38 | ネットワークユーザー名称  | ネットワークユーザー名称を指定します。   |
| 39 | ネットワークパスワード   | ネットワークパスワードを指定します。  |
| 40 | ネットワークドメイン名称  | ネットワークドメイン名を指定します。  |
| 41 | 開始ガイダンス 1     | 開始ガイダンス 1 を編集します。   |
| 42 | 開始ガイダンス 2     | 開始ガイダンス 2 を編集します。   |
| 43 | 通信ガイダンス 1     | 通信ガイダンス 1 を編集します。   |
| 44 | 通信ガイダンス 2     | 通信ガイダンス 2 を編集します。   |
| 45 | 接続ガイダンス 1     | 接続ガイダンス 1 を編集します。   |
| 46 | 接続ガイダンス 2     | 接続ガイダンス 2 を編集します。   |
| 47 | 中断ガイダンス 1     | 中断ガイダンス 1 を編集します。   |
| 48 | 中断ガイダンス 2     | 中断ガイダンス 2 を編集します。   |
| 49 | 終了ガイダンス 1     | 終了ガイダンス 1 を編集します。   |
| 50 | 終了ガイダンス 2     | 終了ガイダンス 2 を編集します。   |
| 51 | 実行時の状態        | 実行時の状態【0:ウィンドウ表示、1:最小化、2:タスクトレイ、3:非表示】を指定します。                             |
| 52 | 表示位置          | 表示位置【0:中央、1:左上、2:左下、3:右上、4:右下】を指定します。                                     |
| 53 | 終了時の音         | 終了時のピープ音【0:終了通知音なし、1:終了通知音あり】を指定します。                                      |
| 54 | 終了表示時間        | 終了後のダイアログの表示時間を指定(0~999 秒)します。  |
| 55 | 伝送年月日の指定      | 伝送年月日【0:システム日付、1:任意の日付】を指定します。  |
| 56 | 伝送日付          | 伝送日付(YymmddHHMMSS)を編集します。   |
| 57 | 伝送日付チェック      | 回答電文で伝送日付のチェック【0:する、1:しない】を指定します。   |
| 58 | 終了情報の保存       | 終了情報の保存方法【0:上書き保存、1:追加保存】を指定します。  |
| 59 | 終了情報ファイル名     | 終了情報を格納するファイル名を指定します。   |
| 60 | トレース情報の取得     | トレース取得フラグを指定します。  |
| 61 | トレースファイル名     | トレース情報を格納するファイル名を指定します。   |
| 62 | 世代管理          | 世代管理数を指定します。(0~9999)  |
| 63 | 予約領域          | —   |

※ 実際の値を 16 進数に変換し、文字列で指定してください。(ユーティリティ上での設定と同様)

## 第 11 章 状態遷移表

---

この章では、本製品の状態遷移表を記載しています。

本製品の状態遷移は、「全銀協手順通信プロトコル—TCP/IP 手順」より抜粋 [P.186-187] した動作となります。

### 11.1 状態遷移表 (全銀協手順通信プロトコル-TCP/IP 手順より抜粋[P.186-187])

| 状態       | 受信電文                    | 通信制御電文  |  |   | ファイル制御電文   |   |  | データ電文                                  |
|----------|-------------------------|---|--|---|--|---|--|--|
|          |                         | P1  | P2                                       | P3  | P4   | P5  | P6   | P7                                     |
|          |                         | 閉局回答電文  | 閉局回答電文                                   | 開始回答電文  | 終了回答電文   | 再送要求電文  | 終了要求電文   | データ電文                                  |
| 通信制御電文   | S1<br>閉局要求電文送信後<br>応答待ち | ・開始要求電文送信 ⇒ S3<br>・障害回復後(照会モード)再送<br>要求電文送信 ⇒ S5<br>・項目エラーの場合、回線切断<br>[項目エラー] | ・回線切断[障害]                                | 同左  | 同左   | 同左  | 同左   | 同左                                     |
|          | S2<br>閉局要求電文送信後<br>応答待ち | ・回線切断[障害]   | ・回線切断[通信終了]<br>・項目エラーの場合、回線切断<br>[項目エラー] | ・回線切断[障害]   | 同左   | 同左  | 同左   | 同左                                     |
| ファイル制御電文 | S3<br>開始要求電文送信後<br>応答待ち | ・回線切断[障害]   | 同左                                       | □照会モード<br>・ファイルあり ⇒ S6<br>・ファイルなし<br>閉局要求電文送信 ⇒ S2<br>□連絡モード<br>・データ電文送信後終了要求<br>電文送信 ⇒ S4<br>□項目エラーの場合<br>・回線切断[項目エラー] | 回線切断[障害]   | ・該当再送データ電文送信および<br>終了要求電文送信 ⇒ S4<br>・項目エラーの場合、回線切断<br>[項目エラー] | 回線切断[障害]   | 同左                                     |
|          | S4<br>終了要求電文送信後<br>応答待ち | ・回線切断[障害]   | 同左                                       | 同左  | □ファイル伝送終了<br>・閉局要求電文送信 ⇒ S2<br>・項目エラーの場合、回線切断[項目<br>エラー] | 回線切断[障害]  | 同左   | 同左                                     |
|          | S5<br>再送要求電文送信後<br>応答待ち | ・回線切断[障害]   | 同左                                       | 同左  | 同左   | 同左  | 同左   | ・STORE ⇒ S6<br>・該当再送データ電文でない場合回線切断[障害] |
|          | S6<br>データ電文待ち           | ・回線切断[障害]   | 同左                                       | 同左  | 同左   | 同左  | □ファイル伝送終了<br>・終了回答電文送信後閉局要<br>求電文送信 ⇒ S2<br>□項目エラーの場合<br>・終了回答電文送信後(処<br>理結果"NG")回線切断(項目<br>エラー) | ・STORE ⇒ S6                            |

## 付録A 全銀協標準通信プロトコル —TCP/IP 手順の概要—

---

本付録は「全銀協標準通信プロトコル —TCP/IP 手順—」より抜粋したものです。  
詳細は「全銀協標準通信プロトコル —TCP/IP 手順—」を参照してください。

## I. 総論

---

### 1. はじめに

( 省略 )

### 2. 通信プロトコルの標準化

( 省略 )

### 3. 仕様概要

### 3. 仕様概要

#### (1)仕様構成

本仕様は、全銀協プロトコルに従うホスト-ホスト間及びホスト-PC 間データ伝送を、TCP/IP 上で実現する場合の伝送制御手順を定めるものである。

本仕様は以下の5仕様からなる。

- ・ネットワーク基準
- ・通信制御(TCP/IP)仕様
- ・通信制御(サブレイヤ)仕様
- ・電文制御仕様
- ・フォーマット仕様
- ・通信制御(サブレイヤ)オプション仕様
- ・補足

全銀協標準通信プロトコル(TCP/IP 手順)のプロトコル構成を以下に示す。図に示すとおり、TCP/IP と機能制御レイヤの間にサブレイヤを新設した。このため本仕様書では、伝送制御仕様を通信制御(サブレイヤ)、通信制御(TCP/IP)に章を分けて記述している。

**全銀協標準通信プロトコル(ベーシック手順)とのレイヤ比較**

| OSI<br>基本参照モデル | 全銀協標準通信プロトコル(ベーシック手順) |   |      | 全銀協標準通信プロトコル(TCP/IP 手順) |  |
|----------------|-----------------------|---|------|-------------------------|--|
|                | レイヤ                   | 機能  | 制御区分 | レイヤ                     | 機能   |
| 7. アプリケーション    | アプリケーション              | ・再送要求<br>・運用管理<br>・列信管理<br>・データ圧縮処理                   | 電文制御 | 同左                      |  |
| 6. プレゼンテーション   | 機能制御                  | ・通信制御<br>・通信開始／<br>終了の制御<br>・ファイル伝送／<br>アクセス<br>・通番管理 |      |                         |  |
| 5. セッション       |                       |   |      |                         |  |
| 4. トランスポート     | 通信制御                  | ・データ順序制御<br>・ブロッキング／デ<br>ブロッキング(ETB)<br>・誤り制御         | 伝送制御 | 通信制御<br>(サブレイヤ)         | ・ストリーム制御<br>・送達管理  |
|                |                       |   |      | 通信制御<br>(TCP)           | ・コネクション設定／<br>維持/解放<br>・誤り訂正<br>・データ順序制御<br>・セグメント再送<br>・フロー制御<br>・コネクション多重化 |
| 3. ネットワーク      |                       |   |      | 通信制御(IP)                | ・データの配送  |
| 2. データリンク      | データリンク制御              | ・データリンク設定／<br>維持/解放<br>・データの送受信                       |      | データリンク制御                | ・データリンク設定／<br>維持/解放<br>・IP アドレス割当<br>・(接続時認証)                                |
| 1. フィジカル       | 回線                    | ・電氣的、物理的<br>条件  |      | 回線                      |  |

### ①ネットワーク基準

データリンク制御レイヤおよび回線レイヤに関する規定事項を記述した。全銀協標準通信プロトコル(ベーシック手順)の「適用回線仕様」にあたる内容も含まれる。

### ②通信制御(TCP/IP)仕様

TCP/IP 上で全銀協標準通信プロトコルによる通信を行う上での規定事項を記述した。

### ③通信制御(サブレイヤ)仕様

本レイヤは、全銀協標準通信プロトコル(ベーシック手順)の電文制御を TCP/IP 上で実現するために、ベーシック手順とのインターフェースの差異を吸収する目的で新設したプロトコルレイヤである。

### ④電文制御仕様

電文制御については、全銀協標準通信プロトコル(ベーシック手順)の仕様を踏襲するが、一部ベーシック手順に依存する記述を TCP/IP に合わせた。これにより電文制御自身の仕様が変わることはない。

### ⑤フォーマット仕様

フォーマット仕様については、全銀協標準通信プロトコル(ベーシック手順)の仕様を踏襲するが、一部ベーシック手順に依存する記述を TCP/IP に合わせた。また、後述の「(3)ベーシック手順との相違点」に述べるベーシック手順との相違点によりテキストの形態を見直した。



## (2) ベーシック手順仕様書との比較

ベーシック手順仕様書との仕様構成の比較を以下に示す。変更のない章・項についてはベーシック手順の規定と同じである。

### ベーシック手順仕様書との比較

| 仕様構成     |                | ①全銀協標準通信プロトコル |                    | ②全銀協 PC 用標準通信プロトコル | 補記          |
|----------|----------------|---------------|--------------------|--------------------|-------------|
| 章        | 項              | ーベーシック手順ー     | 対 PC 接続仕様ーベーシック手順ー | ーベーシック手順ー          |             |
| 制御仕様     | 伝送制御手順仕様       | 新規制定          | 新規制定               | 新規制定               | TCP/IP 適用   |
|          | 電文制御手順仕様       | 一部変更          | 一部変更               | 一部変更               | データリンクシーケンス |
|          | アプリケーション制御手順仕様 | (規約なし)        | 変更なし               | 変更なし               |             |
| フォーマット仕様 | 伝送データ・フォーマット   | 一部変更          | 一部変更               | 一部変更               | テキスト形態 他    |
| コード体系仕様  |                | 変更なし          | 変更なし               | 変更なし               |             |
| データ圧縮仕様  |                | 変更なし          | 変更なし               | 変更なし               |             |

(正式名称)

- ①「全銀協標準通信プロトコル ーベーシック手順ー」  
および「全銀協標準通信プロトコル対パーソナル・コンピュータ接続仕様 ーベーシック手順ー」
- ②「全銀協パーソナル・コンピュータ用標準通信プロトコル ーベーシック手順ー」

## (3) ベーシック手順仕様との相違点

TCP/IP 化に伴い、以下の点について仕様を変更した。

### ①伝送ブロック

下位層における通信はデータの区切りのないストリーム伝送となる為、ベーシック手順における伝送ブロックはなくなった。

### ②タイマーの簡略化

ベーシック手順におけるタイマーおよびカウンタ規定はなくなり、TCP/IP 手順においては、無通信タイマーのみとした。

### ③一般公衆電話網使用時におけるテキスト長の拡張

現在普及しているモデムの通信速度、タイマー値の制限等の制約が事実上なくなったため、一般公衆電話網におけるテキスト長を 256 バイトから拡張し、現行ベーシック手順との下位層互換の観点から 2,048 バイトとした。

## Ⅱ. ネットワーク基準

---

### 1. 適用回線仕様

---

#### (1) 適用回線

一般公衆電話網または ISDN(回線交換)上における、ダイヤルアップ接続での全二重通信を前提とする。

#### (2) 接続条件

モデム・TA 規格等を含めた接続条件については、予め通信両者間で取り決めておく。

#### (3) 回線の接続と切断

##### ① 回線の接続

ホスト-PC 接続の場合は、PC 側からダイヤリングする。ホスト-ホスト接続の場合は、ネットワーク形態や運用形態に応じて、通信を行う両者間で予め取り決めておく。

##### ② 回線の切断

TCP コネクション解放後に回線を切断する。また通信する両者のいずれからも回線を切断できる。回線の切断は TCP コネクション解放後一定時間の無通信監視か、或いは回線切断指示を行うことにより切断する。

### 2. データリンク仕様

---

PPP(Point-to-Point Protocol)により、データリンクを確立／維持する。

PPP 仕様については RFC1661, RFC1332(IPCP)に準拠する。

### 3. 接続時認証

---

接続時の認証は PPP レベルにおいて行うことができる。利用するか否か、また利用する時の方式は予め通信を行う両者間で合意のうえ取り決めておく。

### Ⅲ. 通信制御(TCP/IP)仕様

---

#### 1. TCP(Transmission Control Protocol)

---

##### (1)仕様基準

TCPの仕様に関しては、RFC793(STD7)に準拠する。仕様の詳細に関しては同ドキュメントを参照のこと。

##### (2)ポート番号

###### ①TCPコネクション要求側

TCPコネクション要求側のポート番号は、任意とする。

TCPコネクション要求側はTCPコネクション要求時、相手ポート番号に5020を指定する。

###### ②TCPコネクション応答側

TCPコネクション応答側はポート番号5020でTCPコネクションの要求を待つ。

##### (3)コネクション解放

###### ①正常解放フェーズ

通信の正常終了後は、TCPコネクションを要求した側が解放を要求し、解放する。

###### ②強制解放フェーズ

通信を行うどちらの側からでも、障害発生時は直ちにTCPコネクションを解放できる。

#### 2. IP(Internet Protocol)

---

##### (1)仕様基準

IPの仕様に関しては、RFC791(STD5)に準拠する。仕様の詳細に関しては同ドキュメントを参照のこと。

##### (2)IPアドレス

IPアドレスは、グローバルアドレスまたはプライベートアドレスを使用する。プライベートIPアドレスを使用する場合は、Ⅷ章補足に定めるプライベートIPアドレス運用基準に従って運用する。

### Ⅳ. 通信制御(サブレイヤ)仕様

( 省略 )

### Ⅴ. 電文制御仕様

( 省略 )

### Ⅵ. フォーマット仕様

( 省略 )

### Ⅶ. 通信制御(サブレイヤ)オプション仕様

( 省略 )

### 1. プライベート IP アドレス運用基準

---

#### (1) プライベート IP アドレス運用の考え方

一般にプライベート IP アドレスを利用する場合、そのアドレス管理は個々のネットワーク管理者に任されている。従ってプライベート IP アドレスを使って外部との通信を行うためには、アドレス衝突を避けるためにも一定のルールが必要である。本基準では以下の考え方に基づいて定めている。

- ここで定めるプライベート IP アドレス運用基準は、「銀行-企業間・銀行-銀行間で全銀協標準通信プロトコル TCP/IP 手順 – を使ったピアツーピアのデータ伝送」を行う場合に限った基準である。
- 各銀行が適切なアドレスを容易に選択できるように銀行コードをネットワークアドレスとし、予め一定数のプライベート IP アドレスを各銀行に割り当てる。
- 各銀行は、割り当てられたプライベート IP アドレスを以下の目的で使用する。
  - ↳ 自行のホストに静的に割り当てる。
  - ↳ 外部ホスト・PC が、自行のホストにダイヤルアップ接続する際、動的に割り当てる。
- プライベート IP アドレスの各銀行への割当範囲に関しては、全国銀行協会連合会（以下、全銀協）で一元的に管理し、各範囲内のアドレス管理は各銀行で行う。
- 企業が銀行ホストとの接続に動的割り当てを利用できない場合（企業ホストの制約、銀行の起呼の通信など）、全銀協からその企業固有のプライベート IP アドレスを割り当てる。この手続きは別に定める。
- 本基準は一般的なプライベート IP アドレスの利用を制限するものではない。従って利用者の管理において全銀協の割り当てたアドレスを前述以外の目的で使用するについては制限しない。ただし、前述以外の目的に転用する場合は、あくまで当該アドレスの利用者の責任において行うこととする。

## (2)プライベート IP アドレスの運用

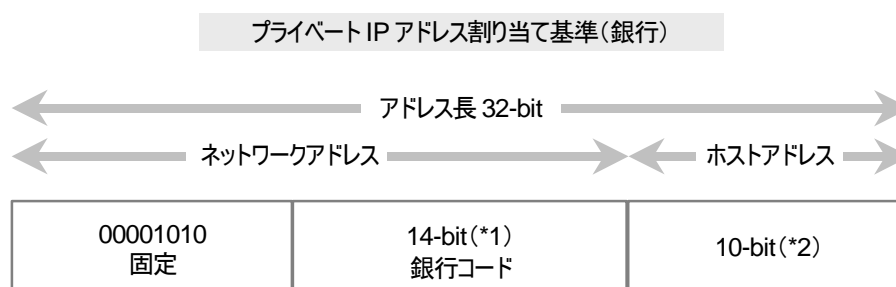
プライベート IP アドレスを下表のように区分する。

### プライベート IP アドレスの区分

| アドレスタイプ | アドレス範囲                        | アドレス数          | 用途        |
|---------|-------------------------------|----------------|-----------|
| クラス A   | 10.0.0.0 ~ 10.156.63.255      | 1024 × 10000 個 | 初期割り当て    |
|         | 10.156.64.0 ~ 10.239.255.255  | 1024 × 5360 個  | 全銀協予約     |
|         | 10.240.0.0 ~ 10.255.255.255   | 1048576 個      | 企業個別割り当て  |
| クラス B   | 172.16.0.0 ~ 172.31.255.255   | 16 × 65536 個   | 閉域ネットワーク用 |
| クラス C   | 192.168.0.0 ~ 192.168.255.255 | 256 × 256 個    |           |

#### A. 初期割り当て(10.0.0.0~10.156.63.255)

予め各銀行には使用できるプライベート IP アドレスを以下の基準で割り当てた。各銀行は下図の(\*1)のエリアに自行の銀行コード(4 桁)をバイナリで表現し、下図の(\*2)のエリアで表される 1024 個のアドレスを、各行の管理においてホストに接続する企業への動的割り当てに使用する。なお、銀行はこの初期割り当ての中から自行のアドレスに静的に割り当てることもできる。(注)



(注)実際には、最初と最後のアドレスは特別な意味を持つため、残りの 1022 個を使用する。

#### B. 全銀協予約(10.156.64.0~10.239.255.255)

全銀協予約アドレスは、初期割り当て分が不足した銀行への追加割り当てに使用する。全銀協予約アドレスは全銀協が管理し、銀行の申請により 1024 個単位に割り当てを行う。

また、銀行以外の組織でも、銀行に関連する業務を行うホストや銀行に対してサービスを提供するホストを持ち、本手順による接続にプライベート IP アドレスが必要な場合には、全銀協予約アドレスを申請できる。

#### C. 企業個別割り当て(10.240.0.0~10.255.255.255)

企業ホストが固定のアドレスを持つ必要がある(動的割り当てに未対応など)場合、企業は接続する銀行を通して、全銀協に個別アドレスの割り当てを受ける。割り当てられたアドレスは本手順を使った銀行との通信に利用する。

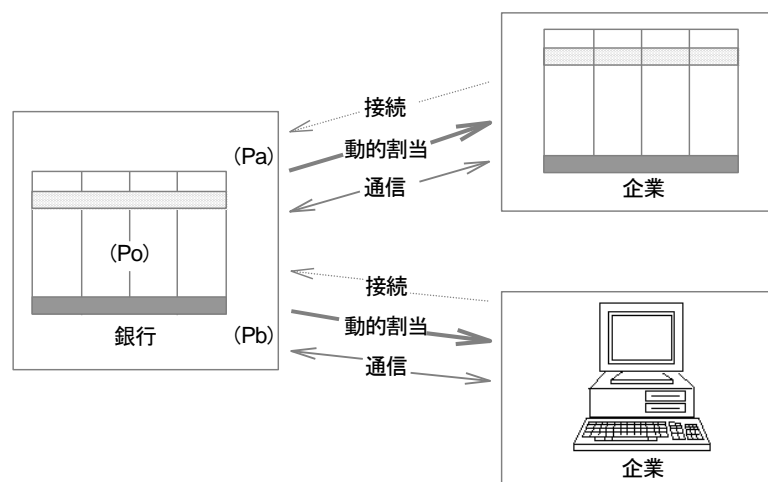
#### D. 閉域ネットワーク用(クラス B・C)

IP コネクションが完全に閉じたネットワークシステム(接続する全てのホスト・PC が外部ホストと IP 接続しない)の場合は、ネットワーク内でクラス B およびクラス C のプライベートアドレスを使用してもよい。

### (3) プライベート IP アドレスの適用例

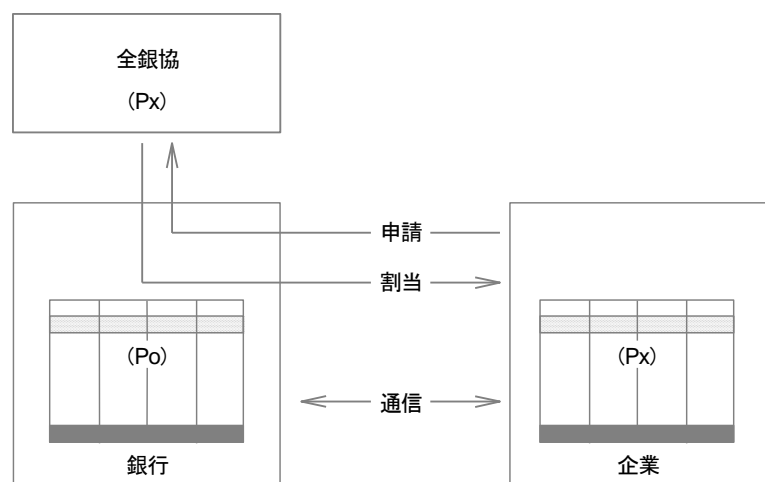
#### A. 動的割り当て

銀行側ホストは、接続してきた企業に対して初期割り当て分から動的に割り当てる(Pa,Pb)。割り当てられたアドレス(Pa,Pb)は当該通信中のみ有効である。なお銀行は、自行のアドレス初期割り当て分(Po)を静的に使用することもできる。



#### B. 静的割り当て

企業は全銀協から割り当てられた個別のアドレス(Px)を使用する。



### Ⅹ. 解釈集

( 省略 )

### 参考…ベーシック手順仕様書の抜粋

( 省略 )

## 付録B コード表

---

## B.1 JIS8コード表

| L \ H | 0   | 1   | 2  | 3 | 4 | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | A | B | C | D | E | F |
|-------|-----|-----|----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0     | NUL | DLE | SP | 0 | @ | P | ` | p   |   |   |   | ー | タ | ミ |   |   |
| 1     | SOH | DC1 | !  | 1 | A | Q | a | q   |   |   | 。 | ア | チ | ム |   |   |
| 2     | STX | DC2 | "  | 2 | B | R | b | r   |   |   | 「 | イ | ツ | メ |   |   |
| 3     | ETX | DC3 | #  | 3 | C | S | c | s   |   |   | 」 | ウ | テ | モ |   |   |
| 4     | EOT | DC4 | \$ | 4 | D | T | d | t   |   |   | , | エ | ト | ヤ |   |   |
| 5     | ENQ | NAK | %  | 5 | E | U | e | u   |   |   | ・ | オ | ナ | ユ |   |   |
| 6     | ACK | SYN | &  | 6 | F | V | f | v   |   |   | ヲ | カ | ニ | ヨ |   |   |
| 7     | BEL | ETB | '  | 7 | G | W | g | w   |   |   | ア | キ | ヌ | ラ |   |   |
| 8     | BS  | CAN | (  | 8 | H | X | h | x   |   |   | イ | ク | ネ | リ |   |   |
| 9     | HT  | EM  | )  | 9 | I | Y | i | y   |   |   | ウ | ケ | ノ | ル |   |   |
| A     | LF  | SUB | *  | : | J | Z | j | z   |   |   | エ | コ | ハ | レ |   |   |
| B     | VT  | ESC | +  | ; | K | [ | k | {   |   |   | オ | サ | ヒ | ロ |   |   |
| C     | FF  | FS  | ,  | < | L | ¥ | l |     |   |   | ヤ | シ | フ | ワ |   |   |
| D     | CR  | GS  | -  | = | M | ] | m | }   |   |   | ユ | ス | ヘ | ン |   |   |
| E     | SO  | RS  | .  | > | N | ^ | n | ~   |   |   | ヨ | セ | ホ | ゝ |   |   |
| F     | SI  | US  | /  | ? | O | _ | o | DEL |   |   | ツ | ソ | マ | 。 |   |   |



## B.2 EBCDICコード表

| L \ H | 0   | 1   | 2   | 3   | 4  | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | A | B | C | D | E | F |
|-------|-----|-----|-----|-----|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0     | NUL | DLE |     |     | SP | & | - |   |   | ソ |   |   |   |   |   | 0 |
| 1     | SOH |     |     |     |    |   | / |   | ア | タ |   |   | A | J |   | 1 |
| 2     | STX |     |     | SYN |    |   |   |   | イ | チ | ハ |   | B | K | S | 2 |
| 3     | ETX |     |     |     |    |   |   |   | ウ | ツ | ホ |   | C | L | T | 3 |
| 4     |     |     |     |     |    |   |   |   | エ | テ | マ |   | D | M | U | 4 |
| 5     | HT  | NL  | LF  |     |    |   |   |   | オ | ト | ミ |   | E | N | V | 5 |
| 6     |     | BS  | ETB |     |    |   |   |   | カ | ナ | ム |   | F | O | W | 6 |
| 7     | DEL |     | ESC | EOT |    |   |   |   | キ | ニ | メ |   | G | P | X | 7 |
| 8     |     | CAN |     |     |    |   |   |   | ク | ヌ | モ |   | H | Q | Y | 8 |
| 9     |     | EM  |     |     |    |   |   |   | ケ | ネ | ヤ |   | I | R | Z | 9 |
| A     |     |     |     |     | [  | ] |   | : | コ | ノ | ユ | レ |   |   |   |   |
| B     | VT  |     |     |     | .  | ¥ | · | # |   |   |   | ロ |   |   |   |   |
| C     | FF  | FS  |     |     | <  | * | % | @ | サ |   | ヨ | ワ |   |   |   |   |
| D     | CR  | GS  | ENQ | NAK | (  | ) | _ | ' | シ | ハ | ラ | ン |   |   |   |   |
| E     |     | RS  | ACK |     | +  | ; | > | = | ス | ヒ | リ | ゝ |   |   |   |   |
| F     |     | US  | BEL | SUB |    | ┘ | ? | ” | セ | フ | ル | 。 |   |   |   |   |

### B.3 JIS8→EBCDIC 変換対応表

| L \ H | 0         | 1         | 2        | 3       | 4       | 5       | 6       | 7         | 8         | 9         | A        | B       | C       | D       | E         | F         |
|-------|-----------|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|----------|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 0     | NUL<br>00 | DLE<br>10 | SP<br>40 | 0<br>F0 | @<br>7C | P<br>D7 | `<br>79 | p<br>D7   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | SP<br>40 | -<br>58 | タ<br>91 | ミ<br>A5 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 1     | SOH<br>01 | DC1<br>11 | !<br>5A  | 1<br>F1 | A<br>C1 | Q<br>D8 | a<br>C1 | q<br>D8   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 。<br>41  | ア<br>81 | チ<br>92 | ム<br>A6 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 2     | STX<br>02 | DC2<br>12 | "<br>7F  | 2<br>F2 | B<br>C2 | R<br>D9 | b<br>C2 | r<br>D9   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 「<br>42  | イ<br>82 | ツ<br>93 | メ<br>A7 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 3     | ETX<br>03 | DC3<br>13 | #<br>7B  | 3<br>F3 | C<br>C3 | S<br>E2 | c<br>C3 | s<br>E2   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 」<br>43  | ウ<br>83 | テ<br>94 | モ<br>A8 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 4     | EOT<br>37 | DC4<br>3C | \$<br>E0 | 4<br>F4 | D<br>C4 | T<br>E3 | d<br>C4 | t<br>E3   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 、<br>44  | エ<br>84 | ト<br>95 | ヤ<br>A9 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 5     | ENQ<br>2D | NAK<br>3D | %<br>6C  | 5<br>F5 | E<br>C5 | U<br>E4 | e<br>C5 | u<br>E4   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ・<br>45  | オ<br>85 | ナ<br>96 | ユ<br>AA | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 6     | ACK<br>2E | SYN<br>32 | &<br>50  | 6<br>F6 | F<br>C6 | V<br>E5 | f<br>C6 | v<br>E5   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ヲ<br>46  | カ<br>86 | ニ<br>97 | ヨ<br>AC | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 7     | BEL<br>2F | ETB<br>26 | '<br>7D  | 7<br>F7 | G<br>C7 | W<br>E6 | g<br>C7 | w<br>E6   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ア<br>47  | キ<br>87 | ヌ<br>98 | ラ<br>AD | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 8     | BS<br>16  | CAN<br>18 | (<br>4D  | 8<br>F8 | H<br>C8 | X<br>E7 | h<br>C8 | x<br>E7   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | イ<br>48  | ク<br>88 | ネ<br>99 | リ<br>AE | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| 9     | HT<br>05  | EM<br>19  | )<br>5D  | 9<br>F9 | I<br>C9 | Y<br>E8 | I<br>C9 | y<br>E8   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ウ<br>49  | ケ<br>89 | ノ<br>9A | ル<br>AF | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| A     | LF<br>15  | SUB<br>3F | *<br>5C  | :<br>7A | J<br>D1 | Z<br>E9 | j<br>D1 | z<br>E9   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | エ<br>51  | コ<br>8A | ハ<br>9D | レ<br>BA | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| B     | VT<br>0B  | ESC<br>27 | +<br>4E  | ;<br>5E | K<br>D2 | [<br>4A | k<br>D2 | {<br>C0   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | オ<br>52  | サ<br>8C | ヒ<br>9E | ロ<br>BB | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| C     | FF<br>0C  | FS<br>22  | ,<br>6B  | <<br>4C | L<br>D3 | ¥<br>5B | l<br>D3 | <br>4F    | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ヤ<br>53  | シ<br>8D | フ<br>9F | ワ<br>BC | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| D     | CR<br>0D  | GS<br>1D  | -<br>60  | =<br>7E | M<br>D4 | ]<br>5A | m<br>D4 | }<br>D0   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ユ<br>54  | ス<br>8E | ヘ<br>A2 | ン<br>BD | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| E     | SO<br>0E  | RS<br>1E  | .<br>4B  | ><br>6E | N<br>D5 | ^<br>5F | n<br>D5 | ~<br>A1   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ヨ<br>55  | セ<br>8F | ホ<br>A3 | 。<br>BE | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| F     | SI<br>0F  | US<br>1F  | /<br>61  | ?<br>6F | O<br>D6 | _<br>6D | o<br>D6 | DEL<br>07 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ツ<br>56  | ソ<br>90 | マ<br>A4 | 。<br>BF | NUL<br>00 | NUL<br>FF |

注 1: 英小文字は英大文字に変換されます。

## B.4 EBCDIC→JIS8 変換対応表

| L \ H | 0         | 1         | 2         | 3         | 4        | 5         | 6         | 7         | 8         | 9         | A         | B         | C         | D         | E         | F         |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 0     | NUL<br>00 | DLE<br>10 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | SP<br>20 | &<br>26   | -<br>2D   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ソ<br>BF   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | {<br>7B   | }<br>7D   | \$<br>24  | 0<br>30   |
| 1     | SOH<br>01 | DC1<br>11 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 。<br>A1  | エ<br>AA   | /<br>2F   | NUL<br>00 | ア<br>B1   | タ<br>C0   | ~<br>7E   | NUL<br>00 | A<br>41   | J<br>4A   | NUL<br>00 | 1<br>31   |
| 2     | STX<br>02 | DC2<br>12 | FS<br>1C  | SYN<br>16 | 「<br>A2  | オ<br>AB   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | イ<br>B2   | チ<br>C1   | ^<br>CD   | NUL<br>00 | B<br>42   | K<br>4B   | S<br>53   | 2<br>32   |
| 3     | ETX<br>03 | DC3<br>13 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 」<br>A3  | ヤ<br>AC   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ウ<br>B3   | ツ<br>C2   | ホ<br>CE   | NUL<br>00 | C<br>43   | L<br>4C   | T<br>54   | 3<br>33   |
| 4     | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | 、<br>A4  | ユ<br>AD   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | エ<br>B4   | テ<br>C3   | マ<br>CF   | NUL<br>00 | D<br>44   | M<br>4D   | U<br>55   | 4<br>34   |
| 5     | HT<br>09  | NL<br>0A  | LF<br>0A  | RS<br>1E  | ・<br>A5  | ヨ<br>AE   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | オ<br>B5   | ト<br>C4   | ミ<br>D0   | NUL<br>00 | E<br>45   | N<br>4E   | V<br>56   | 5<br>35   |
| 6     | NUL<br>00 | BS<br>08  | ETB<br>17 | NUL<br>00 | ヲ<br>A6  | ツ<br>AF   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | カ<br>B6   | ナ<br>C5   | ム<br>D1   | NUL<br>00 | F<br>46   | O<br>4F   | W<br>57   | 6<br>36   |
| 7     | DEL<br>7F | NUL<br>00 | ESC<br>1B | EOT<br>04 | ア<br>A7  | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | キ<br>B7   | ニ<br>C6   | メ<br>D2   | NUL<br>00 | G<br>47   | P<br>50   | X<br>58   | 7<br>37   |
| 8     | NUL<br>00 | CAN<br>18 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | イ<br>A8  | -<br>B0   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ク<br>B8   | ヌ<br>C7   | モ<br>D3   | NUL<br>00 | H<br>48   | Q<br>51   | Y<br>59   | 8<br>38   |
| 9     | NUL<br>00 | EM<br>19  | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ウ<br>A9  | NUL<br>00 | NUL<br>00 | `<br>60   | ケ<br>B9   | ネ<br>C8   | ヤ<br>D4   | NUL<br>00 | I<br>49   | R<br>52   | Z<br>5A   | 9<br>39   |
| A     | LF<br>0A  | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | [<br>5B  | !<br>21   | <br>7C    | :<br>3A   | コ<br>BA   | ノ<br>C9   | ユ<br>D5   | レ<br>DA   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| B     | VT<br>0B  | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | ・<br>2E  | ¥<br>5C   | ,<br>2C   | #<br>23   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | □<br>DB   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| C     | FF<br>0C  | NUL<br>00 | NUL<br>00 | DC4<br>14 | <<br>3C  | *<br>2A   | %<br>25   | @<br>40   | サ<br>BB   | NUL<br>00 | ヨ<br>D6   | ワ<br>DC   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| D     | CR<br>0D  | GS<br>1D  | ENQ<br>05 | NAK<br>15 | (<br>28  | )<br>29   | _<br>5F   | '<br>27   | シ<br>BC   | ハ<br>CA   | ラ<br>D7   | ン<br>DD   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| E     | SO<br>0E  | RS<br>1E  | ACK<br>06 | NUL<br>00 | +<br>2B  | ;<br>3B   | ><br>3E   | =<br>3D   | ス<br>BD   | ヒ<br>CB   | リ<br>D8   | ^<br>DE   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |
| F     | SI<br>0F  | US<br>1F  | BEL<br>07 | SUB<br>1A | <br>7C   | ^<br>5E   | ?<br>3F   | "<br>22   | セ<br>BE   | フ<br>CC   | ル<br>D9   | 。<br>DF   | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 | NUL<br>00 |

部: 全銀準拠外にコード変換されるコードです。

## B.5 コード変換プログラム

### (1) メイン画面

コード変換プログラム(ZCNV32.EXE)を起動すると、以下のような画面が表示されます。

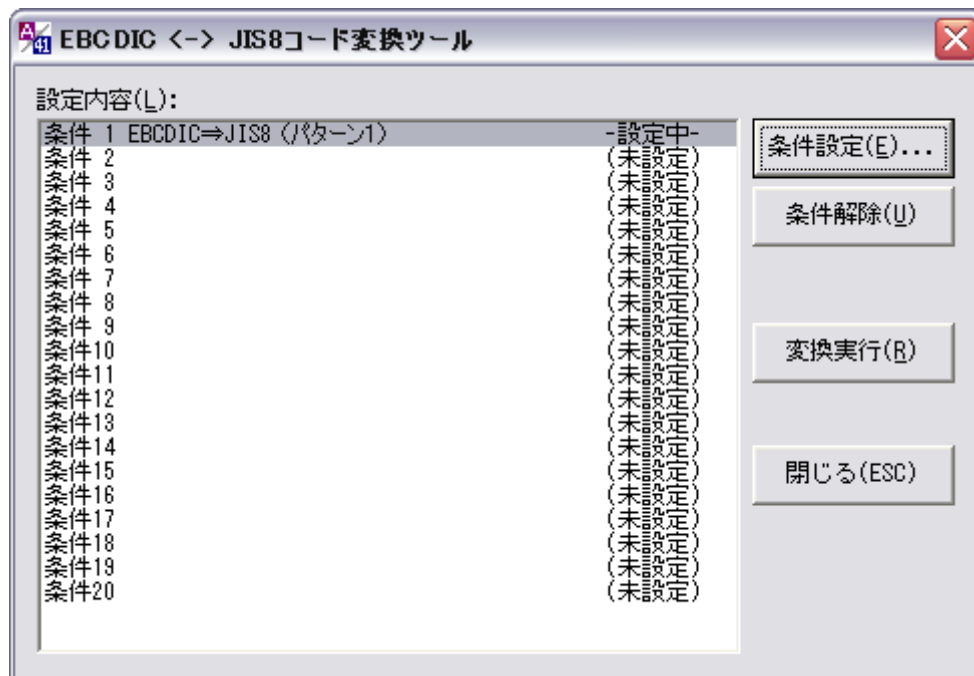


図 B.1 メイン画面

- **条件設定(E)...** ..... 条件を編集します。(最大 20 件まで設定できます)
- **条件解除(U)** ..... 設定してある条件を解除します。
- **変換実行(R)** ..... 選択している条件を実行します。
- **閉じる(ESC)** ..... プログラムを終了します。

## (2)条件の設定

メイン画面より条件設定ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。

|              |                     |          |
|--------------|---------------------|----------|
| 条件方法(C):     | EBCDIC => JIS8へ変換する |          |
| 条件名称(N):     | パターン1               |          |
| 変換元ファイル名(E): | C:\ZGNTOP\EBC.dat   | 参照(A)... |
| 変換先ファイル名(I): | C:\ZGNTOP\JIS.dat   | 参照(B)... |
| 変換パターン(P):   | そのまま変換する            |          |
| レコード長(R):    | 256                 |          |

図 B.2 条件の編集画面

- 条件方法 ..... EBCDIC=>JIS8 への変換か、JIS8=>EBCDIC への変換の何れかを選択します。
- 条件名称 ..... この条件の名称を設定します。
- 変換元ファイル名 ..... 変換前のファイル名を指定します。
- 変換先ファイル名 ..... 変換先のファイル名を指定します。
- 変換パターン ..... ・EBCDIC=>JIS8 の変換を指定する場合は、  
「そのまま変換する」または、「レコード長毎に改行コード(CR+LF)を付加する」の何れかを選択できます。  
・JIS8=>EBCDIC の変換を指定する場合は、  
「そのまま変換する」または、「改行コード(CR+LF)を全て省く」の何れかを選択できます。
- レコード長 ..... 変換元のレコード長を指定します。
- **設定(S)** ..... 編集した条件を設定します。
- **取消(ESC)** ..... 条件の編集画面を閉じます。

### (3)コマンドラインからの起動

本プログラムをコマンドラインから起動し、既に登録済みの条件をバッチ処理することができます。

#### ■設定してある全条件を実行

パラメータに『/r』を指定した場合、設定してある全条件を実行します。

全条件を実行する場合 【C:¥ZGNTCP¥ZCNV32.EXE /R】

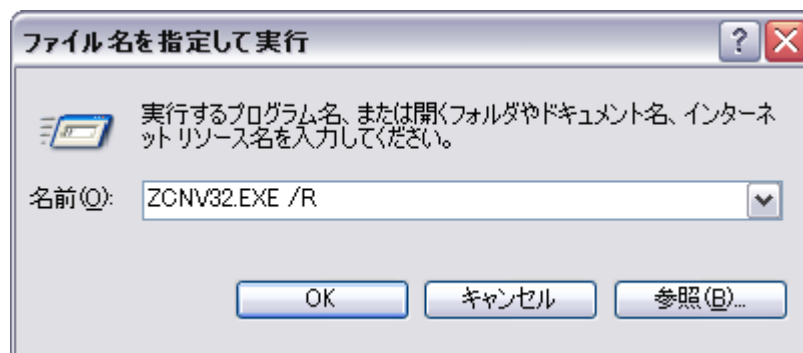


図 B.3 全条件を実行する場合のバッチ処理実行指定画面

#### ■条件を指定して実行

パラメータに『/c』を指定した場合、第二引数に実行したい条件番号を2桁(前ゼロ)で指定します。

条件1を実行する場合 【C:¥ZGNTCP¥ZCNV32.EXE /C 01】

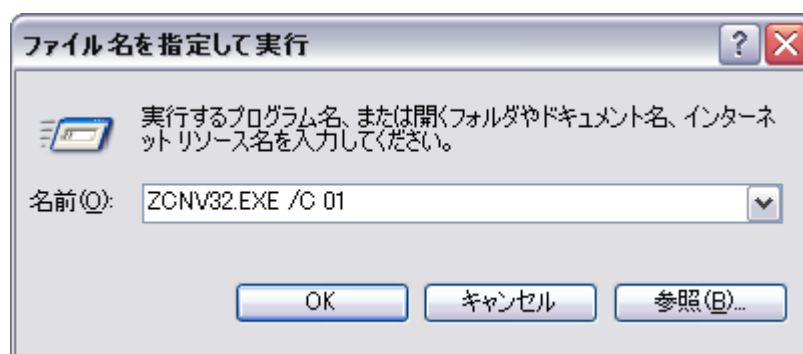


図 B.4 条件を指定して実行する場合のバッチ処理実行指定画面

※ パラメータ指定が間違っている場合、通常起動します。

# 付録C 制限値

---

## C.1 制限値

---

本製品を使用するにあたって以下の制限があります。

| 項目                      | 制限値                   |
|-------------------------|-----------------------|
| 登録名称設定件数                | 5000 件(100 グループ×50 件) |
| 終了情報表示件数                | 5000 件                |
| 最大伝送テキストサイズ(TTC ヘッダを含む) | 32768 バイト             |

また、本製品は以下の機能をサポートしています。

| 機能                      | サポート有無   |
|-------------------------|--|
| 対象 OS                   | Windows XP／2003／Vista／2008／7<br>※64bitOS には対応していません。 |
| 起動側(発信機能)               | ○  |
| 応答側(着信機能)               | ×  |
| 複数ファイル転送                | ×  |
| モード変更                   | ×  |
| 圧縮機能                    | ○  |
| TTC の設定(パソコン手順／ベーシック手順) | ○  |
| 可変長レコード                 | ○  |
| 2K バイト超(最大テキスト長)        | ○(32768 バイト)   |
| 高速化オプション(連続受信回数)        | ○  |



## 付録D 補足

---

## D.1 可変長レコードを設定した場合の生成されるテキストとレコード

連絡(送信)時、可変長レコードを設定した場合、全銀二次局は 1 テキストに格納できる最大のレコード長(最大伝送テキスト長 - TTC サイズ(5 バイト) - レコード長格納エリアサイズ(2 バイト))でレコードを生成します。

ただし、デリミタ編集を行う場合、デリミタを抜き取ったところで 1 レコードとします。

このときの各条件において生成される伝送テキストとレコードについて以下に示します。

### (1) デリミタ編集なしで、圧縮しない場合

テキストの始め TTC 部(5 バイト)の後にレコード長格納エリア(2 バイト)を設け、そこにレコード長を格納します。生成されるレコードのレコード長は最大伝送テキスト長 - TTC サイズ(5 バイト) - レコード長格納エリアサイズ(2 バイト)になり、1 テキスト 1 レコードとなります。

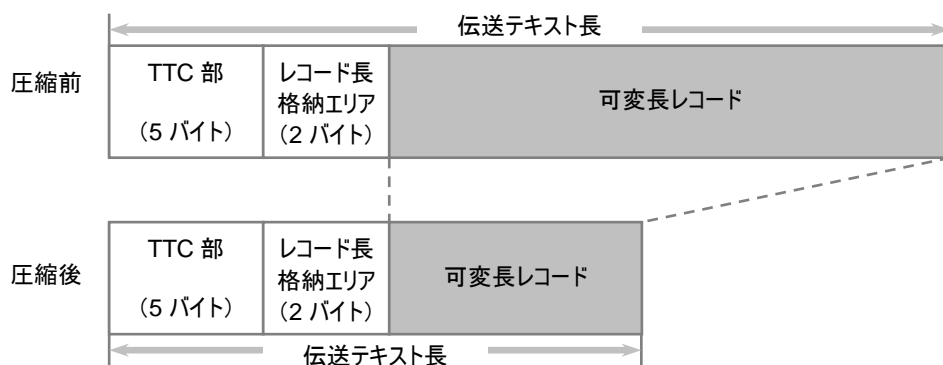
レコード長は常に一定となりますが、ファイルの終わりではデータがレコード長に足りない分レコードは小さくなり、blankを追加しません。



### (2) デリミタ編集なしで、圧縮する場合

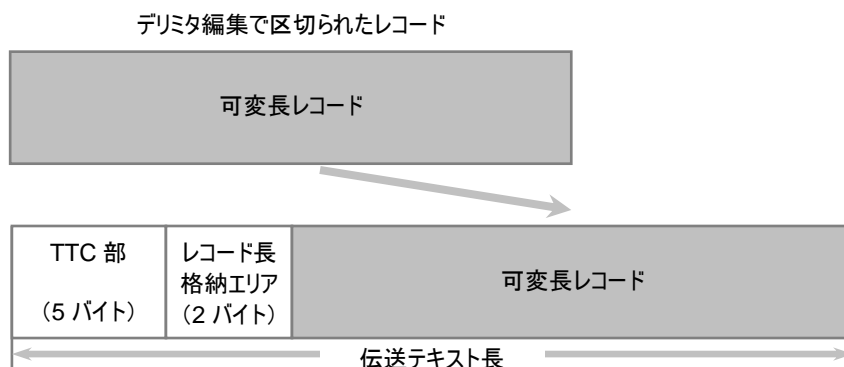
可変長の伝送テキストを圧縮する場合、始めに可変長レコードを作成し、その後レコードとレコード長格納エリアを合わせて圧縮を行います。

レコード長格納エリアに格納されるレコード長は(1)デリミタ編集なしで、圧縮しない場合と同様になります。



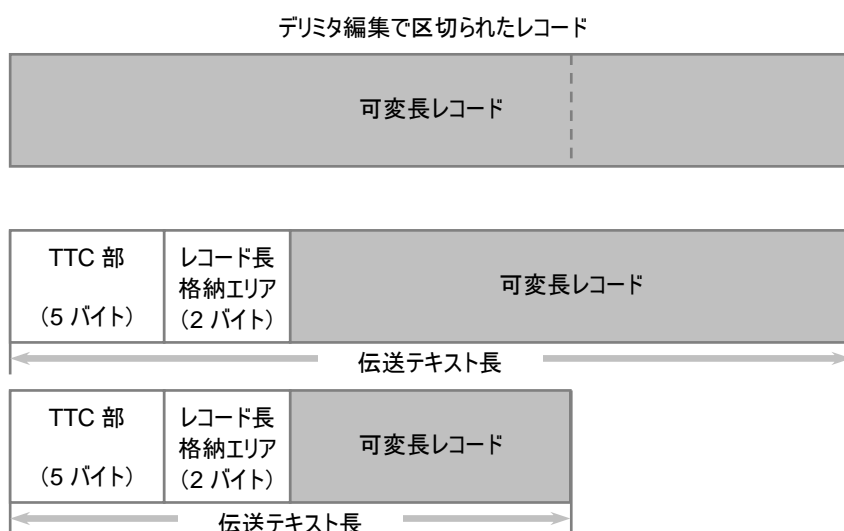
**(3) デリミタ編集あり※でブロッキングしない時、区切られたレコードの長さが最大伝送レコード長以内の場合**

デリミタ編集で区切られたレコードの長さが最大伝送レコード長（最大伝送テキスト長 - TTC サイズ(5 バイト) - レコード長格納エリアサイズ(2 バイト)）以内の場合、区切られたレコード長分で、可変長レコードを作成します。その可変長レコード長と TTC サイズ(5 バイト)とレコード長格納エリアサイズ(2 バイト)を合わせた長さが伝送テキスト長になります。



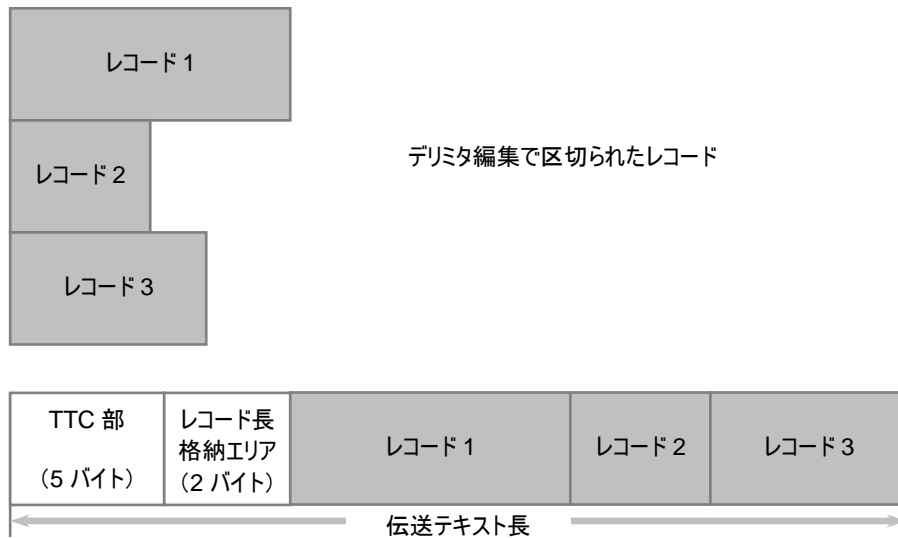
**(4) デリミタ編集あり※でブロッキングしない時、区切られたレコードの長さが最大伝送レコード長を超える場合**

デリミタ編集で区切られたレコードの長さが最大伝送レコード長（最大伝送テキスト長 - TTC サイズ(5 バイト) - レコード長格納エリアサイズ(2 バイト)）を超える場合、テキスト内に収まる大きさの 2 つ以上のレコードに区切られ、次のテキストで余りのレコード分を格納します。  
この場合、レコードが分割されたことは受信側では判別できない為、受信側でデリミタ編集を行うと関係のない所でデリミタが追加されてしまいます。



**(5) デリミタ編集あり※でブロッキングする時、区切られたレコードの長さが最大伝送レコード長以内の場合**

デリミタ編集で区切られたレコードを伝送テキストに収められるだけブロッキングして格納します。レコードが残りのスペースに収められなかったときは、次のテキストに繰越して格納されます。



**(6) デリミタ編集あり※でブロッキングする時、区切られたレコードの長さが最大伝送レコード長を超える場合**

この場合ブロッキングの意味が無くなりますので、(4)と同じ結果になります。

※デリミタ編集ありとは、連絡時に CR、CR+LF、LF 抜取りを指します。(EOF 抜取りは含みません)。

## 付録E 外部設定ファイル

---

## E.1 外部設定ファイル(ZTCPENV.INI)

---

Windows のシステムディレクトリ(例:Windows/System)に以下のファイル名で INI ファイルを作成することで次の機能が有効になります。

(1)ファイル名.....ZTCPENV.INI

(2)機能

- TTCサイクルカウントリセット値設定..... TTCサイクルカウントが「65535」を超えた場合に、「0」にリセットするか、「1」にリセットするかを変更できます。(デフォルトは「1」)

(3)設定内容

```
[環境変数]
TTC_RESET_NO=N
```

■N

- 0 : TTC カウントを「0」にリセット
- 1 : TTC カウントを「1」にリセット

日立ソリューションズ

<http://www.hitachi-solutions.co.jp/>